

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第142集

かみ しな の かに かわ い せき
上品野蟹川遺跡

2008

財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團
愛知県埋蔵文化財センター

序

瀬戸市の北東部に広がる通称、品野盆地には、縄文時代から近世まで数多くの遺跡が分布しています。現在は多治見や中津川方面へ抜ける国道の分岐があり、また古くは信州方面へ抜けるルート、「中馬街道」が通っていたことからもわかるように交通の要衝でもあります。

この辺りの奈良・平安時代の集落の発掘調査では、これまでにも墨で文字の書かれた墨書き資料が度々見つかっています。「文字」に接することが限られていた時代に品野地域の人々がどのような形で文字と接していたのか、どのような特殊な場所であったのか、多くの疑問がまだまだ残されています。こうした埋蔵文化財の調査成果が、地域の文化・歴史研究を深めていくための資料として活用していただければ幸いです。

この度の発掘調査の実施にあたり、関係者並びに関係諸機関の多大なる御協力をいただきました。

ここに厚く御礼を申しあげます。

平成20年3月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 林 良三

例 言

1. 本書は愛知県瀬戸上品野町に所在する上品野蟹川遺跡（かみしなのかにかわいせき：県遺跡番号 030737）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国道 363 号道路改良工事に伴う事前調査として、県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査面積は計 10,359 m² である。
3. 発掘調査は平成 11～14 年度にかけて、合計 4 次に亘り実施した。また、整理および報告書作成作業は平成 18 年 4 月から 9 月にかけて実施した。
4. 現地における発掘調査は、北村和宏（主査：現愛知県埋蔵文化財調査センター）・服部信博（主査：現一宮興道高等学校教諭）・藤岡幹根（主査：現小牧市一色小学校教諭）・酒井俊彦（主査）・魚住英史（調査研究員：現瀬戸市品野台小学校教諭）・宇佐見守（調査研究員）・木川正夫（調査研究員：現岡崎高等学校教諭）・武部真木（調査研究員）が担当して行った。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、瀬戸市教育委員会、（財）瀬戸市文化振興財团埋蔵文化財センター、瀬戸市歴史民俗資料館、県建設部道路建設課をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆は、鬼頭剛・川添和暉・武部真木が分担し、編集は武部が行った。
7. 整理作業は武部が担当した。作業にあたっては下記の方々、関係機関の助力を得た。
服部里美、山田有美子（以上整理作業員）、アイシン精機株式会社、中日本航空株式会社
8. 本書に示す座標数値は座標数値は国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。ただし表記は旧測地系（日本測地系）とした。
9. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理事を行った。
10. 写真および図面などの調査に関わる記録類は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
(財) 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町西方 802-24 (0567-67-4161)
11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町西方 802-24 (0567-67-4164)
12. 本書を作成するにあたり、下記の多くの方々から多大なご指導とご助言を得た。
記して感謝したい。（敬称略）
岡本直久、尾野善裕、金子健一、橋嶋彰一、福岡猛志、藤澤良祐、山下峰司

目次

第1章 調査の概要

1	調査の経緯・経過	(武部)	1
2	上品野蟹川遺跡周辺の地形・地質	(鬼頭)	3
3	遺跡の概要	(武部)	5
	上品野蟹川遺跡の位置と周辺遺跡		
	品野盆地の遺跡分布		
	上品野蟹川遺跡のこれまでの調査		

第2章 遺構

1	調査範囲の概要	(武部)	10
2	基本層序	(武部)	10
3	蟹川右岸域	(武部)	12
4	蟹川左岸域	(武部)	20

第3章 出土遺物

1	出土状況の概要と時期区分	(武部)	29
2	遺構出土の土器・陶器	(武部)	29
3	包含層出土の土器・陶器	(武部)	34
4	木製品	(武部)	50
5	金属製品・石製品	(武部)	57
6	石器	(川添)	57

第4章 総括

(武部) 64

付表

　登録遺物（土器・陶磁器類）一覧表

図版

　遺構図版

　写真図版

付録 CD-ROM 内容

　報告集 PDF

　登録遺構一覧表

　登録遺物一覧表

　出土地点情報

図版目次

- 写真図版 1 1.2,3,4- 調査前風景 (99.00.01 区周辺)
5,6,7- 遺跡周辺遠景
- 写真図版 2 8-01A 区全景 (NR01) 東から
9-01B 区全景 東から
10-01Ca 区全貌 (NR03) 東から
11-01Ca 区縄層露出部分
12-00B 区全景 (NR01) 東から
13-01Cb 区全景 (NR01,03) 南から
14-01Cb 区近景 (NR01,03) 南から
15-01D 区全景 (NR02) 北から
- 写真図版 3 16-02B 区東半全景 西から
17- 自然木集中地点
18-02B 区西半全景 南から
19- 個別検出状況 東から
20-01A 区溝状落込み (SD01) 完掘状況
21-01B 区北壁土層断面
- 写真図版 4 22-99 区全景 北から
23-00A 区遠景 南西から
24-00A 区全景 北から
25-00A 区部分 東から
- 写真図版 5 26,27,28- 穴穴建物 (01A 区 SB01) 検出状況
29- 穴穴建物 (01A 区 SB01) 完掘状況
30-00A 区土坑 (SK53) 遺物出土状況
31-00A 区土坑 (SK53) 土層断面
- 写真図版 6 32,33,34- 穴穴建物カマド部分 (00A 区 SB01)
35-01Ca 区土坑 (SK01) 上層集石検出状況
36-01Ca 区土坑 (SK01) 下層遺物出土状況
37-01Ca 区土坑 (SK01) 完掘状況
- 写真図版 7 38-00A 区土坑 (SK107) 遺物出土状況
39-00A 区土坑 (SK109) 遺物出土状況
40-00A 区土坑 (SK125) 遺物出土状況
41-00A 区土坑 (SK48) 遺物出土状況
42-99 区土師器甕出土状況
43-01Cb 区河川流路 (NR01,03) 完掘状況
44-01Cb 区河川流路 (NR03) 木質遺物集中地点

- 45-01Cb 区河川流路（NRO1）出土木製品
写真図版 8 46.47-01B 区河川流路（NRO1）出土鉄礫
48-00B 区河川流路出土 灰釉陶器平瓶
49-01Cb 区河川流路（NRO1）出土 木製品
50-01Cb 区河川流路出土 「文室門」墨書き須恵器
51-01Ca 区河川流路出土 墨書き灰釉陶器椀
52-01Ca 区河川流路出土 古瀬戸平碗
53-02B 区河川流路出土 自然木加工痕
写真図版 9 54- 表土掘削
55.56.57.58- 作業風景
59.60- 遺跡見学会
61-「文室門」墨書き灰釉陶器
写真図版 10 出土遺物（須恵器・土師器）
写真図版 11 出土遺物（墨書き須恵器・灰釉陶器）
写真図版 12 出土遺物（墨書き灰釉陶器・灰釉陶器皿）
写真図版 13 出土遺物（灰釉陶器椀・水注）
写真図版 14 出土遺物（灰釉陶器椀・山茶碗）
写真図版 15 出土遺物（山茶碗・陶器）
写真図版 16 出土遺物（山茶碗小皿・磨製石斧）
写真図版 17 出土遺物（石器 1 石礫・石核・スクレイバー類）
写真図版 18 出土遺物（石器 2 薄片類）

挿図目次

図 1 愛知県瀬戸市の位置	1
図 2 調査区位置図 (S=1/4,000)	2
図 3 瀬戸市の地形・地質	3
図 4 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)	7
図 5 蟹川右岸域 基本層序模式図	11
図 6 調査区の配置と土層断面図の位置	12
図 7 OOA 区 SB01 遺物出土状態・カマド断面図 (S=1/30)	14
図 8 OOA 区 SB01 平面・断面図 (S=1/30)	15
図 9 OOA 区 SK53・01Ca 区 SK01 (S=1/30)	16
図 10 OOA・OOC 区主要遺構図 (S=1/200)	17
図 11 OOA 区 SK48・104・107・109・125 (S=1/20)	18
図 12 01A 区南北ベルト土層断面図 (S=1/80)	21
図 13 99 区南北ベルト土層断面図 (S=1/80)	22
図 14 01B 区東西ベルト土層断面図 (S=1/80)	23
図 15 01Ca 区北壁土層断面図 (S=1/80)	24
図 16 OOA 区西壁土層断面図 (S=1/80)	25
図 17 02C 区南壁土層断面図 (S=1/80)	26
図 18 02Bb 区南壁土層断面図 (S=1/80)	27
図 19 02Bc 区南壁土層断面図 (S=1/80)	28
図 20 遺構出土の土器・陶器 1 (S=1/3)	30
図 21 遺構出土の土器・陶器 2 (S=1/3)	31
図 22 遺構出土の土器・陶器 3 (S=1/3)	33
図 23 包含層出土の土器・陶器 1 (古代 S=1/3)	35
図 24 包含層出土の土器・陶器 2 (古代 S=1/3)	37
図 25 包含層出土の土器・陶器 3 (古代 S=1/3)	38
図 26 包含層出土の土器・陶器 4 (古代 S=1/3)	39
図 27 包含層出土の土器・陶器 5 (古代 S=1/3)	40
図 28 包含層出土の土器・陶器 6 (古代 S=1/3)	41
図 29 包含層出土の土器・陶器 7 (古代 S=1/3)	42
図 30 包含層出土の土器・陶器 8 (中世 S=1/3)	45
図 31 包含層出土の土器・陶器 9 (中世 S=1/3)	46
図 32 包含層出土の土器・陶器 10 (中世 S=1/3)	47
図 33 包含層出土の土器・陶器 11 (中世 S=1/3)	48
図 34 包含層出土の土器・陶器 12 (古代, 中世 S=1/3)	49
図 35 磁器・その他の土器・陶器 (S=1/3)	51
図 36 繩文土器 (S=1/2)・土師器 (S=1/3)	51

図 37 木製品 1 (S=1/3)	52
図 38 木製品 2 (S=1/3)	53
図 39 木製品 3 (S=1/2)	54
図 40 木製品 4 (S=1/3)	55
図 41 践貨 (S=1/1)・石製品 (S=1/3)	57
図 42 石器 1 (S=2/3)	60
図 43 石器 2 (S=2/3)	61
図 44 石器 3 (S=2/3)	62
図 45 石器 4 (S=2/3)	63
図 46 上品野蟹川遺跡出土の古代墨書資料 (遺物 S=1/6)	65
図 47 推定される河川流路 (S=1/3,000)	68

挿表目次

表 1 調査の工程	2
表 2 周辺遺跡一覧	6
表 3 穴室建物 00A 区 SB01 出土炭化材の樹種同定結果	20
表 4 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定結果	34
表 5 木製品の樹種	56
表 6 木製品の放射性炭素年代測定結果	56
表 7 出土石器一覧表	59

第1章 調査の概要

1 調査の経緯・経過

遺跡の所在する瀬戸市は、愛知県北部の中央寄りに位置し、岐阜県と県境を接している（図1）。

上品野蟹川遺跡（遺跡番号 030737）は、瀬戸市街北東部にかけて広がる、通称、品野盆地の東端に位置している。標高 180m 前後の平坦な遺跡一帯は、主に耕作地（水田・畠）として利用されており、丘陵部を流れる現在の水野川と支流の蟹川がこの遺跡の東方で合流している。丘陵を開析して北東から南西へ流れる水野川に沿って国道 363 号が通り、かつて名古屋と信濃方面とを結んだ重要なルートであった中馬街道がここを通っている。

この遺跡範囲内の南側では、（財）瀬戸市埋蔵文化財センターによって平成 7,10 年度に発掘調査が行われ、縄文時代から中世の遺物を含む旧河川跡が検出され、上流域から周辺に集落の存在が推定されている。

今回の調査は、国道 363 号の道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県土木部（当時、現建設部）道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、（財）愛知県教育サービスセンター 愛知県

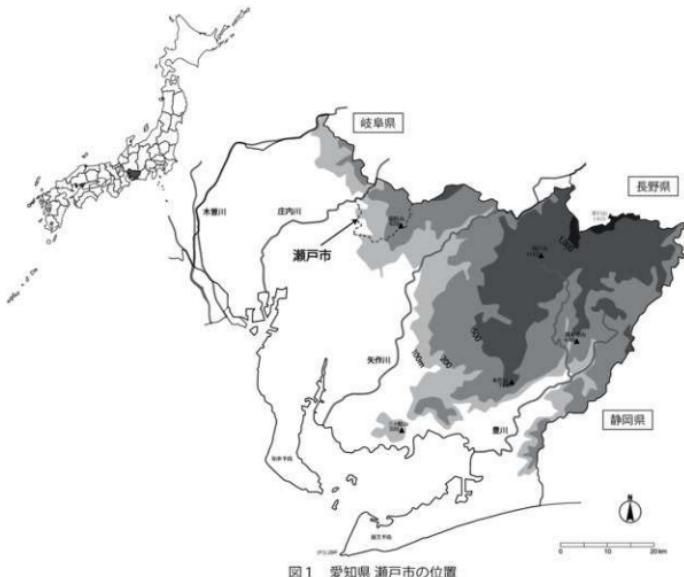


図1 愛知県瀬戸市の位置

埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。調査は平成 11～14 年度にかけての期間で合計 4 次に亘り、面積にして計 10,359 m² の範囲について行った。調査の工程、および調査担当者は表 1 に示す通りである。

整理作業、および報告書執筆は平成 18 年度中に行った。執筆は鬼頭 剛・川添和暉・武部真木が分担し、武部が編集を行った。

遺構図の整理・図版作成については、(株)中日本航空に委託して行った。また、遺物実測・図版トレースの一部については、(株)シン技術コンサル、(株)アイシン精機に委託して行った。その他の遺物実測及び図版トレース、復元、収納作業等は、当センター整理作業員が行った。

なお、測量図および写真等の調査に関する記録類は、(財)愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センターが、出土遺物等については愛知県埋蔵文化財調査センターが管理・保管している。

表 1 調査の行程

調査年度	調査期間												調査面積（平米）	調査担当者
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1999（平成11）													1,000	北村和宏・宇佐見 守・魚住英史
2000（平成12）													2,000	北村和宏・宇佐見 守・鈴木達也・早野浩二
2001（平成13）													5,500	船部信博・木川正夫・武部真木
2002（平成14）													1,809	藤岡幹根・酒井俊彦
													合計	10,309

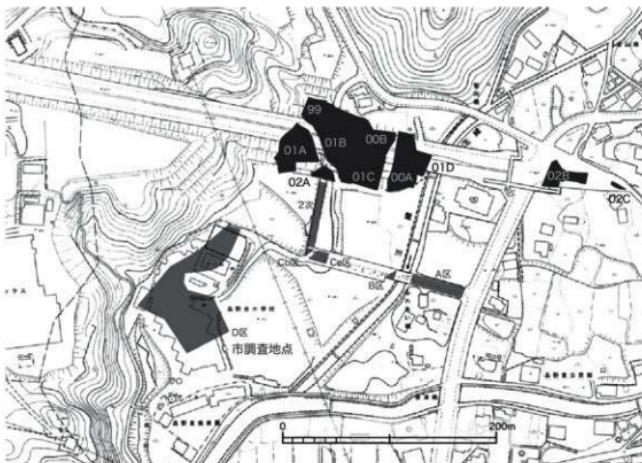


図 2 調査区位置図 (S=1/4,000)

平成 18 年都市計画図を使用、うすいトーンは (財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査地点

2 上品野蟹川遺跡周辺の地形・地質

上品野蟹川遺跡は名古屋市の北東部にある愛知県瀬戸市にあり、丘陵地や山地の広がる場所である。調査地点の南東約6kmには標高629mの猿投山が、東へ約5kmには標高701mの三國山が連なる。猿投山と三國山とを結ぶ南北方向にのびる山陵は、名古屋市を流れる主要な河川である庄内川や矢田川の分水嶺にある。この猿投山と三國山とを結ぶ山陵はさらに南西の知多半島にまでびており、猿投・知多上昇帯とよばれる第四紀を通じて隆起運動が続いた地域として知られている（桑原、1968）。調査地点のある瀬戸市上品野町は庄内川の上流部にあたり、調査地の南には庄内川の最上流部にあたる水野川が流れる。水野川は約4.4km東方にある猿投山・三國山の山麓付近から西方へ流下し、調査地点から西約7kmで蛇ヶ洞川と合流する。合流後は庄内川と名称を変えて伊勢湾へとそぞぐ。

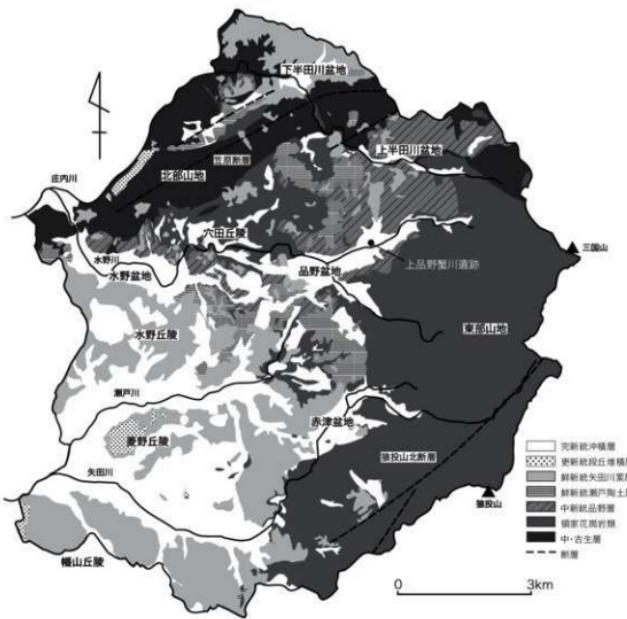


図3 瀬戸市の地形・地質

（水野ほか 1986「瀬戸市史」資料編二自然、および愛知県 1997「愛知県活断層アトラス」を引用一部改変）

地質学的にみると、愛知県には三河湾（渥美湾）にそぐ豊川付近を通り、長野県の諏訪湖にかけて北東・南西方向にのびる中央構造線がある。中央構造線で分けられる太平洋側を外帶（三波川帯・秩父帯・四万十帯）、陸側を内帯（領家帯・美濃帯）とよぶ。瀬戸市域には内帯が広がり、美濃帯の中・古生層（近藤、1988）と中生代白亜紀～新生代古第三紀の領家帯の花こう岩類（仲井、1970；領家研究グループ、1972；Nakai, 1976；仲井, 1982）を基盤岩として、それらを新生代第三紀中新世後期から第四紀更新世、完新世の堆積物が覆っている。上品野蟹川遺跡のある瀬戸市上品野町周辺は新第三系中新統の品野層からなる丘陵地がひろがる（図3）。瀬戸市全域の地形は西部で標高が低く、東部へ向かい次第に高くなる傾向を示す。瀬戸市域には基盤岩類に囲まれた盆地状構造を示す地形が認められ、盆地は南から赤津・品野・水野・上半田川・下半田川と呼称される場合もある（水野ほか、1986）。それらのうち調査地点は品野盆地にあたり、瀬戸市片草町から白岩町を通り、上品野町・中品野町・品野町に至る北東・南西方向に延びた盆地状構造を呈している。盆地底は標高約180mの堆積範囲の狭長な谷底平野を形成しており、調査地点は完新統からなる盆地底と新第三系中新統である品野層がつくる丘陵地との境界付近にあたっている。

（鬼頭 剛）

【文献】

- 愛知県, 1997. 愛知県活断層アトラス、愛知県防災会議地震部会, 83p.
近藤直門, 1988. 多治見地域、日本の地質 5 中部地方 II, 共立出版, 45-46.
桑原徹, 1968. 濁尾盆地と頗動地塊運動、第四紀研究, 7, 235-247.
水野収・伊藤竹次・深見洋治郎・片征治・石川輝海, 1986. I 大地、瀬戸市史 資料編二 自然、瀬戸市, 1-100.
仲井 豊, 1970. 愛知県三河地方の花崗岩類、地球科学, 24, 139-145.
Nakai, Y., 1976. Petrographical and petrochemical studies of the Ryoke granites in the Mikawa-Tono district, central Japan. Bull. Aichi Univ. Educ., (Nat. Sci.), 25, 97-112.
仲井 豊, 1982. 中部地方領家帯の武節花崗岩、日本地質学会第 89 年学術大会講演要旨, 404.
領家研究グループ, 1972. 中部地方領家帯の花崗岩類の相互関係、地球科学, 26, 1-21.

3 遺跡の概要

<上品野蟹川遺跡の位置と周辺遺跡>（表2、図4）

品野盆地の北東部にあたり、「上品野蟹川遺跡」は蟹川と水野川の合流点を含む沖積地のうち、水野川によって画された北側一帯をさす。すぐ左岸は中世～近世遺物の散布がみられる上品野向橋南遺跡となる。この沖積地を抱む南と東側にあたる丘陵部には古墳～平安時代の建物跡が検出された上品野遺跡、14～15世紀の施釉陶器を焼成した中洞窯跡などがある。また、遺跡北東の丘陵上には、戦国期の山城とされる桑下城跡と同時期に操業した桑下東窯跡があり、この麓には中世から近世にかけての集落跡とされる西金地遺跡が展開する。水野川に沿って信濃方面に向かう旧街道（中馬街道、現国道363号付近）が通り、対岸となる南側丘陵にも戦国期の山城である品野城跡、そして近世以降の新製焼窯跡（磁器窯）の分布などが確認されている。

近年、品野地域の各地で発掘調査が行われたことによって、新たな資料が提示されてきている。調査継続中・報告書整理途中の遺跡も含まれるが、ここでは現段階での概要として、集落（生産遺跡を除く）に関する資料についてまとめておきたい。

<品野盆地の遺跡分布>

品野盆地で最も古い資料は、上品野遺跡で検出された後期旧石器時代の石器群である。丘陵地形の「谷状地形」で発見された台形様石器（2点）、「上面平坦部」でナイフ形石器（1点）ほかチャートを主たる石材として利用した石器は、現在のところ県内でも（包含層出土資料として）最古の資料と位置付けられている。品野盆地西端に位置する品野西遺跡では縄文草創期に遡る資料として、有舌尖頭器、木葉形尖頭器、尖頭器状石器、打製石斧、ノッチ、搔器、先刃搔器、薄片が一括りの組成の石器群として確認されたほか、土器は縄文早中期葉から晩期前半にかけてのものがみられ、断続的ながらも周辺が生活域として利用されたことが窺われる。

弥生時代の資料は瀬戸市域全体でみても少なく、なお不明な部分が多い。明確な遺構は検出されていないが、上品野蟹川遺跡では前期の条痕土器、上品野遺跡では前期遠賀川系と中期の土器、品野西遺跡では少量ながら中期の土器が出土している。

古墳時代前期の集落については、落合橋南遺跡で検出された竪穴住居跡のほか、上品野遺跡でも竪穴住居跡5棟と土坑が検出されるなど新たな資料が加えられた。このうち1棟は内部に炭化した建築部材が残り、「焼失家屋」と考えられる。後期の群集墳は天白古墳群など主に品野盆地西部に分布が認められるが、蟹川流域では確認されていない。

瀬戸市域は、古代には尾張国山田郡に属するとされる。発掘調査による成果では品野盆地では奈良時代末から平安時代にかけて集落に関連する資料が一気に増加するようであり、この時期より開発が活発化したと考えられている。

上品野遺跡では、平成8.10年の調査地点で8世紀後半の竪穴住居1棟、掘立柱建物5棟、溝、土坑などが確認されるなど、南面する丘陵部に展開した集落の一端が明らかにされた。居住域は溝により区画される部分があり、この溝から良好な状態で多くの灰釉陶器碗、皿類、文字資料（墨書き灰釉陶器）も多数出土している。昭和63年の市調査地点においては、8世紀の馬形や盞串などの木製品、「財万」ほか墨書きの灰釉陶器数点など、やや特殊な遺物が出土した。これらは古代の「官衙的」な祭祀との関連が窺われる一群であり、官衙に関連する建物跡などの遺構は認められないものの、古代に

表2 周辺遺跡一覧

no.	遺跡名	時期
1	上品野川遺跡	縄文～後世
2	上品野古墳群遺跡	古世～後世
3	小糸遺跡	縄文～古世
4	大糸遺跡	後生
5	上品野古跡	礎石部～近世
6	小糸古跡	縄文～後世
7	高下城跡	古世
8	内空跡	16世紀
9	高木遺跡	15世紀
10	下市遺跡	古世
11	上品野二ノ山遺跡	古世～中世
12	上品野三ノ山遺跡	古世～後世
13	高見遺跡	古世
14	吉井寺跡	古世
15	上品野完全古跡	古世～後世
16	上品野二ノ山遺跡	古世～後世
17	上品野一ノ山遺跡	古世～後世
18	上品野山古跡	15世紀
19	高城跡	15世紀
20	上品野山古跡	15世紀・山系網,施物陶器
21	子下山古跡	14～15世紀
22	高木山古跡	縄文～古世
23	小糸山遺跡	縄文～古世
24	高尾遺跡	古代～近世
25	山川山遺跡	古跡
26	斎藤西宮跡	古代・磁器
27	高室跡	14～15世紀
28	斎藤今宮跡	10世紀
29	斎藤今宮山遺跡	10世紀
30	高原朝日遺跡	縄文
31	安明山古跡	18～19世紀・陶器
32	安明山古跡	17～19世紀・陶器
33	安明山古跡	17～19世紀・陶器
34	安明山古跡	17～19世紀・陶器
35	八丁堀跡	16世紀
36	高野山古跡	15世紀
37	山崎城跡	古世
38	高合城跡	古世
39	高野町八日山空跡	19世紀・磁器
40	高合古跡	16世紀
41	高合山遺跡	縄文～後世
42	高野山古跡	縄文～後世
43	高合古跡	16世紀
44	天白山城	古跡
45	高田北ノ山空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
46	高田北ノ山空跡	13世紀・山系網
47	高田北ノ山空跡	13世紀・山系網,施物陶器
48	八丁堀二ノ谷空跡	12世紀・山系網,施物陶器
49	八丁堀山古跡	12世紀・山系網,施物陶器
50	八丁堀山古跡	12世紀・山系網,施物陶器
51	八丁堀11・12号古跡	12世紀・山系網,施物陶器
52	八丁堀13・14号古跡	12世紀・山系網,施物陶器
53	八丁堀18号古跡	15世紀
54	八丁堀21号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
55	八丁堀21号古跡	13世紀・山系網
56	阿久陀山城跡	古世
57	五位原山古跡	13世紀・山系網
58	五位原山城	古跡
59	五位原山遺跡	13世紀・山系網,施物陶器
60	五位原山空跡	12世紀・山系網,施物陶器
61	五位原山空跡	12世紀・山系網,施物陶器
62	五位原山空跡	12世紀・山系網,施物陶器
63	五位原山空跡	12世紀・山系網,施物陶器
64	五位原山空跡	12世紀・山系網,施物陶器
65	五位原1C空跡	13世紀・山系網,施物陶器
66	塙1・2号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
67	塙1号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
68	塙3号古跡	不明
69	塙45号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
70	塙5号古跡	13世紀・山系網
71	塙6号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
72	塙5号古跡	13世紀・山系網,施物陶器
73	馬ヶ城A空跡	13世紀・山系網,施物陶器
74	馬ヶ城B空跡	13世紀・山系網,施物陶器
75	馬ヶ城C空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
76	馬ヶ城D空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
77	針原山空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
no.	遺跡名	時期
78	高1松原遺跡・サカイ空跡	13～17世紀・山系網,施物陶器
79	高2城E空跡	13世紀・山系網,施物陶器
80	高3・4城D空跡	13世紀・山系網
81	高4・5空跡	13・15世紀・山系網,施物陶器
82	高5・6空跡	13世紀・山系網
83	高7・8空跡	17～19世紀・施物陶器
84	高8・9空跡	10世紀・山系網,施物陶器
85	高9・10山門空跡	17～19世紀・施物陶器
86	高10・11城E空跡	10世紀・山系網,施物陶器
87	高11・12城F空跡	13世紀・山系網,施物陶器
88	高12・13城G空跡	13世紀・山系網,施物陶器
89	高13・14城H空跡	13世紀・山系網,施物陶器
90	高14・15城I空跡	13・15世紀・山系網,施物陶器
91	高15・16城J空跡	13・14世紀・山系網,施物陶器
92	高16・17城K空跡	13・14世紀・山系網,施物陶器
93	大城C空跡	13・15世紀・山系網,施物陶器
94	大城D空跡	13・15世紀・山系網,施物陶器
95	大城E空跡	13世紀・山系網,施物陶器
96	梅山跡	13～15世紀・山系網,施物陶器
97	若原空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
98	高2城M空跡	古代
99	高3・4城N空跡	13世紀・山系網,施物陶器
100	高4・5城O空跡	18世紀
101	高5・6城P空跡	13世紀・山系網,施物陶器
102	高6・7城Q空跡	13世紀・山系網,施物陶器
103	高7・8城R空跡	13世紀・山系網,施物陶器
104	高8・9城S空跡	13・15世紀・山系網,施物陶器
105	高9・10城T空跡	13世紀・山系網,施物陶器
106	高9・11城U空跡	13～14・15世紀・山系網,施物陶器
107	城跡	古代
108	高11城V空跡	13世紀・多網,施物陶器
109	高12城W空跡	13～4世紀・山系網,施物陶器
110	高13城X空跡	13世紀・山系網,施物陶器
111	高14城Y空跡	14世紀
112	高15城Z空跡	13世紀・山系網,施物陶器
113	御室空跡	15世紀
114	高16・17城AA空跡	13～14世紀・山系網,施物陶器
115	高18・19城AB空跡	13世紀・山系網,施物陶器
116	高19・20城BC空跡	15世紀・山系網,施物陶器
117	高20城CD空跡	13世紀・山系網,施物陶器
118	高21池内西宮跡	13世紀・山系網,施物陶器
119	高22坂上空跡	13世紀・山系網
120	9・10・11号空跡	19世紀・施物陶器
121	9・10・14号空跡	19世紀・山系網,施物陶器
122	11号空跡	17世紀・施物陶器
123	12号空跡	14世紀・山系網
124	13号空跡	14世紀・山系網,施物陶器
125	14号空跡	14世紀・山系網,施物陶器
126	16号長良山空跡	14世紀・山系網,施物陶器
127	佛母山空跡	14世紀・山系網,施物陶器
128	8・9号山空跡	14世紀・山系網,施物陶器
129	10・11・12号山空跡	13世紀・山系網
130	13・14・15号山空跡	13世紀・山系網
131	16・17・18・19・20号山空跡	13～15世紀・山系網,施物陶器
132	21・22号山空跡	14世紀・山系網,施物陶器
133	23・24号山空跡	14世紀・山系網
134	25・26号山空跡	14世紀・山系網
135	27・28号山空跡	13～14世紀・山系網
136	29・30号山空跡	14世紀・山系網
137	30号山空跡	14世紀・山系網
138	31・32号山空跡	13世紀・山系網
139	33・34号山空跡	13世紀・山系網
140	35・36号山空跡	14世紀・山系網
141	37・38号山空跡	14世紀・山系網
142	39・40号山空跡	13世紀
143	41・42号山空跡	13世紀・山系網
144	43・44号山空跡	19世紀・陶器
145	45・46号山空跡	14世紀・山系網
146	47・48号山空跡	14世紀・山系網
147	49・50号山空跡	14世紀・山系網,施物陶器
148	51号山空跡	14世紀
149	52号山空跡	14世紀・山系網
150	北山B空跡	14世紀・山系網,施物陶器
151	北之川A遺跡	中世
152	上平田川空跡	古代・磁器
153	上平田川遺跡	中世・後世



図4 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

における品野盆地の位置づけを示す資料である。上品野蟹川遺跡でも比較的多くの文字資料（墨書灰釉陶器、10世紀）が得られており、廃棄の状況も含め祭祀行為との関連が想定されている。また、品野西遺跡では少量ながら古瓦が出土し、遺構は未確認であるが瓦葺き建物が存在したと考えられる。このうち軒平瓦の簾状重弧文は、7世紀中葉～後半に位置づけられる一宮市長福寺廐寺、名古屋市尾張元興寺のものに類似する。さらに8世紀代には大型の堅穴住居と廐付掘立柱建物で構成される集落が展開する。東渡・信濃への分岐点のある交通の要衝でもあり、遺跡は拠点的な集落の縁辺に含まれるものと想定されている。

中世の段階にも既に一大窯業地域であり、中世陶器は市内多くの箇所で採集されている。ただし品野盆地における集落の様相は未だ明らかでない部分が多い。落合橋南遺跡では掘立柱建物1棟、柵列4条、溝、小穴群が確認され、12世紀代に成立し13世紀まで続いた集落であることがわかった。品野西遺跡では、97基もの土坑と火葬施設が検出され、15世紀前半～16世紀前半にかけて営まれた墓域が確認された。出土遺物に窯道貝類が一定量含まれるという特徴がみられるが、窯業生産あるいは墓域を築造した集落との関係は不明である。

蟹川と水野川に挟まれた丘陵上には桑下城跡、桑下東窯跡があり、これらと水野川を挟んだ対岸の丘陵上に桑下城の跡地といわれる品野城跡が存在する。

記録によると、桑下城は応仁の乱以後に当地を支配するようになった長江氏の居城という。ここは美濃・尾張・三河の領域境に近いため16世紀には激しい勢力争いの場となった。享保2年（1529年）には松平清康に支配が移り、さらに永禄3年（1560年）桶狭間の戦いの前哨戦として織田信長の攻撃を受け消失、廃城になったとされている。平成16年度、この桑下城跡の丘陵最端部について発掘調査が行われ、曲輪と思われる平場数カ所が確認された。蓬左文庫所蔵の絵図によれば、調査地點は本丸および侍屋敷の西にあたる地點であり、柵張り図や試掘調査においても城の範囲決定が困難であった。調査の結果は從来の推定より大規模な城郭であった可能性を指摘するものであり、また遺構の残存状況が予想外に良好であることが判明した。発掘調査は今後も継続して行われる予定であり、さらなる調査・研究を経て総合的な評価が示されることになる。

一方品野城跡は、発掘調査は行われていないものの、土墻、虎口、横堀、堀切などの諸施設の痕跡をよく留めていることが知られている。建保年間（1213～1219年）の築造とされ、後には桑下城とはほぼ同様の命運を辿ったとみられる。

平成17年度には、桑下城跡に隣接する桑下東窯の調査が行われた。先行する調査で既に確認されている窯体のほか、操業期間や生産内容の詳細なデータが得られたことをはじめ、丘陵頂部に展開する無数のロクロピットや土坑、建物跡等で構成される工房址が検出された。近年、窯跡の調査において、窯体構造の解明に加え、周辺の景観の復元が重要な視点と考えられるようになりつつある。そうした意味でも今回の調査成果は、窯業生産の現場について、大規模かつ具体的に復元する資料が得られた注目すべき発見であり、正式の報告書刊行が待たれる。

<上品野蟹川遺跡のこれまでの調査>

平成7.10年度に（財）瀬戸市埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われている。調査地点は遺跡範囲の南西部にあたり（図2）、ここでは古墳時代後期の溝（2条）、旧流路（河川1、河川2）および杭列、側板、木樋を作らう中世段階の水路跡などが確認された。縄文後期～近世までの遺物が各

地点で多数検出され、このうち縄文時代の遺物は流路脇に水流により集積したとみられ、径7m程度の範囲に縄文後期および晩期の土器や炭化物の分布が集中した。その他の地点では晩期初頭、前葉の土器、弥生時代前期の条痕土器、スクレイバーや石器、無茎・有茎石鍬などの石器が出土している。古代では8、9世紀を中心とした時期の須恵器、土師器甕類などのほか、出土遺物全体では灰釉陶器が最も多く含まれ、9世紀代を中心とした平安時代にピークが認められる。ほとんどが包含層(河川流域)からの出土遺物であることから、上流部にこの時期の集落の存在が推定されている。河川性堆積層の上層には鎌倉・室町時代の陶器類が含まれる。村絵図により江戸時代には水田となっていたようであるが、流路の周辺で確認された水路遺構は中世段階のものと思われ、一帯の水田化の時期が中世に遡る可能性も考えられる。

【文献】

- 2005『瀬戸市史 資料編三』
瀬戸市教育委員会 1997『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』
岡本直久 1997『品野西遺跡』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第13集
松澤和人 1997『落合橋南遺跡I』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第14集
岡本直久・佐野 元 1998『上品野蟹川遺跡—品野台小学校移転に伴う発掘調査—』
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第16集
河合君近 1998『落合橋南遺跡II』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第17集
金子健一 1999『上品野蟹川遺跡II』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第21集
山下峰司 1990『上品野遺跡』瀬戸市教育委員会
川添和暉 2004『宇トゲ窓跡・中洞窓跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第124集
川添和暉 2005『上品野遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第132集
宇佐見 守 2000『上品野蟹川遺跡』平成11年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター
宇佐見 守 2001『上品野蟹川遺跡』平成12年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター
武部真木 2002『上品野蟹川遺跡』平成13年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター
酒井俊彦 2003『上品野蟹川遺跡』平成14年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター
種上 昇 2005『桑下城跡』平成16年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター
小野一弘・鶴岡雅典 2006『桑下東窓跡』平成17年度 年報』愛知県埋蔵文化財センター



上 品野城より上品野蟹川遺跡を望む
(遠方中央の直線道路付近が調査範囲)



右 調査前風景

第2章 遺構

1 調査範囲の概要

合計 10,359 m² という広い範囲について、11 調査区（99・00A・00B・01A・01B・01Cab・01D・02A・02B・02C）に分割し、平成 11 年度から 14 年度にかけて断続的に調査を行った（図 2、6）。遺構・遺物は全体に希薄であったが、対象地には居住域周辺の環境復元への手がかりが含まれている。はじめに地形上の特徴を中心に調査範囲の状況を素描しておきたい。

調査範囲は（川）瀬戸市埋蔵文化財センター（以下「市埋文」）調査地点の北側にある。蟹川の右岸域上流の広い範囲と、間に蟹川を挟んで東に約 100m とやや距離をおく 02B,02C 区の範囲からなり、大きく 2カ所の範囲に分かれている（図 6）。

蟹川右岸（西側）の一部は、大部分が後世に水田化された低湿地状を呈する。表土である水田耕作土・床土の下には非常に厚い河川性の堆積層が広範に認められる。ただし、西側と北側には丘陵部末端がせまり、99,01A,01B 区の一部は畑地として路用されていた。溝、土坑（擾乱を含む）、ピットなどが検出されている。また、00A 区では河川流路に囲まれた中州状の微高地に、平安時代を中心とした遺構および包含層が認められた。明確な遺構群はほぼこの地点でのみ確認されている。以上のように蟹川右岸域では、丘陵端部・河川流路・中州状の微高地といった地形が確認された。

一方、蟹川左岸域の調査区（02B,02C 区）は北東から南西に緩やかに傾斜する地形であり、桑下城跡のある丘陵から続く緩斜面および旧蟹川・水野川の影響を受けたと思われる低湿地が確認された。蟹川右岸域とは対照的に、周辺のすぐ東側は丘陵南麓へとづき宅地化されている。

2 基本層序

詳細には各地点で異なる堆積状況がみられる。ただ蟹川右岸にあたる 99 区、00A・B 区、01A,B,C 区の河川流路を中心に取り上げれば、模式図的に概ね次のような堆積層序を示すことができる（図 5）。

- I 層 表土・水田耕作土・床土
- II 層 河川性の堆積物層 1（大量の粗粒砂、植物遺体を含むシルト）
- III 層 暗褐色シルト層
- IV 層 河川性の堆積物層 2（植物遺体を多く含むシルト～粘土質シルト）
- V 層 河川性の堆積物層 3（礫を含む粗粒砂～シルト、粘土）
- VII 層 基盤層（礫を含む粘土層）

調査範囲の大半は主に水田耕作に利用された部分であり、一筆ごとに段を形成している。I 層はこの耕作土層をさし、20 ~ 40cm の厚さで水平堆積する。暗灰色から黒色の粘土質シルト～砂質シルトであり、鉄分が凝集する層も認められる。また一部で黄褐色粘土を用い床土に整地している箇所もみられ、これが最も新しい水田と考えられる。丘陵末端付近の斜面にかけて表土の堆積は薄くなっている。00B 区北部などでは畑地が開墾された際に大きく削平を受けている。小片ながら近代以降と

みられる窯道具などが含まれている。

II層は小礫、粗粒砂、植物遺体、シルトなどを多く含む層が複雑に入り交じり、地点によって大きく様相が異なる河川流路の堆積層である。蟹川右岸域の広い範囲で認められる。砂粒を多く含む01B区北部では特に強い流れであったことが窺われる。厚さは99区南から01B区で最大約1.4mを測る。この層位の中に複数次の流路の痕跡が認められるが、平面的に復元することが不可能であったため一括して扱っている。

なお、01B区北部ではI層直下の層位で、大量の長い竹材が平面的に分布する地点が認められた。地域の古老によれば、戦時中、この一带は湿地状を呈するいわゆる「深田」であったため、作業の際に湿地の泥に竹を踏み沈め足場とする場合があったという。

III層は古代の遺物が比較的多く含まれる包含層であり、分布は限定的で安定していない。主に00A区から01Ca区東側にかけての範囲に広がる。この付近の基盤層は高く、水田化される際に削平を受けている。この上に比較的しまりのある黒色シルト層が5~20cm前後の厚さで堆積する。00A区と01Ca区ではIII層を掘り下げつつ基盤層で検出を行った。古代の須恵器、灰釉陶器を中心として、若干量の山茶碗片も含まれる。

IV層は基盤層の窪みに残った古い流路の堆積物であり、黒色のシルト～粘土質シルトが堆積する。下層に植物遺体が大量に集積する個所も認められる。板材を中心とした木製遺物や墨書き軸陶器の多くがこの層から出土した。III層と関連しつつ堆積したものと思われる。

V層は旧地形の谷を埋めた堆積物であり、01A区においてトレーンチを掘削して調査した。礫、粗粒砂を多く含むオリーブ灰色の粘土質シルトであり、均質ではなく、ほぼ粘土に近い部分も存在する。IV層上位から1.2m下の地点で摩耗した縄文土器片数点を採取した。遺存状況が悪く帰属時期は不明確なものが多いが、概ね後期中葉のものと思われる。

VI層は基盤層である。基本的には北東から南西に緩やかに傾斜をもち、00A区付近のみやや高くなっている。しまりのある礫混じり粘土のほか、01C区のように礫層が起伏をもって露出する部分もみられる。

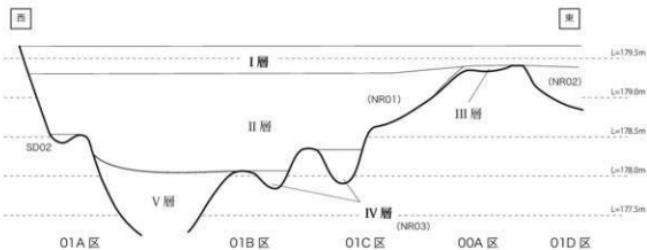


図5 蟹川右岸域 基本層序模式図

3 蟹川右岸域

<99区>

調査範囲の北西端に位置する。自然地形では、北西方向から続く丘陵斜面、および河川流路を含む谷部からなる。

丘陵斜面の最も高いところで標高 181.5m を測る。表土を除去した基盤層において東濃型山茶碗、施釉陶器などを含む中世の土坑数基を検出した。また、流路 (NR01) 下層の丘陵縁辺に沿うように蛇行する幅 1 ~ 1.5m 規模の溝状の凹みは、下流の 01A 区 SD02 に続くが、自然地形である可能性が高い。完形に近い山茶碗等 (35 ~ 40) が出土している。そのほか、基盤層を覆う黄褐色砂礫層から戰国期の陶器類、青灰色粘土質土層で繩文時代石礫、剥片を採取した。

谷部を埋める堆積物 (II 層) は厚く、この中に大量の粗粒砂層の間層が幾筋か認められる。ここから中世陶器（東濃型山茶碗、施釉陶器）、木製品などが出土した。青灰色粘土 (VI 層、基盤層) 直上の最下層で古代の須恵器が出土したほか、土師器甕は比較的多く出土した。

<00B 区>

99 区東側、後述する 00A 区の北西に位置する。自然地形では、北西方向から続く丘陵斜面および河川流路を含む谷部からなる。

丘陵斜面は、最も高いところで標高 181m を測る。表土を除去した基盤層において溝、土坑多数を検出した。出土遺物は、主に中世陶器（山茶碗、古瀬戸捕鉢など）、磁器、窯道具類などであり、土坑 SK06 と等高線に沿う方向に伸びる溝 SD02 からは古代の灰釉陶器土師器が出土した。そのほか、ナイフ形石器、剥片、繩文時代石礫、宋銭を採取した。

谷部は、東側で特に急激に低くなってしまっており調査区内で約 2.5m、丘陵端から約 1.5m の比高差を測る。上層は水田に利用されているが、客土による整地層の下、中位以下は河川性の厚い堆積物 (II 層) からなる。最下層には大量の植物遺体が含んだ黒褐色シルト (IV 層) が堆積し、遺存状況の比較的良好な須恵器、灰釉陶器、土師器甕などが出土した。墨書き釉陶器数点が含まれる。

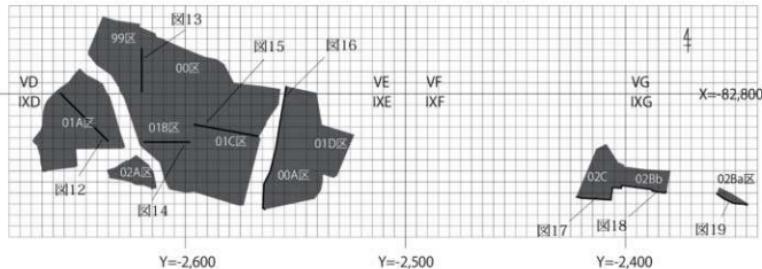


図 6 調査区の配置と土層断面図の位置

< 00A 区 >

河川流路に挟まれた微高地上に遺構が分布する。竪穴建物 1 棟、土坑・ピット群、溝 2 条がある。

SB01（旧番号 SK40、図 7.8）竪穴建物は調査区中央やや西寄り、微高地上でも標高の高い地点にあたる。規模・形状は東西 3.55 × 南北 2.55m の隅丸方形を呈し、北辺中央やや東寄りの位置にカマドが付設される。カマドを軸線とした主軸は国字座標軸で北から東に 7° ふれる方位である。

床面までの深さは 5 ~ 18cm 程度であり、覆土は基盤層に近いオリーブ黄色シルトに粒状の炭化物、灰色シルト質粘土が斑状に混じり、厚さは 10cm 未満である。床面直上、およびやや上位の位置で炭化した木材片の分布がほぼ全面で確認されている。炭化木材は板状をしたものが多く、一部には組合せた痕跡が認められるなど、屋根材または壁材の一部と推定される。これらの炭化木材の樹種同定を行ったところ、資料 17 点のうち、針葉樹（ヒノキ・ヒノキ属）が 35.3%、落葉広葉樹（シラキ）5.9%、常緑広葉樹（クスノキ科・サカキ・ヒサカキ）52.9% の結果を得た（表 3）。樹種により加工された形態に違いがみられ、ヒノキ、ヒノキ属は板状かまたは比較的大きな材の一部であった痕跡をとどめるのであり、多くが壁際付近で採取された資料である。サカキ、ヒサカキは直径 2.5 から 5cm の枝材または幹材を丸木や半裁して利用したものがみられる。これらは床面から若干上位の位置で採取した資料に多く、棟木であった可能性が考えられる（註*）。

床面には主柱穴が 4 力所、計 5 基が確認されている。カマドの位置と同様、プランのやや東に偏った配置となっている。貼床は明瞭ではなく、部分的に厚さ 3cm 前後の炭化物の混じるシルト質粘土が床面直上でみられる。カマド焚口の正面には、東西約 1m、南北約 50cm の範囲に薄い炭化物層の広がりが認められる。そのほか、被熱した粘土塊が床面に貼付いた状態で検出された。焼失した壁材の痕跡と思われる。

カマドの平面形は最大幅で東西約 90cm、南北約 100cm を測る。竪穴建物の北辺から三角形に突出する。石材が 3 力所で検出されており、中央は支脚、その両側は裾部の補強材と思われる。据えられた支脚のすぐ両脇には土師器裏片が埋め込まれている。また、裾部の石材付近にも土師器片多数が検出され、支脚の周囲を中心で濃尾系擾（9 ~ 11）が出土した。

竪穴建物東側中央の床面直上から、ほぼ完形の灰釉陶器椀 1 点が伏せた状態で出土している。廃絶直前の時期を示すとすれば、9 世紀第 2 四半期が想定される（8.K-14 号窯式）。

【註】

* 植田弥生（パレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土炭化材の樹種同定」

SK53 は竪穴建物（SB01）の南東に 2.7m 離れた地点に掘削された土坑である（図 9）。規模は 2.6 × 2.35m、深さは 50cm を測る。平面形は隅丸方形、断面は上方が大きく開く U 字状を呈する。埋土の最下層にブロック状の斑土がみられる。一部が短期間に埋められたのち、中位には炭化物を多く含んだ粘土、上位にはシルトが徐々に埋積したようである。中位の粘土層より灰釉陶器が出土した。

SK48 は直径 35cm、深さ 22cm の円形土坑である（図 11）。竪穴建物南側に多数分布する小型の土坑の一つで、建物を構成する柱穴と考えられる。灰釉陶器椀、土師器裏片が出土した。

SK104 は溝 SD02 の南側に多数分布する土坑の一つである（図 11）。径 26cm、深さ 32cm の円形の小型の土坑である。底部には柱を据えたと思われる平坦面をもつ礎石が置かれていた。遺物は含ま

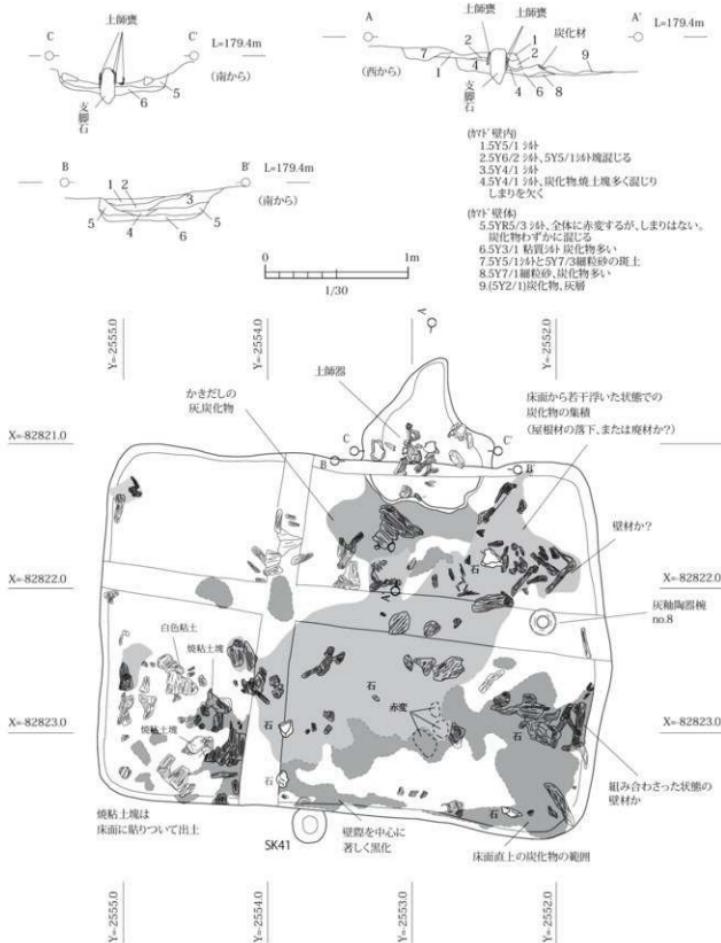


図7 00A区 SB01 遺物出土状態・カマド断面図 (S=1/30)

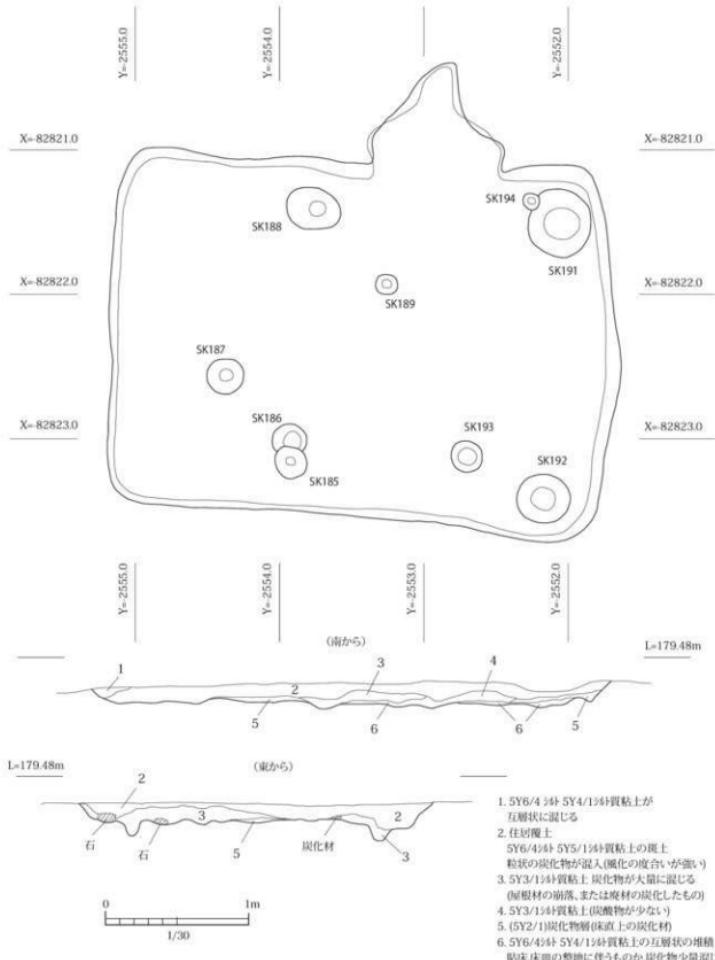


図8 00A区 SB01 平面・断面図 (S=1/30)

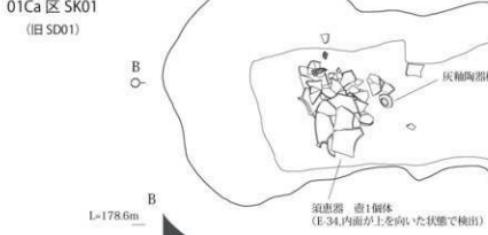
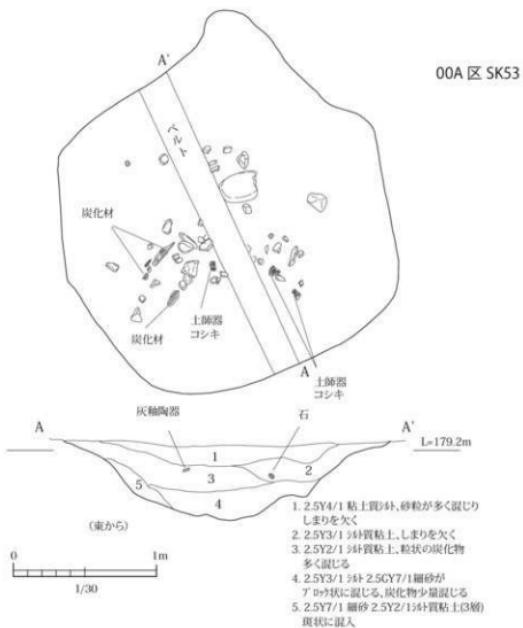


図9 00A区 SK53・01Ca区 SK01 (S=1/30)

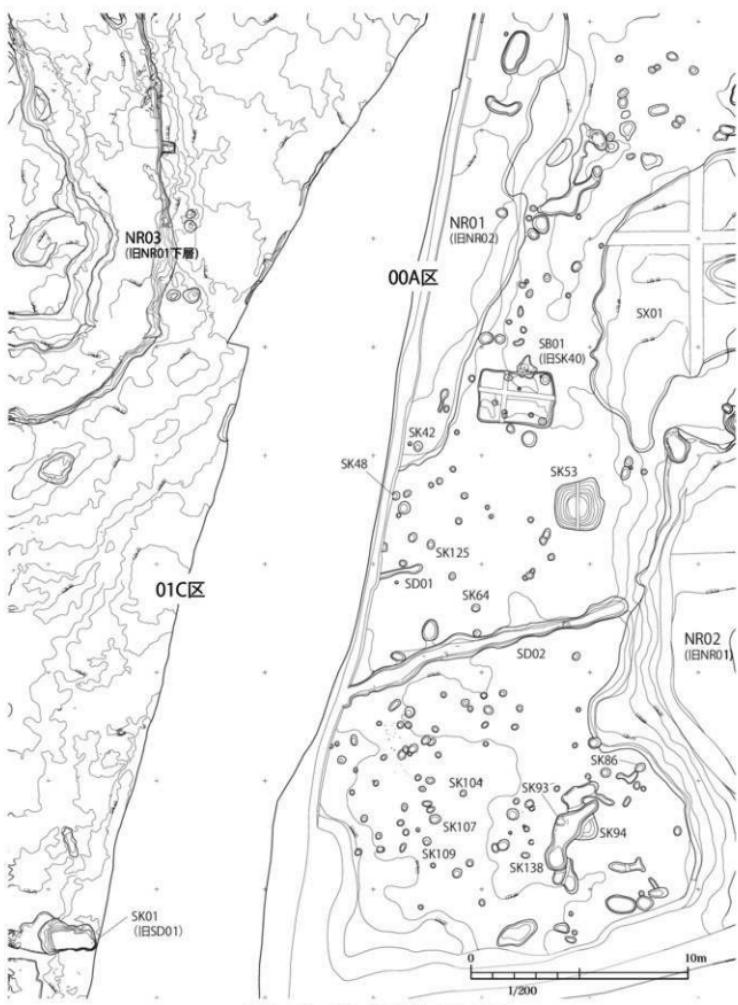


図10 00A・01C区主要遺構図 (S=1/200)

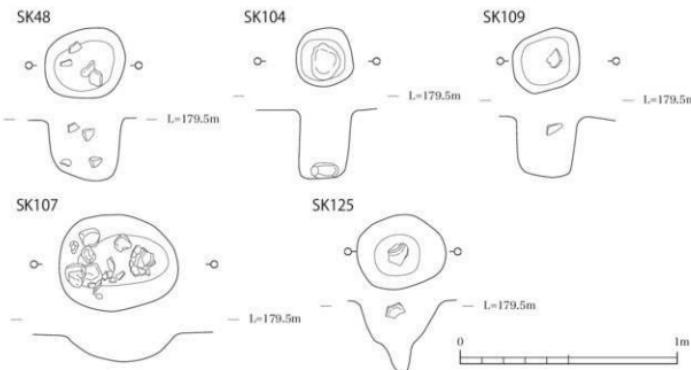


図11 00A区 SK48・104・107・109・125 (S=1/20)

れていない。

SK107も溝SD02の南側に多数分布する土坑の一つである(図11)。56×44cm、深さ13cmの円形の浅い土坑であり、底部付近で疊とともに灰釉陶器、土器器表が出土した。

SK109は32×24cm、深さ28cmの円形の小型の土坑である(図11)。埋土の上位で灰釉陶器瓶類の破片が出土した。

SK125は溝SD01の北側で検出面で40×34cmを測る円形の小型の土坑である(図11)。深さ32cmのうち最下層12cmは柱を据えた痕跡とみられる径約12cmの凹みとなっている。埋土上位で灰釉陶器碗が出土した。

SD02は堅穴建物SB01、土坑SK53の南側に位置する(図10)。幅55cm～1.2m、深さ15～24cmを測る溝であり、12.2mを確認した。微高地を東西に横断する形となり、調査時点での微高地の傾斜と同方向にのびている。遺物は検出されていない。周囲のピット群はすべてが同時期に共存したという確証はないものの、この溝を境に北側は分布がやや希薄であり、南西側は比較的密に分布する状況が看取される。

そのほか、この付近の包含層(III層)からは少量の須恵器と灰釉陶器多数が出土している。

<01A・B・C区>

現代の水路を挟んで隣接する調査区であり、ここでは一括して記述する。自然地形では01A区西辺が丘陵に画されておりほとんどが河川流路に含まれている。わずかに01C区の一部で東側00A区

から続く中州状微高地の痕跡が認められる。この微高地に近い範囲で土坑1基を検出した。

01Ca区 SK01 (II SD01, 図9) は 00A 区に近い調査区南東端にあり、長さ 2.7m、最大幅 1.7m、深さ 57cm を測る隅丸長方形の土坑である。埋積された状況に特徴があり、検出時には土坑全体を拳太の礫が覆い、礫の充填は土坑のほぼ半分の深さまで達していた。下層では破碎した大型の須恵器壺と灰釉陶器碗、皿が出土している (28~34 K-90 号窯式段階)。

流路 NR03 は、流路 NR01 下層で微高地を削るように蛇行する古い流路の痕跡である。01C 区および 01B 区で確認されている。01C 区では 3.5 ~ 9m の幅が一定しない溝状の落ち込みが円弧を描くようにのび、その下流 01B 区では幅が 12m 以上と広がりつつ浅くなり南西へ流れたと考えられる。埋土は黒色粘土質 (IV 層) であり、大量の植物遺体が含まれる。古代の須恵器、灰釉陶器のほか、案や曲物底、田下駄など木製遺物もここから検出された。特に 01Cb 区東側では建築部材と思われる板材が集積した地点がみられた。同様な板材は OOB 区でも検出されている。なお、一部の材には炭化が認められた。そのほか微高地に近い範囲の包含層 (III 層か) より、陽物形や大足などの木製品が出土している。

01A 区調査区西辺、北辺は丘陵から続く斜面であり、薄い表土が覆っている。標高の高い位置ではほとんど遺構は検出されず、やや下がった水田耕作土の下 (II 層中) から丘陵端に沿って蛇行する溝状の落ち込み (SD01 ~ 06) を確認した。幅は一定せず、丘陵の自然地形 (等高線) に沿う、または傾斜に直交するものがある。人為的な遺構ではなく自然地形と考えている。なお、SD02, 03, 04 理没後の堆積層 (NR01 上層 旧 NR02 として遺物採取) には尾張型第7型式の山茶碗が含まれている。

溝 SD04 は幅 0.4 ~ 1.5m、深さ約 25cm、溝底面の標高は 179.2 ~ 178.7m を測り、これらの溝の中では最上段にある。山茶碗 (尾張型、東濃型) が出土した。

溝 SD02 は幅 1.8 ~ 2.6m、深さ約 40cm、溝の底面の標高は 178.9 ~ 177.8m を測る。埋土に粗粒砂屑を多く含み、遺物はわずかではあるが山茶碗 (尾張型第5型式) 等が出土した。

溝 SD01 は幅 0.6 ~ 1.5m、深さ 30 ~ 50cm、溝底面の標高は 178.4 ~ 177.8m、SD02 にほぼ平行して下段の位置にある。灰釉陶器碗が出土した。

溝の埋没時期と位置関係は、時期ごとの谷部の堆積のレベルを示しているものと思われる。

01A 区の谷部が最も古い段階から流路であったと思われる。下層の青灰色の繊混じり粘土、砂層 (V 層) は丘陵部直上の堆積層に連続しており、この層中に細片ながらも摩滅した縄文後期の土器片を採取している。その上に黒褐色粘土～シルト層が堆積しており、ここでは粗粒砂をほとんど含まない II 層と考えられる。一方、東側の 01B 区の II 層は大量の砂を含み、かつ複雑な堆積状況を示している。したがって、古代以降水量の多い流れの中心は丘陵と微高地の間である 01B 区の辺りにあり、01A 区付近は幅の広い流路で 01B 区より



01A 区 V 層のトレンチ調査

も比較的穩やかな堆積環境にあったと考えられる。

< 01D 区 >

00A 区東側に隣接するが、微高地の地形は統かず全体が緩やかな凹みを形成している。表土は大きく削られ整地されており、その下に暗褐色シルト層が堆積する。これも流路の一部であったと考えられる。遺物は少なく、最下層から墨書き釉陶器が出土した。

< 02A 区 >

01A・B 区南側に位置し、少なくとも古代以降は河川流路の中心に近い部分にあたる。調査区が手狭なため、調査は II 層の堆積状況の確認までとした。水田耕作土より近世～近代の磁器製品や窯道具などを採取した。

3 蟹川左岸域

< 02B・C 区 >

蟹川左岸域の調査区は既に宅地化されていたこともあり、客土による整地層に覆われていた。調査区は丘陵部の末端付近にあたり、北西側と東側が高くその間は浅い谷状の地形となっており、ここに湿地状の堆積が認められた。調査範囲内は標高 182.8m ~ 180.9m、比高差 1.9m を測る。谷部には自然木や植物遺体を多く含んだ暗褐色粘土質シルトが堆積し、傾斜の角度が変化する辺りで等高線に沿う方向の杭列を確認した。先に報告した蟹川右岸域の調査地点とは異なり、埋土中に砂粒の含まれる割合は少なく、河川でも流れの弱い穩やかな堆積環境にあったと考えられる。

出土遺物は、古代の須恵器、灰釉陶器、土師器甕など 9 世紀代の遺物が一定量含まれるほか、中世の古瀬戸後期～大室初期の陶器が比較的多く含まれる。後者は東側の丘陵部に存在する窯跡（桑下東窯跡）あるいは桑下城跡の時期に含まれ、関連が窺われる。

表 3 積穴建物 00A 区 SB01 出土炭化材の樹種同定結果

試料 no.	樹種	備考
1	ヒノキ	放射方向 4.5cm の破片、一部生焼け
2	ヒノキ属	幅 (接線方向) 5cm、厚み (放射方向) 2cm、板目取りの板状破片、約 40 年輪
3	ヒノキ シラキ	φ 2.5cm の丸木、約 22 年輪、外側一部生焼 板状破片が多い
4	ヒノキ	放射方向 1cm で 22 年輪あり
5	サカキ	φ 3.5cm の丸木または半裁
6	不可	
7	ヒノキ属 クスノキ科	丸木？ (土の侵食多い)
8	ヒサカキ	
9	サカキ	
10	サカキ	
11	サカキ	φ 2.5cm の丸木
12	ヒサカキ	φ 3.0cm の丸木または半裁
13	ヒノキ	幅 (接線方向) 14cm、厚み (放射方向) 0.3 ~ 1cm、板目取りの板状破片
14	ヒサカキ	幅 (接線方向) 9cm の破片
15	ヒサカキ	φ 5.5cm の丸木

(植田弥生 (パレオ・ラボ) 「上品野蟹川遺跡出土炭化材の樹種同定」より)

樹種	試料数
針葉樹	ヒノキ
	ヒノキ属
落葉広葉樹	シラキ
常緑広葉樹	クスノキ科
	サカキ
	ヒサカキ
不可	1
合計	17

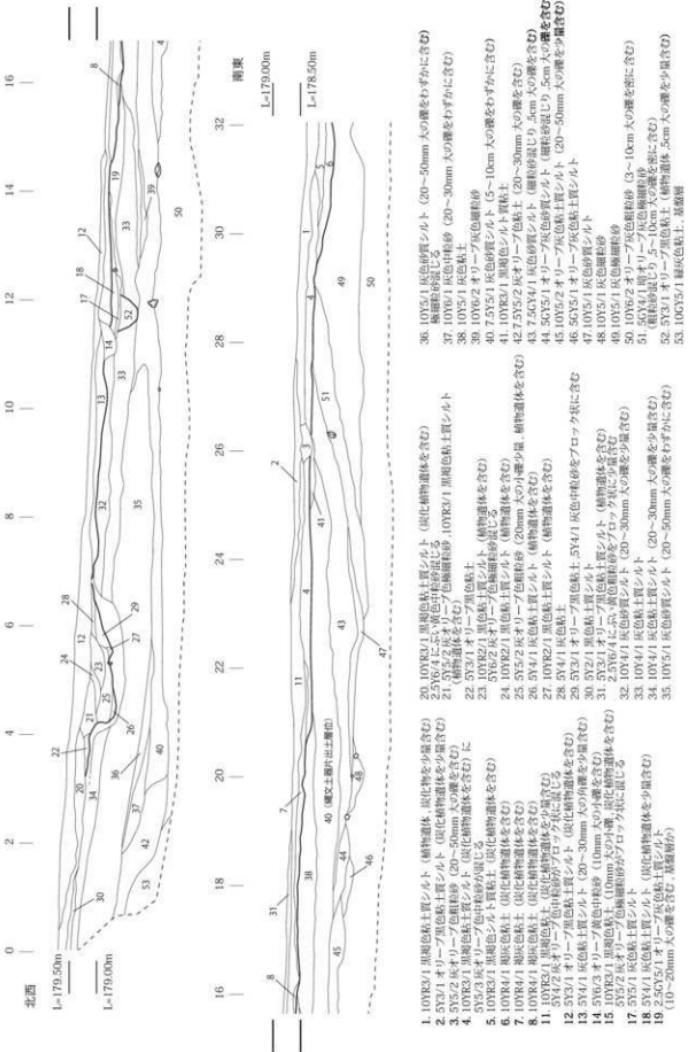


図 12 01A区南北ベント土層断面図 (S=1/80)

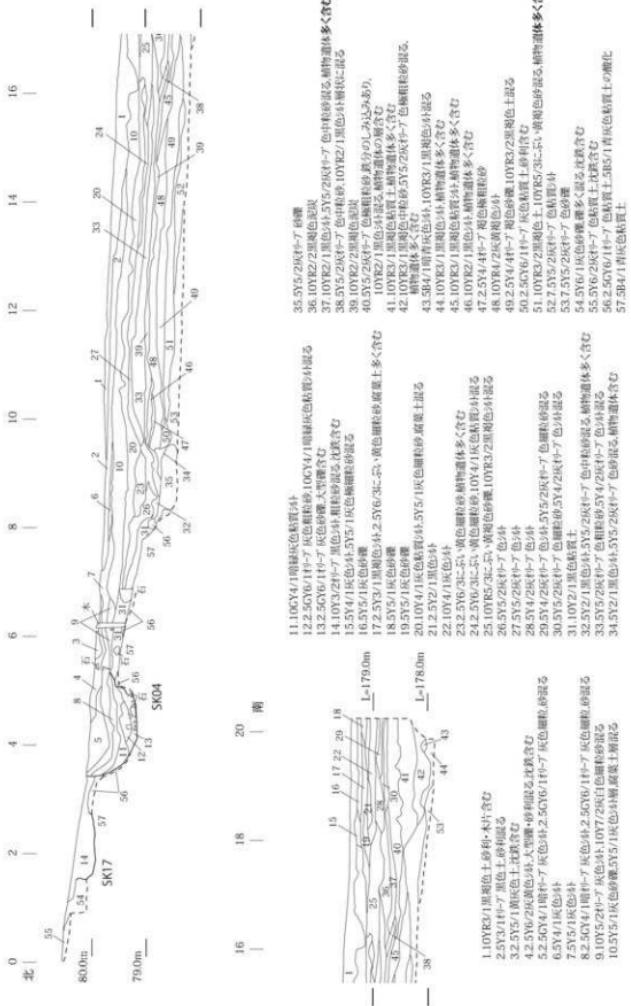
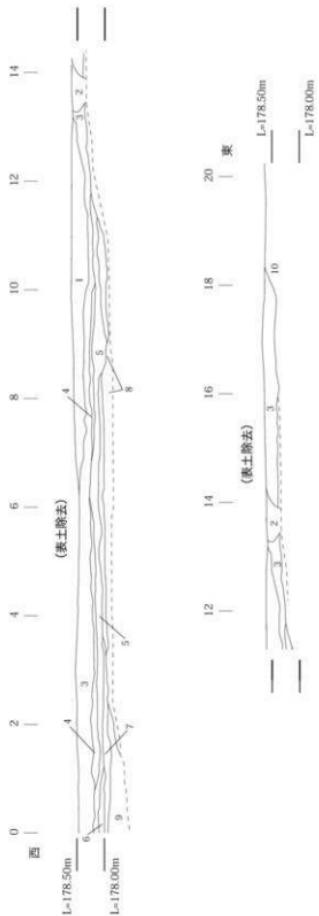


図 13 99 区南北ハーフト断面図 (S=1/80)



1. 53/1オリーブ黒色粘土にSVE/2オリーブ色粘土が夾む
2. 53/2灰紫色粘土
3. 52/21黒色粘土
4. 53/4灰黑色粘土 (植物遺体含む)
5. 53/4灰黑色質シルト
6. 53/2灰黑色質シルトにS3/2オリーブ色粘土を含む
7. 53/3オリーブ色粘土
8. 53/4灰黑色土質シルト (20~30mm大の塊含む)
9. 53/3オリーブ色粘土
10. 53/51灰黑色粘土 (50mm大の塊含む) 基盤層

図 14 01B区東西ヘルト土層断面図 (S=1/30)

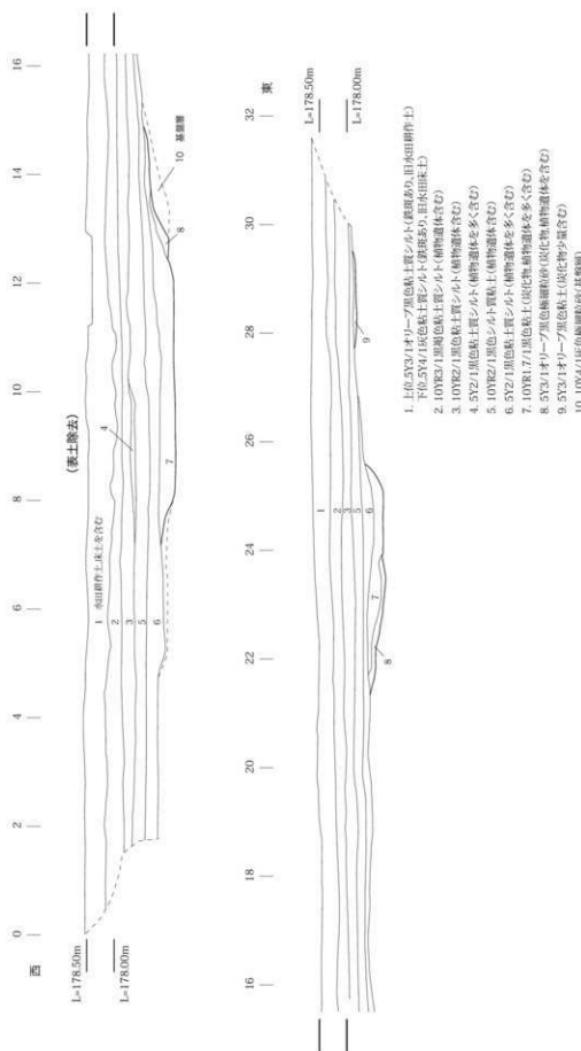


図15 01Ca区北壁土層断面図 (S=1/80)

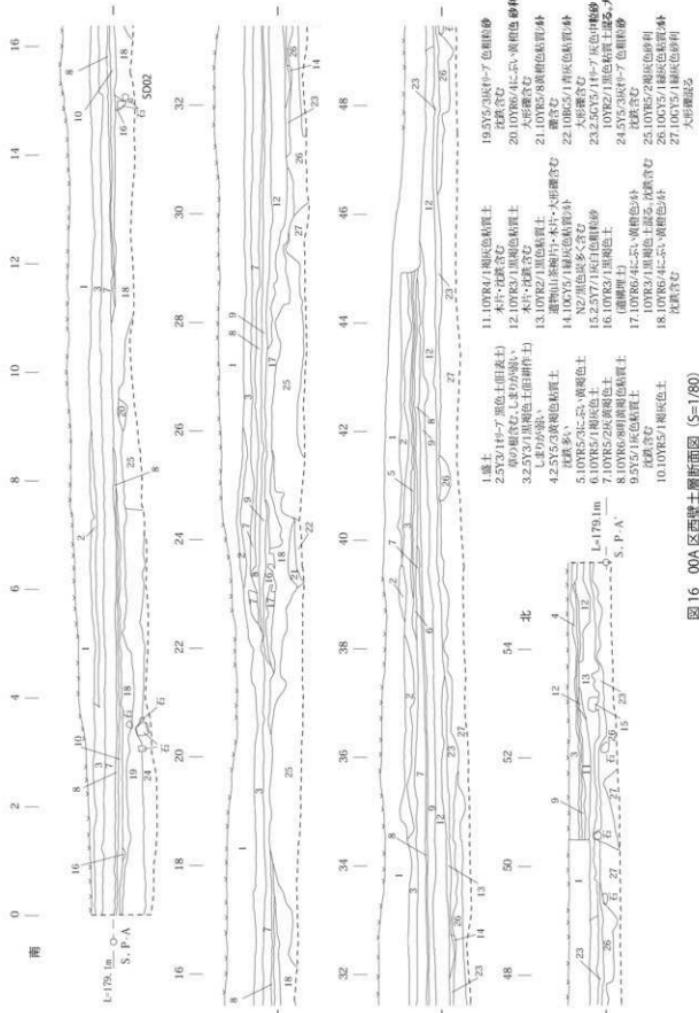


图 16 00A 区西壁土质断面图 (S=1/80)

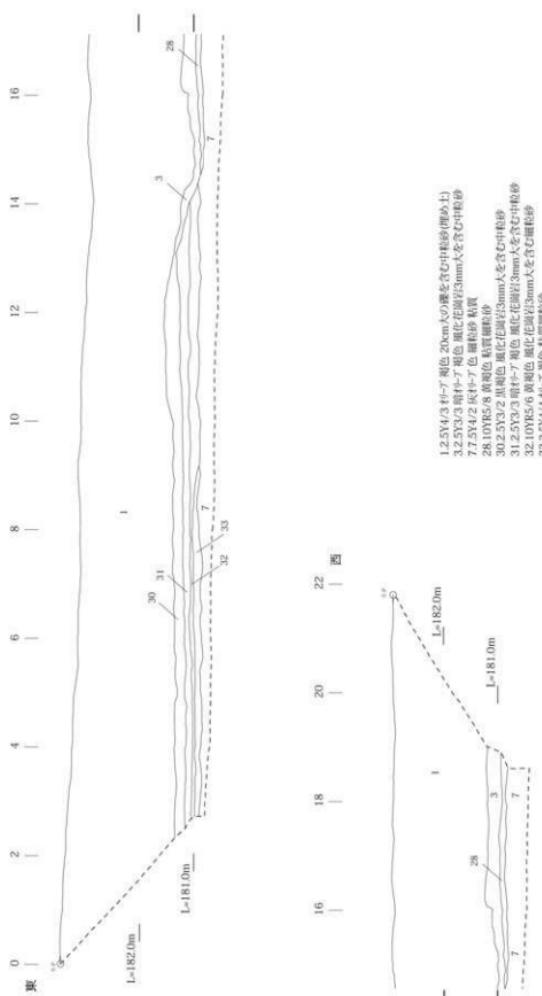


图 17 02C 区南壁土质断面图 (S=1/80)

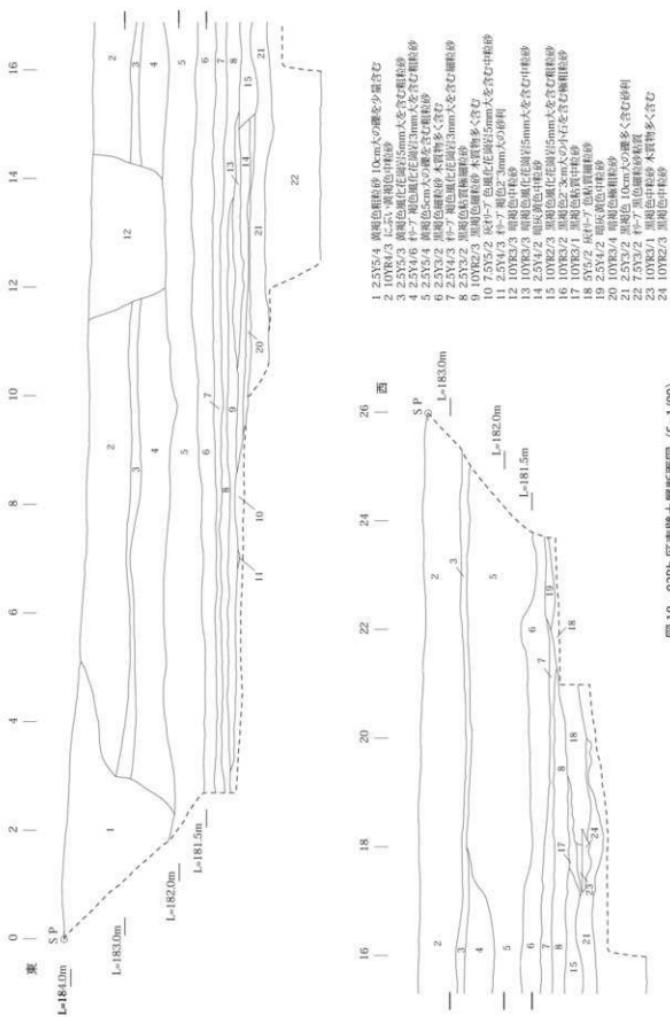
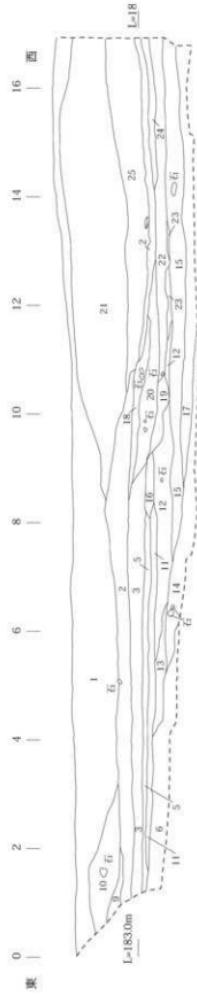


図 18 02Bb 区削壁土層断面図 (S=1/80)



1. 17.51/4.2 細粒砂テクノード色 100mmの深さを含む地盤部が埋め土上2.515/6.1土塊 RG-C
2. 27.31/3.2 砂テクノード 黒色 40mm
3. 32.31/4.4 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
4. 5.10/19.4 黑色 植被破壊砂
6. 6.51/5.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
7. 7.51/3.2 黑色 植被破壊砂
8. 9.51/3.2 黑色 植被破壊砂
9. 10.51/3.2 黑色 植被破壊砂
10. 11.51/3.4 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
11. 11.10/19.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
12. 12.10/19.3 朝向砂 2.51/4.4 植被破壊砂
13. 13.10/19.3/2 黑色 植被破壊砂
14. 17.51/4.2 細粒砂テクノード色 100mmの深さを含む地盤部が埋め土上2.515/6.1土塊 RG-C
15. 15.51/3.2 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
16. 16.2.51/3.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
17. 17.7.51/3.1 黑色 植被破壊砂
18. 18.10/19.4/6 黑色 植被破壊砂
19. 19.2.51/3.2 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
20. 20.2.51/3.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
21. 21.10/19.5 黑色 植被破壊砂
22. 22.51/3.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
23. 23.2.51/3.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
24. 24.2.51/3.3 粗粒砂テクノード 黑色 40mm
25. 25.2.51/3.4 黄褐色 植被破壊砂
レーベル: L=180cm L=180cm

図19 02Ba区南壁土層断面図 (S=180)

第3章 遺 物

1 出土状況の概要と時期区分

出土遺物の大半は旧河川および湿地の堆積層から検出されており、土器・陶磁器では縄文時代から近世までの幅広い時期のものが含まれる。

今回調査地点で出土した遺物の時期について、次のように区分した。

I期 —— 縄文時代

II期 —— 古墳時代前期

III-1期 — 須恵器 NN-32 ~ IG-78号窯式（7世紀後葉～9世紀前葉）

-2a期 — 灰釉陶器 K-14 ~ K-90（9世紀）

-2b期 — 灰釉陶器 O-53 ~ 百代寺窯式（10世紀～11世紀後葉）

IV-1期 — 山茶碗（11世紀末～14世紀中葉）(-1a期：尾張型第3,4型式/-1b期：第5～8型式*）

-2期 — 古瀬戸後期 **（14世紀後葉～15世紀後葉）

-3期 — 大窯 I～2期 ***（16世紀前葉）

V期 —— 近世以降

(* 藤澤 1994 / ** 藤澤 1982,1991,1995 / *** 藤澤 2002)

まず、I期土器は前述した基本層序の第V層でのみ確認した。石器は少量ながら各調査区から散漫な分布状況が確認されている（第3章・6）。II期も明確な遺構は確認されず、O1A区南端付近の湿地状堆積層で採取された数点のみである。

今回の調査地点付近で安定した居住がみられたようになったのは古代以降である。ただしIII-1期の須恵器、土師器煮炊具は僅かであり、遺構が明瞭に捉えられていない。灰釉陶器、III-2期に突如増加してピークとなる。III-2a期には00A区の中洲状の微高地上に竪穴住居、柱穴等の遺構群が展開し、周辺で比較的遺存状況の良い灰釉陶器が検出されるなど、まとまった資料が得られている。続くIII-2b期からIV-1期の早い段階までは一定量の出土があり、際立った断絶は認められない。これ以降の時期の出土遺物の様相は断続的となり、全体に少量となっている。堆積状況より推定されるように、主要な流路が移動して一帯すべてが湿地状となった環境の変化を反映していると思われる。一方、02年度調査範囲では主にIV-2, IV-3期の中世施釉陶器、窯道具類などが出土しており、これらは東方丘陵上に存在する桑下城跡、桑下東窯跡（大窯）やその城下との関連がうかがわれる。

土器・陶磁器類は、まず調査範囲（図6）の位置と地形的特徴から現在の蟹川右岸域となる99.00.01年度調査区と、蟹川左岸域のO2B,C区に分け、その上で時期・器種ごとに配置し記述を行った。また、石器は旧河川の堆積層で確認された場合が多く、出土地点の情報については調査区の大枠を示すにとどめた。

2 遺構出土の土器・陶器（E-no.）

00A区 SB01（竪穴建物 旧SK40）

8の灰釉陶器壺は完形で伏せた状態で出土した。竪穴住居廃絶時に近い時期の遺物である。口縁部

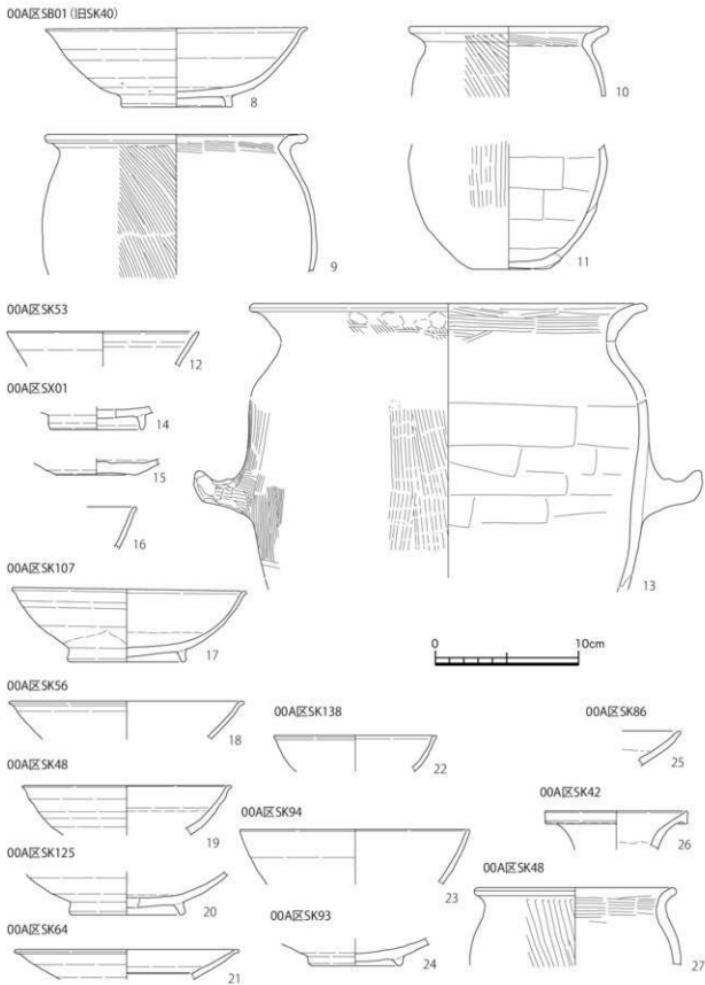


図20 遺構出土の土器・陶器1 (S=1/3)

01Ca区SD01

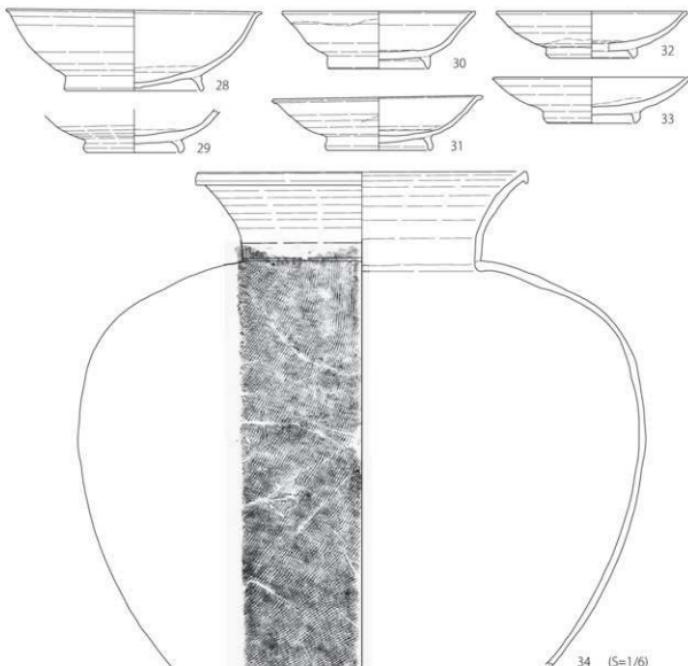


図21 遺構出土の土器・陶器2 (S=1/3, 34のみ S=1/6)

は外反して端部は水平に伸びる。施釉範囲は内面のみ全面でハケ塗り。見込にはビン痕が残る。外面高台盤、高台内はケズリ調整を施し、断面方形の角高台が付く。K-14号窯式。9～11は土師器であり、9、10は口縁が外へ折れ、口縁内側を横方向のハケ調整を施す。外面を明瞭で粗い斜めハケで調整する濃尾系窯。11は平底となる小型の甕底部で、胎土に砂粒を多く含み粘土組の接合部が比較的明瞭である。内面は横方向の板ナデ、外面には不明瞭な縱方向のハケメが残る。底面に木葉痕が認められる。東濃系窯。

00A区 SK53（土坑）

14は体部が直線的でやや開く須恵器杯。15は土師器で、把手付の鍋。外面は縦方向に近い細かいハケ調整であり、内面口縁付近は横方向のハケ、胸部は横方向の板ナデ調整を施す。

00A 区 SX01 (不定形の凹み)

55 は須恵器無台杯。底部は静止系切り。57 は灰釉陶器椀で O-53 号窯式。焼成不良で軟質。高台内にススが付着する。16 は灰釉陶器椀で釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK107 (柱穴か)

17 は灰釉陶器椀。胎土は緻密、精良である。口縁端部が僅かに外反する。高台外面の面取は不明瞭であるが、高台脇をケズリ調整する。高台内はケズリの後ナデを施す。釉薬は口縁から体部中位まで外面をハケ塗りする。見込部分に摩滅痕が認められる。K-90 号窯式か。

00A 区 SK56 (土坑)

18 は灰釉陶器椀。釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK48 (土坑)

19 は灰釉陶器椀。外面体部下半はケズリ調整。釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK125 (土坑)

22 は灰釉陶器椀。底部を少し外れた位置に高台が付く。高台脇はナデ調整。見込と高台接地面に摩滅が認められる。O-53 号窯式。

00A 区 SK64 (土坑)

21 は灰釉陶器段皿。釉はハケ塗り。K-90 号窯式。

00A 区 SK138 (土坑)

23 は灰釉陶器椀。胎土は緻密、精良である。O-53 号窯式。

00A 区 SK94 (土坑)

20 は灰釉陶器椀。口縁部は外反しない。K-90 号窯式。

00A 区 SK93 (土坑)

24 は灰釉陶器椀。胎土は緻密である。断面三角形に近い高台が付く。高台脇はナデ調整。高台内中央に糸切痕、墨痕が残る。見込および高台接地面に摩滅が認められる。H-72 号窯式。

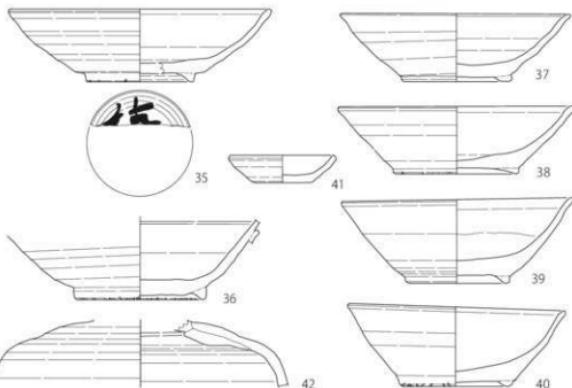
00A 区 SK86 (土坑)

25 は灰釉陶器灰釉皿。口縁端部外面に緩やかな稜を形成する。K-90 号窯式か。

00A 区 SK42 (土坑)

26 は灰釉陶器長頸瓶。胎土は白色でやや軟質の焼成。口縁部上端は突出しない。K-14 (~ K-90) 号窯式か。

01A区SD02



01A区NR01上層(旧NR02,SD02~04廃没後の堆積層)

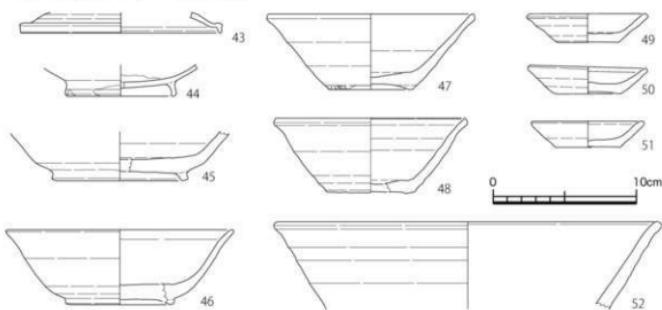


図22 遺構出土の土器・陶器3 (S=1/3)

00A区 SK48 (土坑)

27は土師器甕で、口縁部を緩やかに外反させる。口縁部近内面はヨコ方向のハケ、外面は粗い斜めハケ調整を施す。濃尾系甕。

01Ca区 SK01 (土坑 旧 SD01)

34は須恵器広口壺。底部付近は残存していないが、丸底と思われる。外面をタタキ調整する。上層の疊を取り除いた下層のほぼ中央付近で検出され、口縁部を下にむけ、破片の大半は内面を上にした状態で見つかった。灰釉陶器椀、皿類は疊に混じりその周囲で検出された。28,29は器高の高いや

や大型の椀で、30.31はやや浅い椀、32.33は皿である。釉薬はハケ塗りで、椀の高台脇は30を除いてケズリ調整が施される。墨書きされた個体もあり、33は高台内に「寺」、28も判読できないが高台内に墨痕が認められる。28.30を除く他はすべて高台接地面に、33は見込と高台接地面に顕著な摩滅が認められる。椀、皿類は概ねK-90号窯式に属するもので、30は若干新しい様相が認められる。

01A区 SD02（溝）

42は須恵器の瓶類肩部で外面には自然釉が掛る。接合部は三段構成。その他は中世山茶碗と小皿類であり、35.36は断面三角形のやや高い高台が付く。尾張型4型式。37～40は扁平な高台となる。尾張型第5型式と40は第6型式か。見込と口縁部内側、高台に摩滅が認められるものが多い。35は高台内に墨書きをもつ。

01A区 NR01上層（III NR02,SD02～04埋没後の堆積層）

43は須恵器蓋。44は灰釉陶器椀であり、高台脇はケズリ調整する。K-90号窯式。45は腰の張る形態の椀。高台は断面方形を呈し、高台内に糸切り痕が残る。46～51は山茶碗と小皿。46は口縁部内側および高台接地面に摩滅痕が認められる。尾張型第4型式。47.48は同第7型式。小皿のうち50.51は内面や底部脇に摩滅が認められる。尾張型第5.6型式か。52は片口鉢。内面に顕著な摩滅痕が認められる。

3 包含層出土の土器・陶器

次に遺構外、主に旧河川堆積層出土遺物について、時期・調査区ごとに記述する。

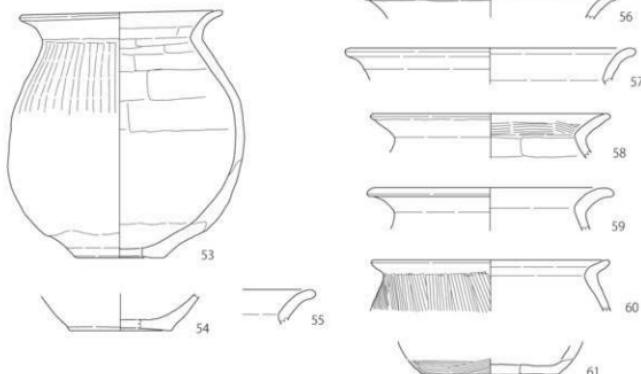
< III期 土師器煮炊具>

使用によるとみられるススが付着する個体5点について、放射性炭素年代測定(AMS)を行った。結果を表4に示す。

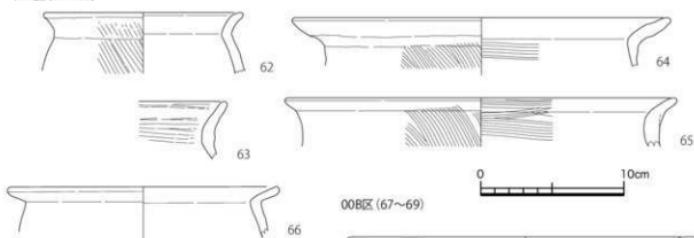
表4 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定結果

E-no.	$\delta^{13}\text{C}$ (0/00)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を曆年に較正した年代範囲		曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1σ曆年年代範囲	2σ曆年年代範囲	
10 露尾系	-25.23 \pm 0.14	1300 \pm 20	665AD(37.2%)695AD 700AD(6.9%)710AD 745AD(24.1%)765AD	660AD(95.4%)780AD	1300 \pm 20
63 露尾系	-25.37 \pm 0.17	1235 \pm 20	710AD(28.6%)750AD 760AD(32.1%)820AD 840AD(7.6%)860AD	690AD(37.4%)750AD 760AD(58.0%)880AD	1234 \pm 21
374 露尾系	-24.84 \pm 0.14	1270 \pm 20	685AD(38.7%)725AD 735AD(29.5%)770AD	675AD(95.4%)775AD	1271 \pm 20
68 清潔型	-24.39 \pm 0.15	1130 \pm 20	890AD(11.1%)900AD 915AD(57.1%)965AD	870AD(95.4%)990AD	1131 \pm 20
335 伊勢型	-25.18 \pm 0.14	725 \pm 20	1265AD(68.2%)1285AD	1260AD(95.4%)1295AD	726 \pm 19

99区(53~61)



00A区(62~66)



01B区(70)



01C区(71,72)

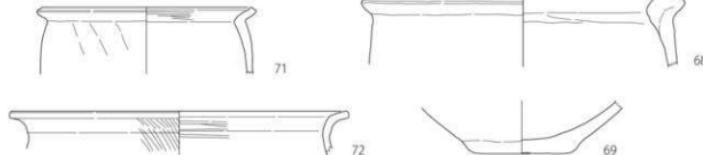


図23 包含層出土の土器・陶器1 (古代, S=1/3)

99 区 (53 ~ 61)

53 は小型の平底鍋。全体の形状が復元できる唯一の個体である。胎土に砂を多く含み、やや軟質の焼成である。底部と胸部接合部が明瞭で、外面口縁はヨコナデ、胸部は縱方向の板ナデ調整か。浅い丸ノミ彫りのような凹みが不明瞭に連続する。内面は横方向の板ナデ調整。54 ~ 61 は濃尾系甕。胎土に砂粒を少し含む。外面口縁付近はヨコナデ、胸部はハケ、内面口縁付近も横方向のハケ調整を施す。5 は平底の底部片であり、硬く焼締まっている。

00A 区 (62 ~ 65)

62 ~ 65 は濃尾系甕。内面白口縁付近は横方向のハケ、外面は斜めハケ調整を施す。63,65 は頸部の屈曲が緩やかで、やや肥厚する。66 は三河系甕。胎土に含まれる砂粒は少なく焼締まっている。外面はナデ調整。

00B 区 (67 ~ 69)

67,68 は清郷型鍋。外面はナデ、内面は横方向の板ナデを施す。69 は甕の底部。底面に木葉痕が残る。

01B 区 (70)

70 は小型の濃尾系甕。口縁部の外反は緩く短く、頸部が肥厚する。

01Ca 区 (71,72)

71 は胎土は 66 に近い。外面はユビナデ、内面はナデ調整。口縁上端がやや突出する。三河系甕か。

< III 期の陶器 >

99 区 (73)

73 は須恵器の有台杯。O-10 号窯式。有台杯は今回の調査範囲では数少ない器種である。

00A 区 (74 ~ 109)

71 ~ 78 は須恵器蓋。紐部分は不明で、折返しが明瞭なもの、短く痕跡程度のものがある。79 は無台杯。底部はヘラ切り。以上の資料の時期は O-10 ~ K-14 号窯式に属するものか。80 は須恵器で器種、時期は不明。大型の壺・甕の類か。81 ~ 97 は灰釉陶器椀。81 ~ 84 種類はハケ塗り、K-90 号窯式。82 は見込にも施釉される。84 は高台接地面に摩滅痕が認められる。85 ~ 93 は O-53 号窯式。釉薬は濁け掛けし、高台接地面に摩滅痕が認められることが多い。94 ~ 97 は H-72 号窯式。4 点とも内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。98 ~ 106 は灰釉陶器皿。98 は低い角高台が付く、K-14 号窯式。99 ~ 103 は K-90 号窯式。104 ~ 106 は O-53 号窯式。107 は輪花椀。108,109 は長頸瓶。108 は底部脇の器壁を厚く作る。102 は外面胸部下半をヘラケズリ整形する。

01D 区 (110 ~ 112)

遺物の出土が少ない地点であったが、旧河川埋積土下層から墨書のある資料を採取した。111 は底部を手持ちケズリ整形する須恵器無台杯。底面の墨書は判読できず。110,112 は K-14 号窯式の灰釉陶器椀。角高台は顯著な摩滅痕が認められる。110 の墨書は明瞭な筆致で高台内に 3 文字、「文室門」

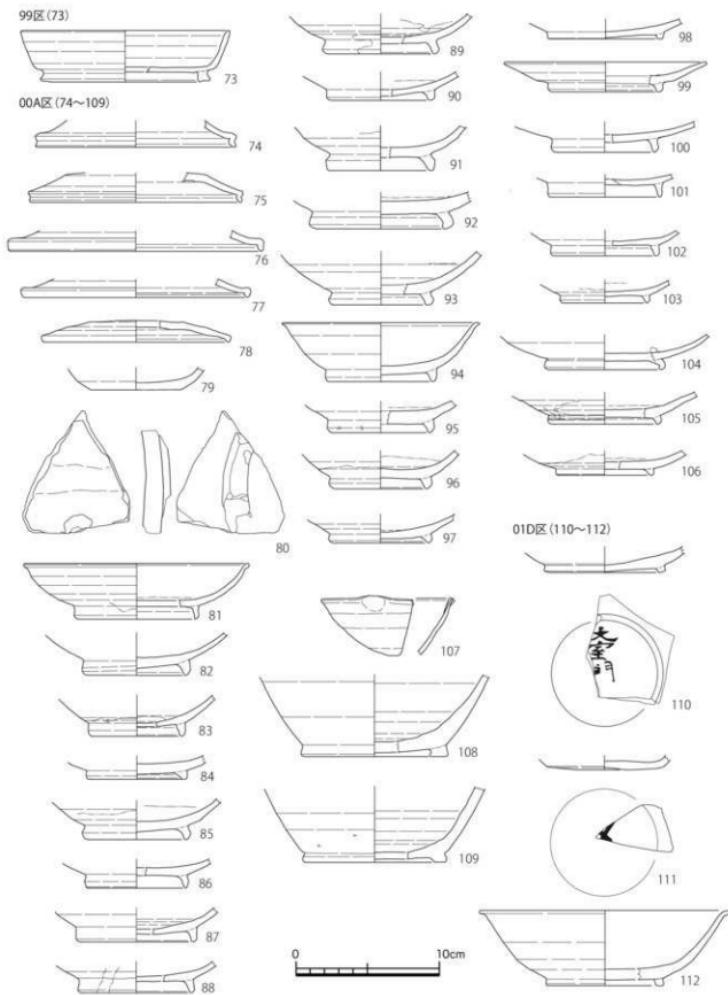


図24 包含層出土の土器・陶器2 (古代,S=1/3)

00B区(113~156)

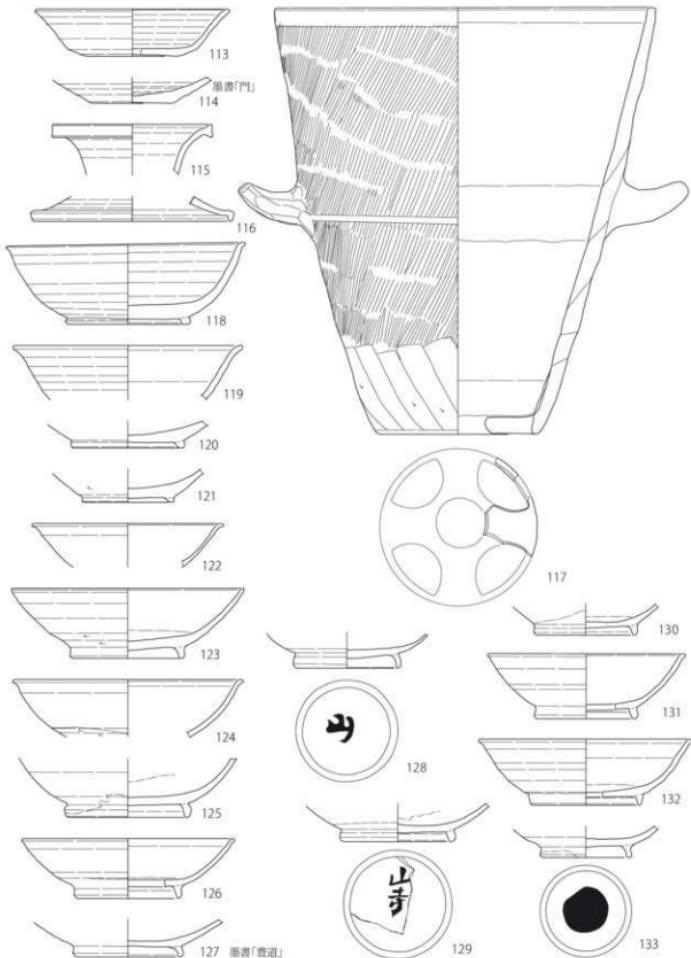
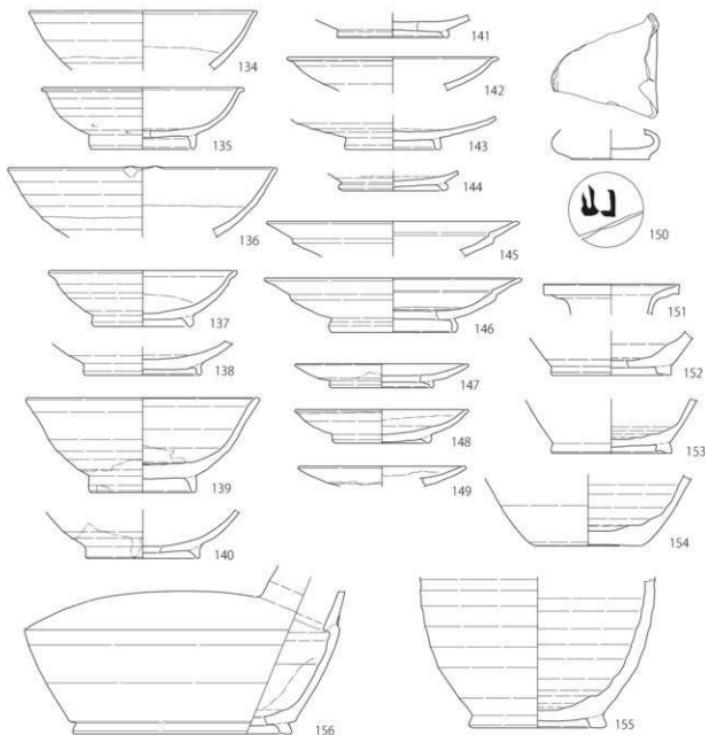


図25 包含層出土の土器・陶器3(古代, S=1/3)



01A区(157~165)

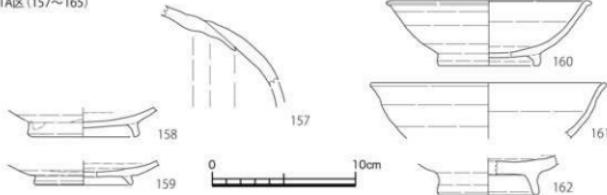


図 26 包含層出土の土器・陶器 4 (古代, S=1/3)

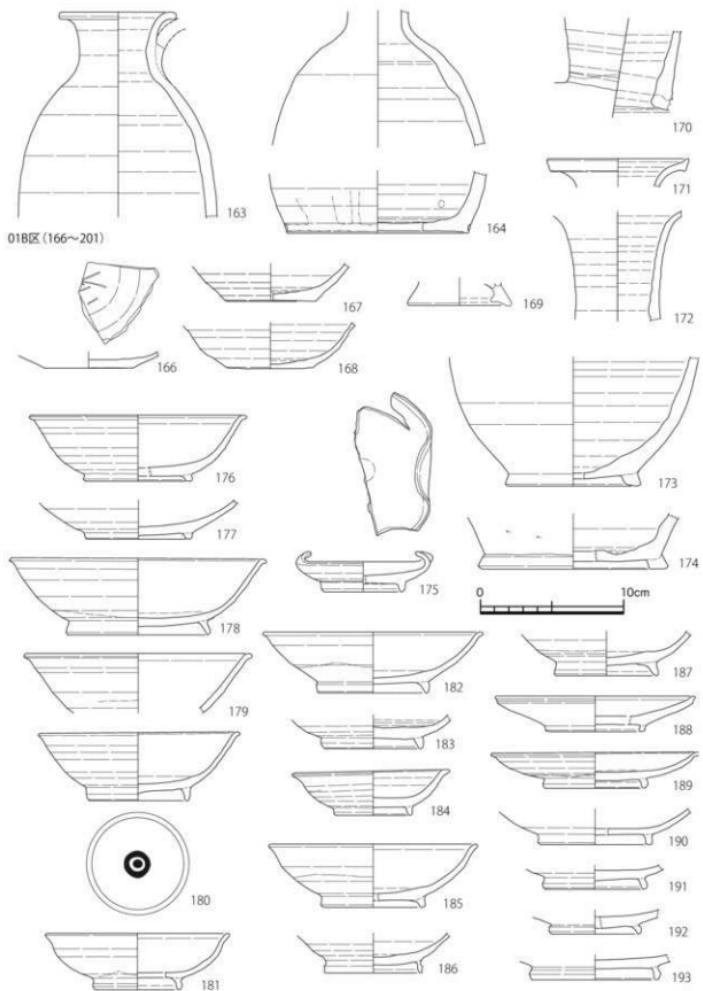


図27 包含層出土の土器・陶器5（古代, S=1/3）

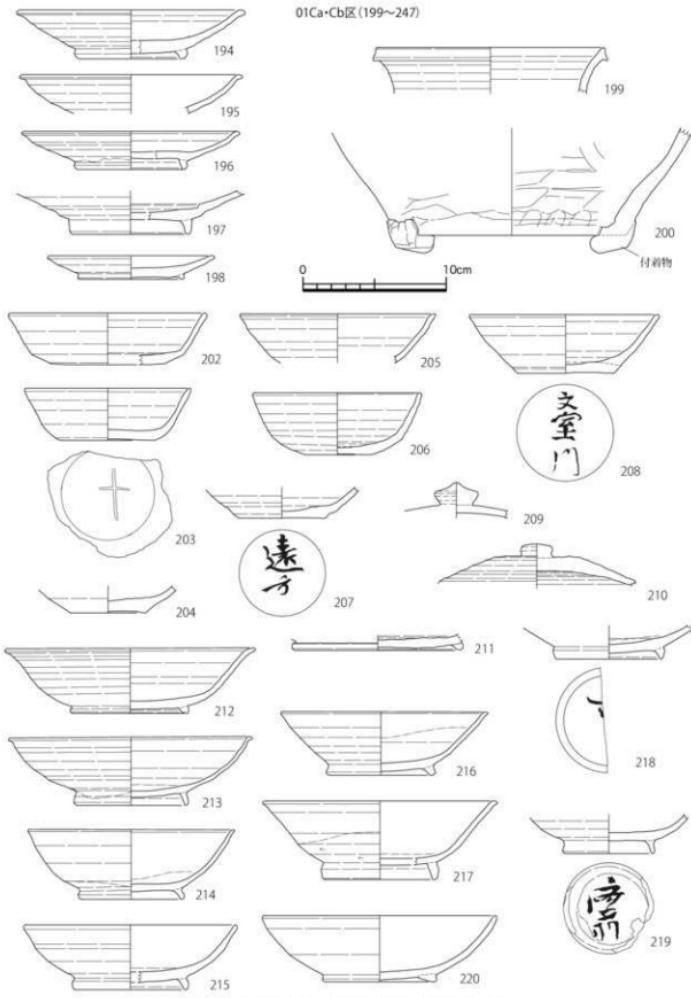


図 28 包含層出土の土器・陶器 6 (古代,S=1/3)

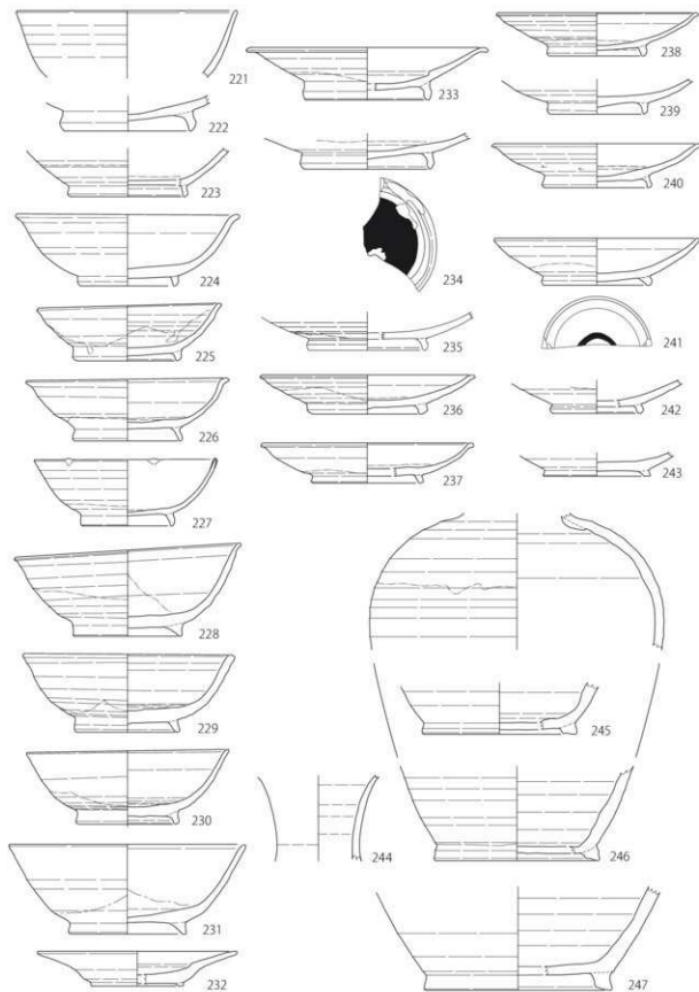


図29 包含層出土の土器・陶器7（古代, S=1/3）

とある。

00B 区（113～156）

113～117は須恵器である。113,114 無台杯は体部が直線的に八の字状に開く。底部脇に摩滅痕が認められる。115は長頸瓶。116は蓋。O-10～K-14号窯式に属する。117は壺で、外面胴部はタタキ整形ののち上端をヨコナデ、下端は縱方向にケズリ、中位には凹縞1条をめぐらし把手を2ヶ所に貼付ける。内面はヨコナデ調整を施す。底部透しの形状は、中央に円形、その周囲に半円形4個を配置したものと思われる。

118～155は灰釉陶器である。118～140の壺は中型と小型、輪花挽があり、K-90号窯式を中心とする資料がみられる。118～122はK-14号窯式。摩滅痕は高台にみられるほか、口縁部内側と端部（118,119）、外面腰部（118）にも認められる。123～133はK-90号窯式。墨書きがあり、128は「山」、129は「山寺」、133は記号的に塗りつぶした丸が高台内に描かれている。133は高台内も摩滅しており、転用窯として用いられた可能性がある。摩滅痕は高台部分のほか内面に認められる個体が目立つ。134～136の釉薬は漬け掛け、O-53号窯式。136は輪花挽。摩滅痕は高台部分と一緒に内面にも認められるものがある。137～139は高台内に糸切りが残る。H-72号窯式。140は断面三角形の高台が付く。百代寺窯式。141～150は皿である。141はK-14号窯式。142～146はK-90号窯式に含まれるもので、145,146は段皿。高台接地面に摩滅痕が認められる。147,150はO-53号窯式で、150の耳皿は底部糸切り未調整で、底部に「山」の墨書きがある。148,149はH-72号窯式。151～155は長頸瓶。156は平瓶。

01A 区（157～165）

157は須恵器の横瓶片。158～162は灰釉陶器挽で158はK-90号窯式、159,160はO-53号窯式、161,162はH-72号窯式か。ただし160は未施釉。163～165は水注。165底部は糸切り後ナデ調整を施す。

01B 区（166～201）

166～168は須恵器無台杯。166は内面にヘラ書きあり。167は内面に摩滅痕、168は底部に墨痕あり。169は瓶類の高台部分か。

175～198は灰釉陶器である。175は耳皿。高台内に糸切り痕が残る。170は平瓶。171～174は長頸瓶などの瓶類。174の胴部下端はケズリ整形。176,177の壺はK-14号窯式。177の高台接地面に摩滅痕が認められる。高台内には墨書きがあり、不明瞭ではあるがこれも「文室門」と思われる。178～181の壺はK-90号窯式。180の高台内には、二重丸の記号のような墨書きがある。183～185の壺はO-53号窯式。内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。186,187 壺はH-72号窯式。高台内に糸切り痕が残る。188 壺は百代寺窯式。底部は厚手で、内面と高台部分に摩滅痕が認められる。189皿は体部が直線的に開き、底部が厚い。口縁端部外側と高台に摩滅痕が認められる。K-14号窯式か。190～196皿、197段皿はK-90号窯式。内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。198皿は底部が厚く、高台は底部を外れた位置に付く。H-72号窯式。

01Ca・Cb 区（199～247）

199～211は須恵器である。199.200は蓋口縁、201は甕。胸部はタタキ整形の後下部をヘラケズリ調整する。底部を薄く作る。杯は211を除いて他は無台杯で、腰部を面取するもの（202）、しないもの（203）、体部が丸みをもって立ち上がるもの（206）、八の字状に聞くもの（204.205.207.208）などがある。203は底面に「十」のへら書きがある。墨書については、207は「遠方」、208は「文室門」と底部にあり、後者は110と筆跡が近似している。概ねO-10～K-14号窯式に属すると思われる。211は有台杯の底部で、高台内と高台に摩滅痕が認められる。209.210は蓋、鉢形の組部分。

212～219.221～244は灰釉陶器である。212楕はK-14号窯式。口縁内側、外面腹部と高台部分に摩滅痕が認められる。213～219楕はK-90号窯式。215は内面全面に施釉。217の胎土は緻密、精良である。高台部分に摩滅痕が認められる。高台内に墨書されるものがあり、219は稚拙な筆遊びであり、おそらく「文室門」を真似たものと思われる。221～227楕はO-53号窯式。230～229はH-72号窯式。231楕は百代寺窯式。皿では232段皿がK-14号窯式。233～240はK-90号窯式。233は段皿。234は高台内が摩滅し、広い範囲に墨の痕跡がみられ、硯に転用されたものと思われる。241.242はO-53号窯式。241は内面と高台部分に摩滅痕、高台内に墨書（「〇」か）が認められる。243は内面と高台部分に摩滅痕、高台内に墨痕が認められる。底部には糸切り痕が残る。H-72号窯式。

245～244は長頸瓶。246の頭部接合部は三段構成で、肩部にかけて厚く灰釉が施される。

220は緑釉楕で、今回調査ではこの1個体のみ。釉は緑釉で、内面にピン跡が残る。高台は断面は扁平な三角形を呈し、幅のある蛇目高台である。表面は光沢のある暗緑灰色を呈する。出土の直後は黒色に近く、釉の色調は埋没中に変化したものと思われる。

＜IV・V期の遺物＞

99区（248～265）

丘陵末端付近で土坑、溝など遺構が検出されている。IV-1期と少量のIV-2期、V期の遺物がある。掲載資料は水田（湿地）と旧河川出土遺物から抽出した。IV-1期前半に属するものが多い。

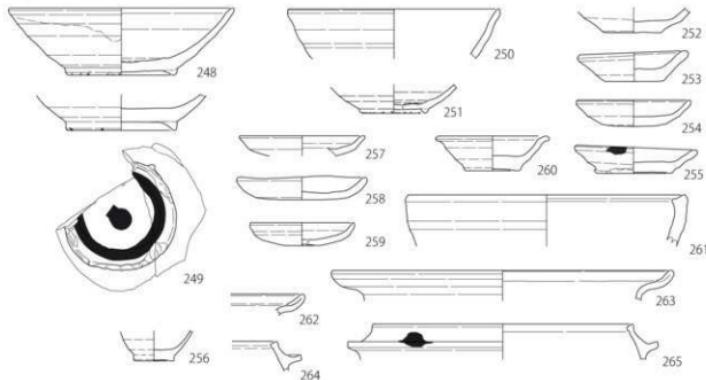
00A区（266～271）

主に微高地を覆う表土からの出土遺物は主に山茶碗・小皿である。266は尾張型第8型式。267は高台の付く小碗、第4型式。268は第7型式。269は東濃型小皿で底部に「の」と墨書が施される。270.271は灰釉折縁小皿。古瀬戸後期IIIか。

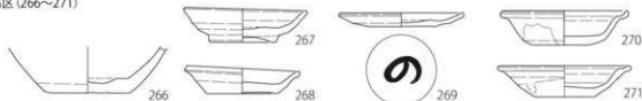
00B区（272～292）

旧河川の出土資料である。比較的遺存状況の高い遺物が多い。272～281.288～290山茶碗は口径が広く、口縁端部が外反する。断面三角形の高台が付き、高台にはモミ痕のあるもの、無いものとがある。尾張型第3、4型式段階か。いずれも高台部分が摩滅し、内面にも摩滅痕が認められる資料が多い。290は口縁上端が内側に突出した形状で、高台内に「上」と墨書が施される。高台部分は摩滅するが内面には認められない。小碗は良好な資料が多く、小皿はやや新しい時期のもので、282～286は尾張型第5型式、第7、8型式段階か。287は胎土が精良で焼成は軟質である。291は灰釉四耳壺、292は灰釉平底未広碗。

99区(248~265)



00A区(266~271)



00B区(272~292)

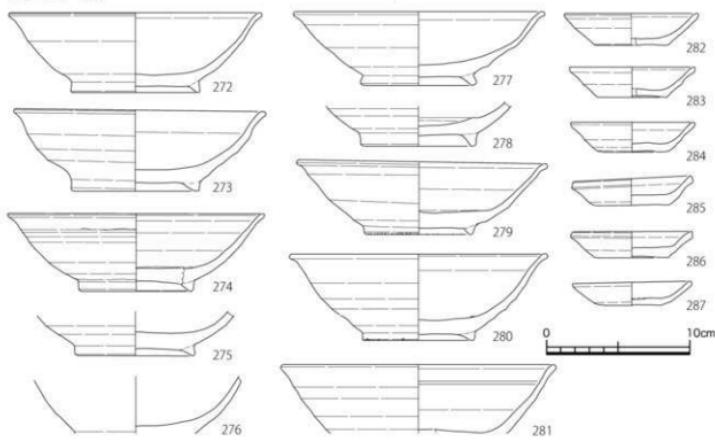


図30 包含層出土の土器・陶器8(中世,S=1/3)

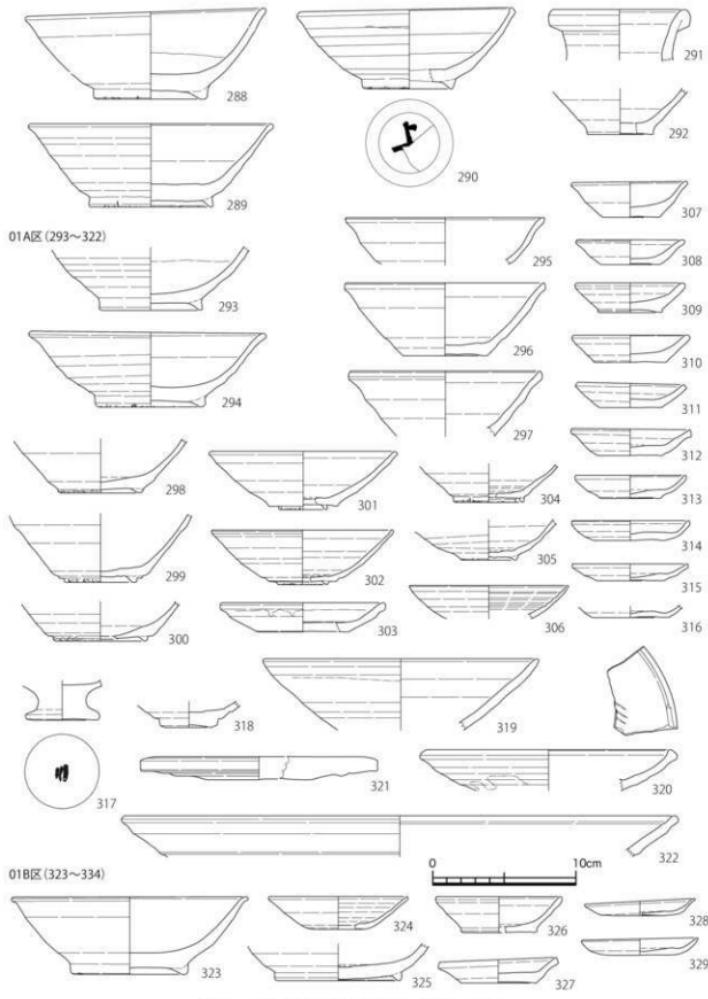


図31 包含層出土の土器・陶器9 (中世,S=1/3)

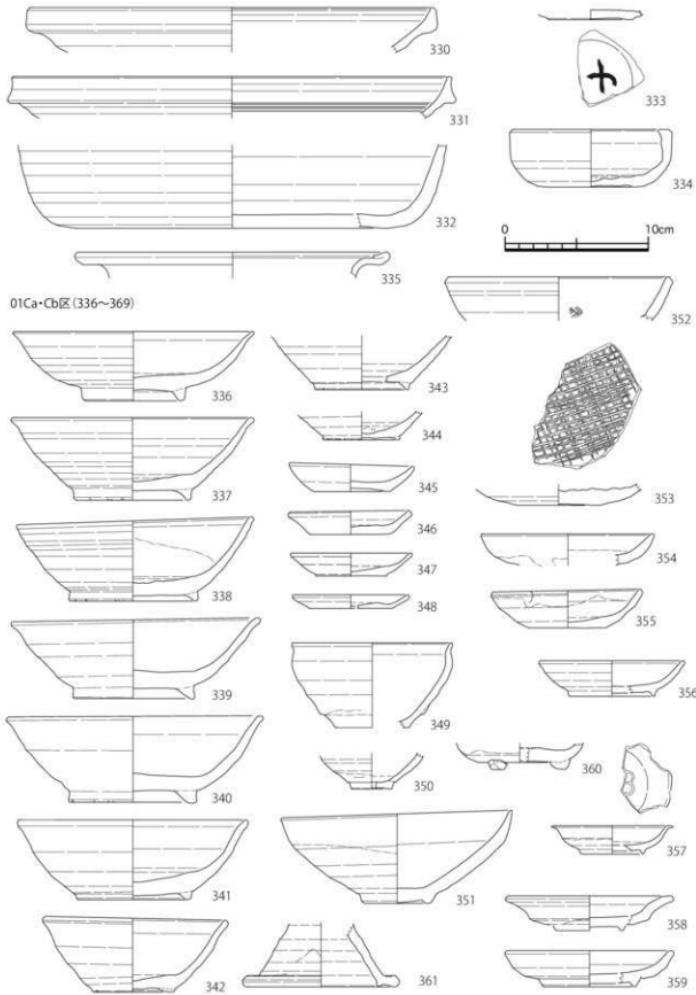


図32 包含層出土の土器・陶器 10 (中世, S=1/3)

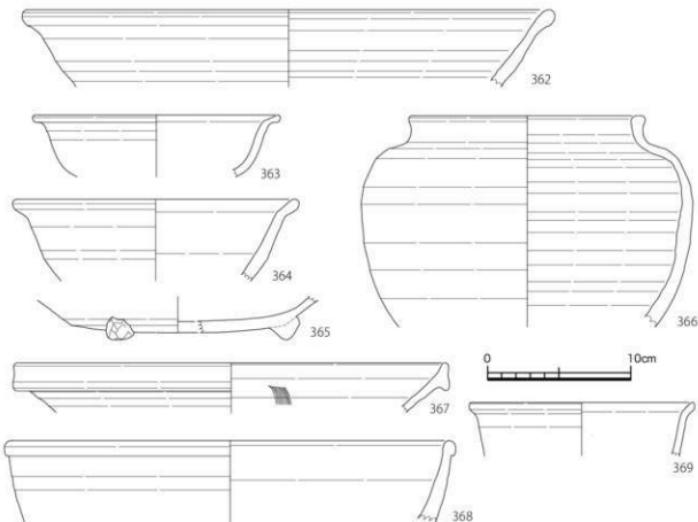


図33 包含層出土の土器・陶器 11 (中世, S=1/3)

01A区 (293 ~ 322)

水田および旧河川の出土資料である。293 ~ 297は尾張型山茶碗。293,295は口縁部内面に降灰が認められる。307 ~ 312は尾張型。298 ~ 306は脂士が緻密な東濃型山茶碗。小皿は313 ~ 316が東濃型。317は仏供。底部に墨書きされている。318は内反高台の天目茶碗。319は灰釉平碗。320は灰釉鉢皿。内側に円環状にめぐる突起に摩滅痕が認められる。322は灰釉直線大皿。以上の施釉陶器は概ね古瀬戸後期の時期にまとまりがみられる。321蓋は上面のみ鉄釉が施されており、下面の突起は使用のため摩滅している。

01B区 (323 ~ 335)

水田および旧河川の出土資料である。323,325 山茶碗はやや大振りで、尾張型第4型式に属する。326,327 小皿はそれぞれ第5型式、第7, 8型式か。333は尾張型小皿で底部に墨書きが施されている。324は東濃型山茶碗、脇之島3号窯段階。328,329は東濃型小皿で、時期は大洞東～脇之島窯段階か。335は土師器伊勢型鍋、使用痕がある。330,331は鉛釉擂鉢。334は灰釉洗。施釉陶器は概ね古瀬戸後 IV 期～大窯1段階に属する。334は烹道具の匣鉢。底部に製品溶着の痕跡がある。大窯期のものと思われる。

02B・C区(370~396)

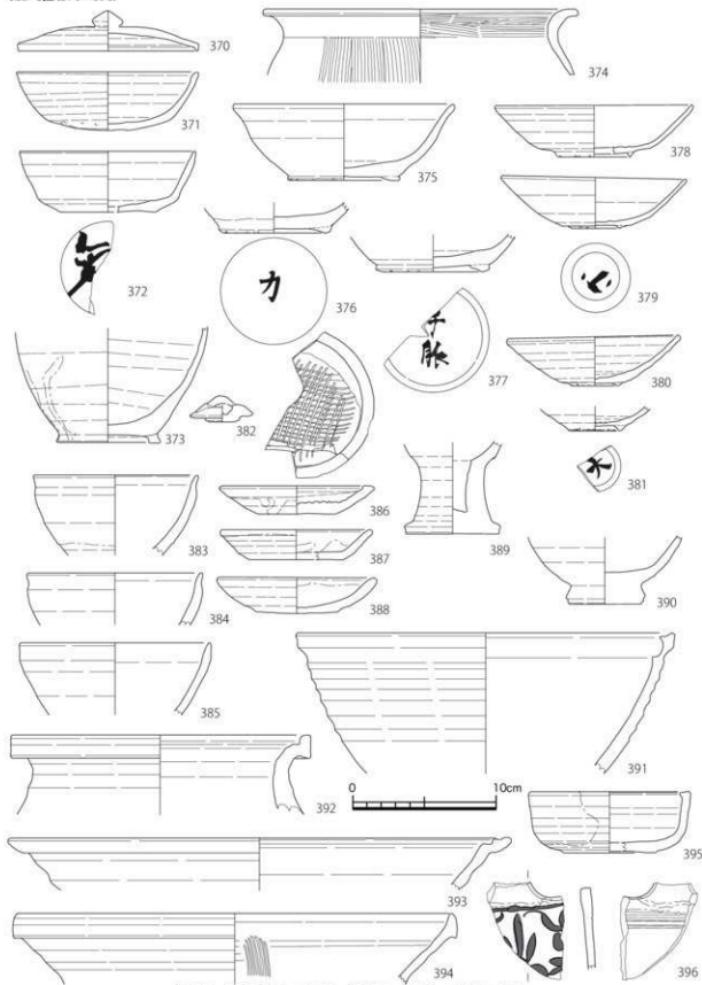


図34 包含層出土の土器・陶器 12 (古代・中世, S=1/3)

01C 区 (336 ~ 369)

調査区南側はOOA区微高地から続く比較的浅い部分、北側はやや深い流路が通る。流路の木材集積地点からIII-1a期の山茶碗が比較的多く出土した。336は尾張型第3型式、337~341は第4.5型式と併行する東濃型山茶碗も含まれる。高台部分および内面に摩滅痕が認められる。342は第6型式。343.344は東濃型山茶碗。345~348は小皿。345の胎土は比較的精良で軟質の焼成である。尾張型第5型式併行期か。346は第7.8型式347.348は東濃型。362は片口鉢。摩滅痕は口縁部内側に顕著にみられる。349.350は天目茶碗。351は灰釉平碗。353は鉗皿。354.355は灰釉縁釉小皿。363は灰釉折縁中皿。364は灰釉折縁深皿。365は直縁大皿底部。368は灰釉洗。369は灰釉柄付片口。施釉陶器のうち364.368.369はIV-1b期、他は概ねIV-2期に属する。356は焼締の小皿。360は鉄釉香炉。361は鉄釉燭台の脚部。357は内面に印花文のある灰釉端反皿。367は銷釉擂鉢。366は銷釉釜。大窯第1段階に属するものか。358は灰釉反皿。359は長石釉丸皿。V期に属する。

< 02B,C 区 > (370 ~ 396)

遺物は少なく散漫に分布する。その中でもIII期の遺物は多くない。370~372は須恵器。370は鉢状の紐が付く蓋。371は無台杯で体部は丸みをもち底部を持ちケズりする。372も無台杯で体部は直線的で腰部は面取する。底部は回転ケズリ調整であり、判読できないが、大きく文字が墨書きされている。373は長颈瓶か。374は土師器濃尾型。外面にスヌが多く付着する。

IV-V期の遺物が表土および湿地で検出された。376~381は山茶碗。尾張型6型式(376.377)、東濃型大烟大洞~大洞東窓段階(378~381)のものがある。底部に墨書きされるものがあり、376は「力」、377は中世資料では稀な複数の文字、381は「大」とある。383~385は天目茶碗。390は仏壇具で、外面上部に銷釉が施される。382は鉄釉蓋。386は灰釉鉗皿。387は鉄釉縁釉小皿、388はハサミ皿。395は匣鉢。391は銷釉耳鉢。393は灰釉折縁深皿。394は鉄釉擂鉢。392は常滑産甕。396は磁器染付の筒形容器で、欠損部付近に修復跡(焼継)がみられる。

< その他 >

I期の遺物として、繩文土器と後述する石器類がある。土器は第V層トレンチ調査の際に採取されたものであり、遺存状況は極めて悪い。1~3は深鉢型の縁帶文土器であり後期初頭~中葉に属するものと思われる。

II期の遺物として、土師器蓋の底部(6)、小型壺(4.5)、台付壺(7)がある。

IV期の遺物として少量ながら青磁碗、皿が出土している。龍泉窯系の鍋蓮弁文、画花文碗、同安窯系の櫛目文のある皿などであるが、いずれも約3~4cm角程度の小片である場合が多い。その他に陶丸(411~416)、加工円板(408~410)、土製鍤(417,418)がある。このうち加工円板は近世の陶器片を利用したものであり、409は周囲に研磨が施されている。

4 木製品

河川流路より木質遺物を多数検出した。大半は自然木であるが、加工痕のある製品等が含まれる。01Cb区の河川流路下層(第IV層)より集中して見つかっている。案(1)は厚さ約2.5cmの台部と下方が撥状に聞く脚部からなる。脚部(2)は脚の太さに比べ結合部が不釣り合いに大きく。おそらく

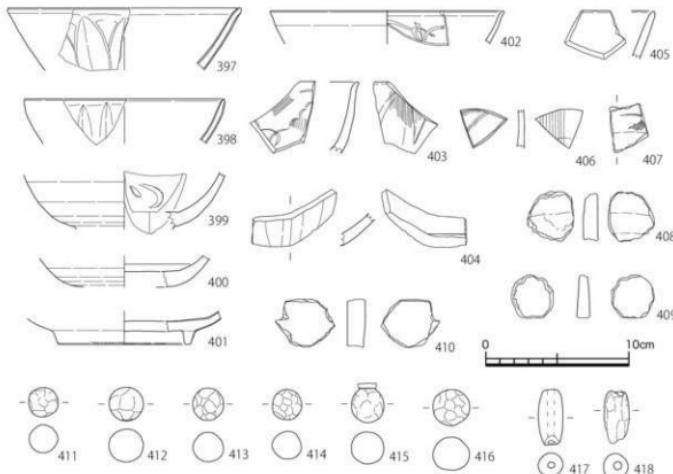


図 35 磁器・その他土器・陶器 (S=1/3)

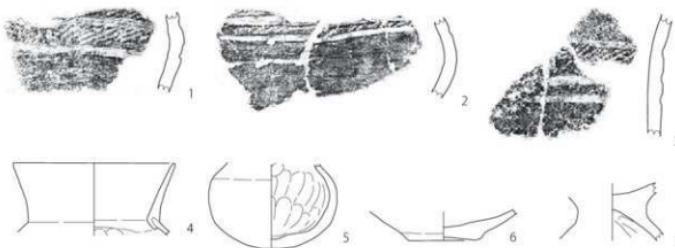


図 36 繩文土器 (1~3, S=1/2)・土師器 (4~7, S=1/3)

く脚部下方が破損したため短く作り変えたものと思われる。把手付削物容器(3)は槽部分に短い把手がつく。陽形(4)の材はツバキ、木説(5)などがある。建築部材と思われる板材が比較的多く(6)有板材は一部が炭化している。(7)は田下駄の足板と思われる。曲物底(9,10)、棒状木製品(11,12)、(13)は垂木と思われる。(14)は田下駄、(15)は大足の足板。(16)は薄い板状の棒状木製品で1個所に目釘が残る。(17,18)は棒状の有板材。(19)は折散であったものを穿孔し転用している。

製品の樹種および放射性炭素年代測定（伐採年代）について、分析結果を表5、6に記す(註1)。

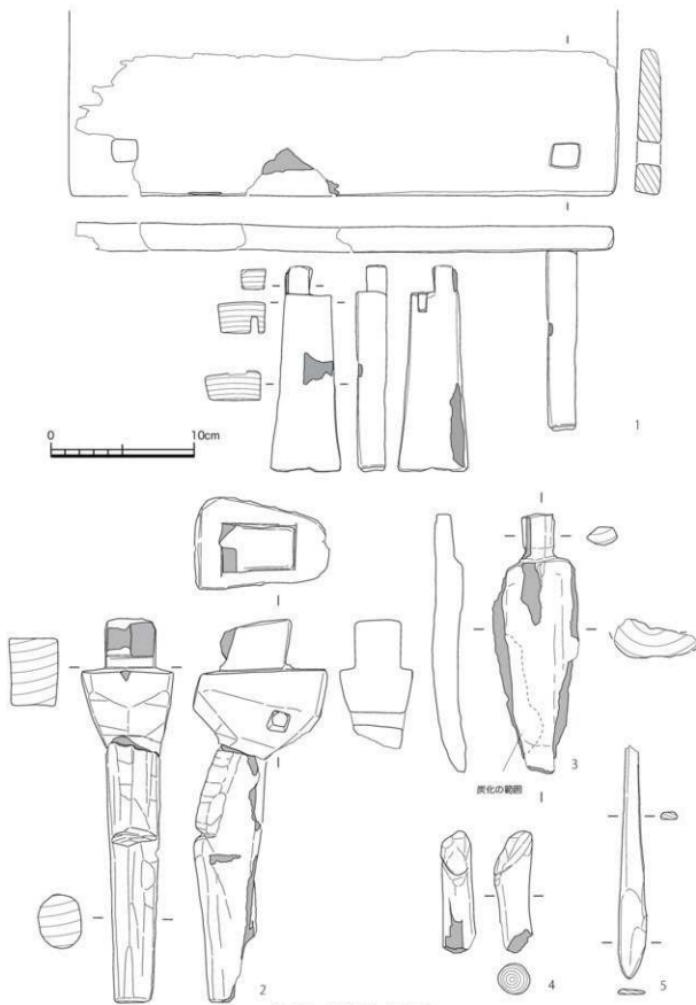


図37 木製品1 ($S=1/3$)

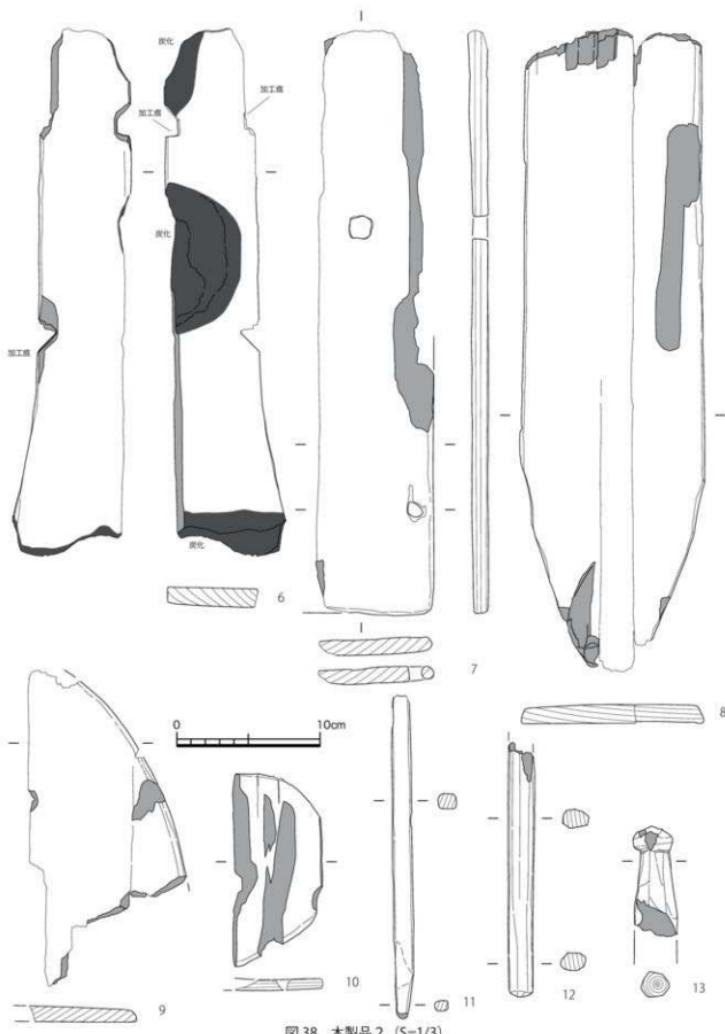
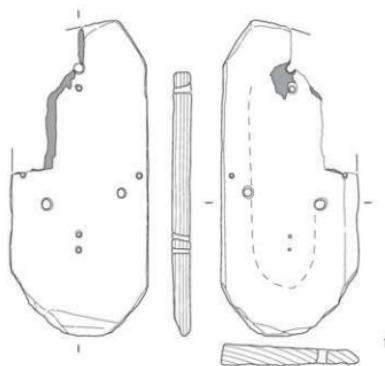
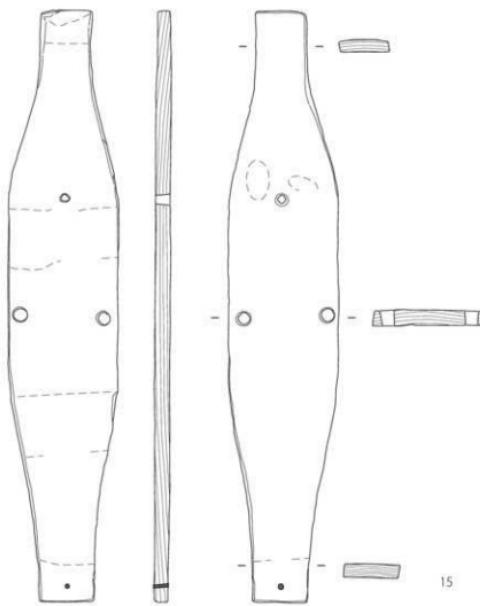


図 38 木製品 2 ($S=1/3$)



14



15

図39 木製品3 (14,15のみ S=1/4)

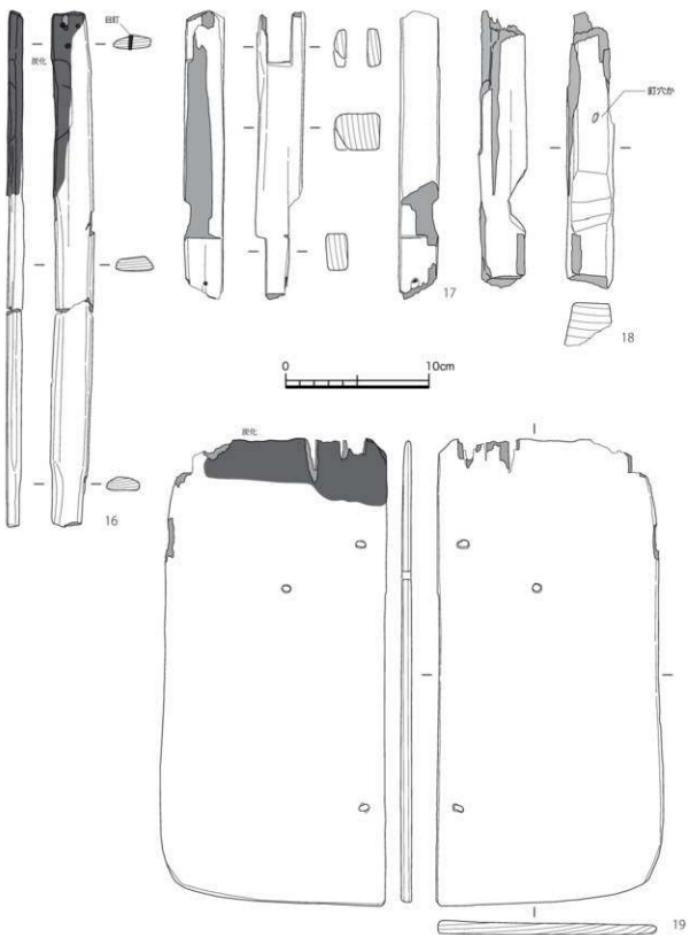


図40 木製品4 (S=1/3)

表5 木製品の樹種

W-no.	調査区	グリッド	道構	器種(形狀)	樹種	木取り		長さ(cm)	幅	厚さ
						斜め斜目	*37.5			
1	O1B	IXE3a	NR01	案	ヒノキ	斜め斜目	*37.5	*9.9	1.7	
1	O1B	IXE3a	NR01	案脚部	ヒノキ		14.2	4.9	2.2	
2	O1Ca	IXE5d	NR01,no.9	脚部	アカガシ亜属	極目	26.8	9.1	6.4	
3	O1Ca	IXE6e	NR01,no.10	把手付削物容器	クヌギ節	板目	*17.8	*5.8	*2.6	
4	O1B	IXE5a	NR01	陽物形	ツバキ		*7.4	2.5	2.5	
5	O1Ca		NR01北西部	木毘	ヒノキ	斜め斜目	*16.2	2.0	0.6	
6	O1Cb	IXE2f	NR01	有抉材(板状)	ヒノキ	斜め板目	*36.1	*7.6	1.2	
7	O1Cb	IXE1f	NR01	板材(田下駄?)	-		*40.4	*8.2	1.1	
8	O1Cb	IXE2f	NR01	板材	ヒノキ	板目	*44.4	*12.2	1.3	
9	O1Cb	IXE2f	NR01	曲物底版	ヒノキ	斜め板目	*21.8	*10.0	1.1	
10	O1D	IXE6n	NR01	曲物底版	ヒノキ	板目	*14.4	*6.0	0.8	
11	O1Cb	IXE2f	NR01	棒状	ヒノキ	極目	*22.4	1.3	0.8	
12	O1A	IXD4m	NR01	棒状	ヒノキ	削り出し	*17.2	1.7	1.2	
13	O1B	IXD5s	NR01	垂木	不明		*7.7	2.8	1.9	
14	O1Cb	IXE2f	NR01	田下駄	ヒノキ		29.2	12.4	1.9	
15	O1Cb		NR01	大足	ヒノキ		54.3	10.1	1.5	
16	O1Cb	IXE4c	NR01	棒(木釘付き)	ヒノキ	極目	35.4	2.8	0.9	
17	O1Ca	IXE4d	NR01	有抉材(角柱状)	ヒノキ	極目	*19.9	2.9	2.5	
18	O1Ca	IXE5e	NR01,no.11	有抉材(角柱状)	ヒノキ	分割	*19.2	*3.1	*3.0	
19	O1Cb	IXE2f	NR01	折歯(穿孔して転用)	ヒノキ	斜め斜目	31.8	*15.0	0.8	

表6 木製品の放射性炭素年代測定結果

W-no.		$\delta^{13}\text{C}$ (0/00)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を層年代に較正した年代範囲		層年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
				1 σ 層年代範囲	2 σ 層年代範囲	
1a	案台部	-26.01 \pm 0.16	1145 \pm 20	880AD(21.1%)900AD 915AD(47.1%)965AD	780AD(1.5%)790AD 810AD(93.9%)980AD	1145 \pm 21
1b	案脚部	-24.16 \pm 0.14	1215 \pm 20	770AD(45.9%)830AD 835AD(22.3%)870AD	710AD(8.1%)750AD 760AD(87.3%)890AD	1216 \pm 20
2	脚	-28.16 \pm 0.15	1095 \pm 20	895AD(25.8%)920AD 945AD(42.4%)985AD	890AD(95.4%)990AD	1096 \pm 20
13	垂木	-28.00 \pm 0.16	1210 \pm 20	775AD(43.3%)830AD 835AD(24.9%)870AD	720AD(4.1%)740AD 770AD(91.3%)890AD	1208 \pm 22
3	把手付削物容器	-26.44 \pm 0.16	1195 \pm 20	780AD(7.5%)790AD 805AD(60.7%)875AD	770AD(95.4%)890AD	1195 \pm 20

その他、O2BBb 区で検出した杭や自然木など加工度の低い資料 22 点について樹種同定を行った。内訳は杭 4 点が針葉樹のアカマツ・ヒノキ、常緑広葉樹のモチノキ属・サカキ、その他芯持ち丸木の形状が大半の木製品 14 点では、ヒノキ(6 点)・アカガシ亜属(3 点)・サクラ属(2 点)・カヤ(1 点)・クリ(1 点)・カエデ属(1 点)、自然木では伐採痕のある根材など 2 点がヒノキであり、カエデ属・アカガシ亜属各 1 点、そのほか炭化材 1 点はクリとの結果を得た。根張り材や加工度の低いこれら検出樹種の多くは、調査区周辺の成育していたと考えられる。以上からヒノキが豊富で常緑広葉樹、落葉広葉樹など多くの種類が成育する自然林に近い安定した森林が広がっていた環境が復元される。なお、東海地方のヒノキが成育している標高は 600m 以上であるが、当時は遺跡を囲む 200 ~ 300m の低山地にも分布していた可能性も考えられるという。なお、この内 3 点について放射性炭素年代測定を行い、7 世紀代伐採資料という年代を得ている(註 2)。

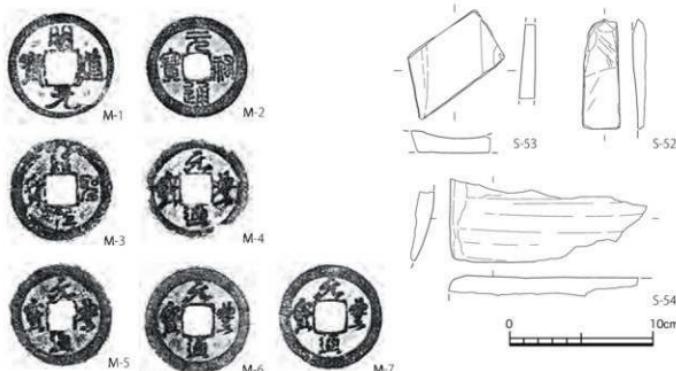


図 41 銭貨 (S=1/1)・石製品 (S=1/3)

【註】

- 1) バレオ・ラボ AMS 年代測定グループ「放射性炭素年代測定」／植田弥生（バレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土木製品の樹種同定」
- 2) 02C 区分析結果 植田弥生（バレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土木製品の樹種同定」／山形秀樹（バレオ・ラボ）「放射性炭素年代測定」

5 石製品 (S-no.)・金属製品 (M-no.)

II 期以降のものと思われる石製品として、凝灰岩製の砥石 (S-52)、泥岩製の硯 (S-53)、一部に自然面を残し砥石に利用されたと思われるもの (S-54) がある。泥岩。

金属製品では、鉄鏃と銭貨がある。鉄鏃は旧河川から 2 点が出土した（写真図版 8-44,45）。鉄鏃は主に儀仗用とされる平根の形態であり、III.2 期に属すると思われる。銭貨はすべて北宋銭であり、散漫な分布状況がみられる。1 は明道元寶（初鋤年代 1042 年）、4～7 は元豐通寶（同 1078 年）、2 は元祐通寶（同 1086 年）、3 は紹聖元寶（同 1094 年）。

6 石器 (S-no.)

本調査によって出土した石器は 80 点ほどで、剥片石器が主体となっている。調査区内には大きな自然流路が存在しており、その中からの出土が大半を占める。02Ba 区は北東から南西に伸びる丘陵部の末端に位置しており、そこから剥片石器が 5 点出土している。

<02Ba 区出土石器> (1～5)

1 は調整のみられる剥片で、ナイフ形石器の可能性も考えられる。横長気味の貝殻状剥片を使用しており、一端に急傾斜の連続した調整を加えている。また、一側辺にもやや不連続ながらも細かい調整が加えられており、もう一側辺には、使用のためか不連続な剥離が観察される。2 は掻器と考えら

れる。一侧辺にやや連続した剥離が観察される。この石器では、同一石器内で剥離面の風化の度合いの差が著しいものがあり、異なる時期による調整などの可能性も考えられるのか。3・4は剥片で、4はやや横長の貝殻状を呈するものである。5は石核でブロック状を呈するものである。打点をずらしつつ同一方向から連続した剥片作出が行われたようで、貝殻状剥片などが作出されたものと考えられる。

<その他地点の出土石器>

主に自然流路内から出土した資料である。以下、器種別に報告する。

石鏃(6～9) 6・7は凹基無茎鏃、9は凹基有茎鏃と考えられる。7・9は鏃身部の平面形状が五角形を呈するもので、8もその傾向がある。8は平基無茎鏃に分類されるものの、基部は若干凸気味を呈しており、有茎鏃との関連も考えられるものである。

石匙(10) 摘部をもつ刃器で、いわゆる「横長石匙」である。刃部調整は両面から行われている。一端がやや尖り気味になっているのも特徴か。

撃器などの刃器(11～13) 刃部調整を行ったと考えられる刃器類を集めたが、使用による剥離との差別が難しいものもある。11は上下に打面を転位させながら作出された縱長剥片を使用しており、側辺と端辺に裏側から剥離を加えているか。12はやや貝殻状を呈する横長剥片を利用して、「拇指指」の刃器が作られている。13は菱形を呈する剥片の斜辺を中心に連続した剥離が見られるものである。

使用痕のある剥片(14～18) 使用によると考えられる剥離痕が観察されるものである。14・16は剥片の長辺部に連続した細かい剥離が見られる。一方、15・17・18の細かい剥離はやや不連続気味であり、局所的に見られるものもある。14・17・18は貝殻状の横長剥片、16はやや縱長気味の剥片を使用している。

調整のみられる剥片(19～21) 製品製作の途中段階のものも含まれている可能性もある。19・21は扁平な形状の剥片で、両面に周囲からの剥離調整が加えられているものである。20は貝殻状の横長剥片作出後に縁辺部への若干の剥離が見られることから、ここに分類した。

剥片類(22～38) 22・23は断面形状台形状を呈する、縱長剥片状のものである。ともに剥片端部が垂直の敲打により折れているか。その他、貝殻状の剥片や菱形を呈する剥片などが多く見られる。剥片の長軸が5cmほどの法量のものが最も大きい部類のようである。

石核類(39～49) ブロック状のもの、板状のもの、円板状のものなどがある。作出されている剥片は貝殻状剥片・菱形の剥片などと考えられる。水晶製のものを2例したが(45・48)、今回の調査では、その他器種で水晶製のものは見つかってはない。

磨製石斧(50・51) 50は両刃石斧。断面形状が楕円形を呈する。調整による敲打痕が所々残されており、最終調整としての全面研磨の様子が観察できる。51は扁平片刃石斧である。断面形状は方形を呈する。使用によるとと思われる剥離痕が若干観察されるか。

剥片石器の使用石材 今回の調査では、02Ba区およびそれ以外の調査区でも、剥片石器石材の主体はチャートである。この傾向は特に剥片・石核類で著しいようである。それに若干の下呂石・溶結凝灰岩・黒曜石・メノウが含まれているようであり、溶結凝灰岩は石鏃1点のみ、黒曜石は剥片類1点のみである。

(川添 和暁)

表7 石器類一覧表（掲載資料）

S-no.	調査区	グリッド	遺構・出土上位 No.	器種	石材1	石材2	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg
S-1	02Ba	IxD10n	無20	ナイフ形石器	チャート			37.20	13.39	5.04	2.33
S-2	02Ba	IxD10n	無20	錐形・スクレーパー類	下凹石		古い石器の 再利用か?	38.92	27.64	8.70	9.23
S-3	02Ba	IxD10n	無20	削片	チャート			25.57	21.49	6.96	3.10
S-4	02Ba	IxD10n	無20	削片(貝殻状)	チャート			29.60	29.94	6.96	6.10
S-5	02Ba	IxD10n	無20	石核	チャート			31.41	35.75	19.23	24.81
S-6	99	VxD16n	青い色の粘 土の上	石核(無茎)	チャート			14.34	12.30	2.96	0.59
S-7	00B		表面	石核(無茎)	下凹石			32.15	12.43	3.91	1.45
S-8	00A	IxD10n	無20-2	石核(無茎)	チャート			18.29	14.13	3.66	1.00
S-9	99	VxD14n-n	青い色の粘 土の上	石核(有茎)	滑らかな灰岩			22.48	13.54	3.03	0.96
S-10	02C	0DF9r	無20-1	錐形・スクレーパー類	チャート			39.36	31.17	11.22	16.81
S-11	00A	IxD10n	NPD1.mn.12	錐形・スクレーパー類	チャート			46.10	39.76	8.28	20.89
S-12	00B	VxD18n	NPD1.mn.18	錐形・スクレーパー類	チャート			49.88	35.41	17.03	28.70
S-13	01A	IxD10n	NPD2	錐形・スクレーパー類	チャート			31.63	21.52	5.59	3.45
S-14	99		青い色の粘 土の上	使用歴のある削片	チャート			23.08	22.62	8.68	5.42
S-15	99		青い色の粘土質 土の上	使用歴のある削片	チャート			37.72	34.59	17.43	26.76
S-16	01B	IxD3n	NPD1.Y	使用歴のある削片	チャート			41.75	31.18	4.35	7.61
S-17	00B	VxD19n	NPD1.mn.B	使用歴のある削片	チャート			29.84	29.79	5.42	5.30
S-18	00B		北のレーチ	使用歴のある削片	チャート			28.04	40.16	6.31	7.34
S-19	00B	VxD18n	NPD1.mn.B	調整のみられる削片	チャート			18.17	12.38	3.54	0.87
S-20	02Bb	IxD9n	無20	調整のみられる削片	チャート			16.55	22.03	7.30	2.63
S-21	01A	IxD2n	NPD2	調整のみられる削片	チャート			18.51	21.18	4.64	2.20
S-22	02Bb		無20(青い色 粘土質)	縦長削片	チャート			24.60	16.28	4.40	2.03
S-23	00A・B	表面	縦長	削片	チャート			19.78	11.79	2.68	0.95
S-24	02Bb	IxD8n	無20(青い色 粘土質)	削片	下凹石			15.90	18.40	10.08	2.05
S-25	99	VxD15m	青い色の粘 土の上	削片	チャート			26.61	34.60	9.92	7.68
S-26	99		青い色の粘 土の上	削片	黒曜石			22.54	16.14	8.49	2.55
S-27	99		青い色の粘土質 土の上	削片	チャート			28.68	22.61	7.78	5.26
S-28	02Bb	IxD6n	青い色(青い色 粘土質)	削片	下凹石	円錐(同)		30.14	22.20	6.34	3.53
S-29	99		青い色の粘土質 土の上	削片(貝殻状)	チャート			24.74	25.53	6.68	2.95
S-30	02Bb	IxD9c	土質	削片	チャート			37.35	25.32	5.50	5.73
S-31	02Bb	IxD9c	無20	削片	チャート			22.13	26.66	4.55	2.78
S-32	02C	IxD10n	無20	削片	チャート			36.29	36.55	10.83	12.02
S-33	02C	IxD9n	no.3	削片(五角形状)	チャート			35.14	31.57	7.00	7.34
S-34	00B	VxD19n	NPD1.mn.24	削片(貝殻状)	チャート			28.56	22.12	6.28	4.06
S-35	99	VxD16n	青い土	削片(五角形状)	チャート			30.64	38.48	7.27	5.85
S-36	02C	IxD9n	無20	削片	チャート			26.48	25.30	10.58	6.19
S-37	00B	VxD19n	NPD1.mn.14	削片(五角形状)	チャート			25.99	27.26	5.92	3.20
S-38	99		青い色の粘土質 土の上	削片(五角形状)	チャート			32.39	32.27	6.82	6.21
S-39	00B	VxD20n	NPD1.mn.16	石核	チャート			16.44	34.55	10.66	4.15
S-40	00A	表面	石核	チャート				23.15	26.04	7.88	4.57
S-41	00B	表面	石核	チャート				19.89	27.07	8.52	5.35
S-42	99	VxD15n	青い土	石核	チャート			22.64	20.33	11.02	4.76
S-43	00B	VxD20n	NPD1.mn.16	石核	メノウ			38.42	38.35	12.47	17.76
S-44	99	VxD19p	トレンチ(同じ 土の上:青い土質)	石核	チャート			50.89	32.85	12.90	26.49
S-45	01B	IxD8n	NPD1(上層)	石核	水晶			27.04	41.69	15.91	15.62
S-46	01Ca	IxD6d	NPD1(上層)	石核	チャート			40.03	22.02	22.75	32.11
S-47	02C	0DF9r	無20	石核	チャート			28.10	19.59	9.71	5.21
S-48	02Bb	IxD6n	青い色(青い色 粘土質)	石核	水晶			26.20	20.02	10.93	6.33
S-49	02C	0DF9q	無20	石核	チャート			26.73	15.45	10.08	4.81
S-50	01B	IxD8n	NPD1(上層)	造製石片(両刃石片)	ホルンフェルス			126.23	44.19	27.05	227.51
S-51	00A	表面	造製石片(両刃石片)	安山岩				69.11	35.74	14.39	71.52

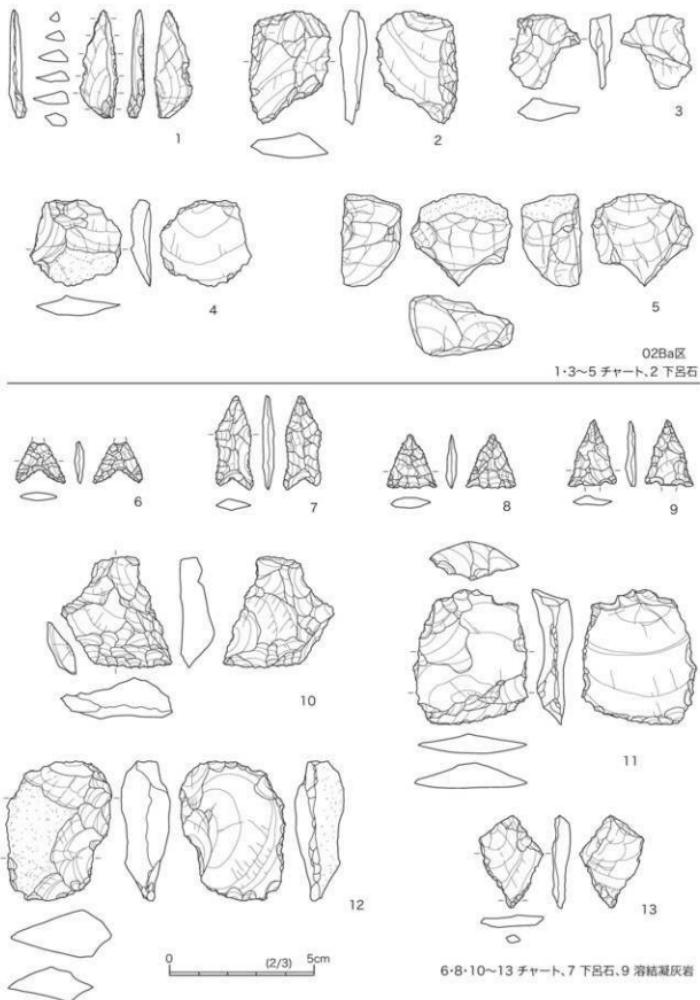


図42 石器1 (S=2/3)

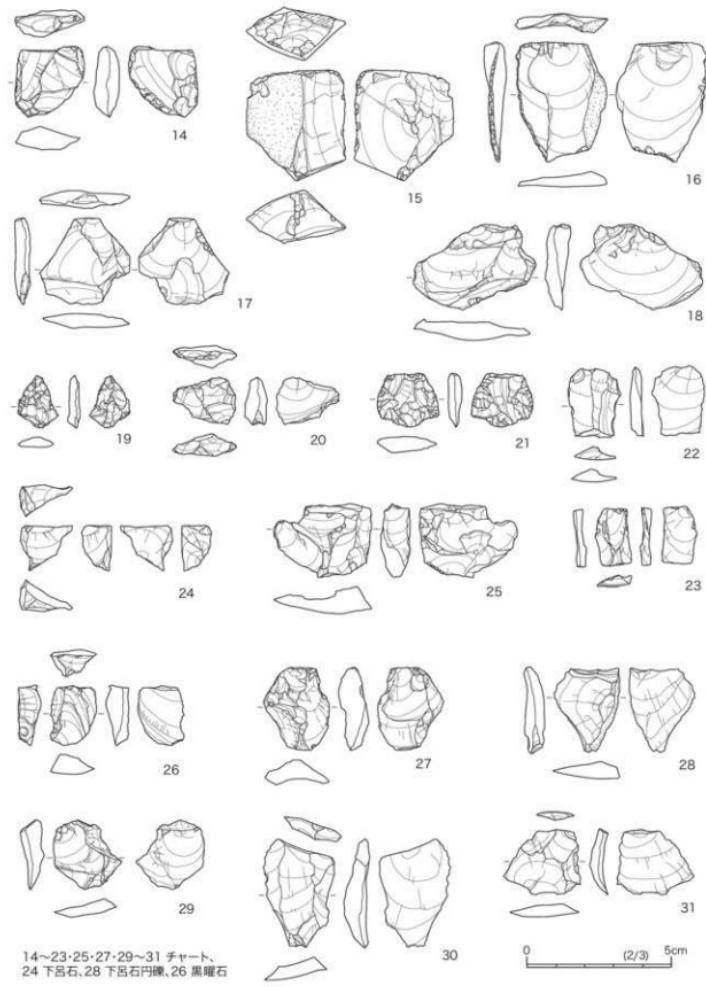


図43 石器2 (S=2/3)

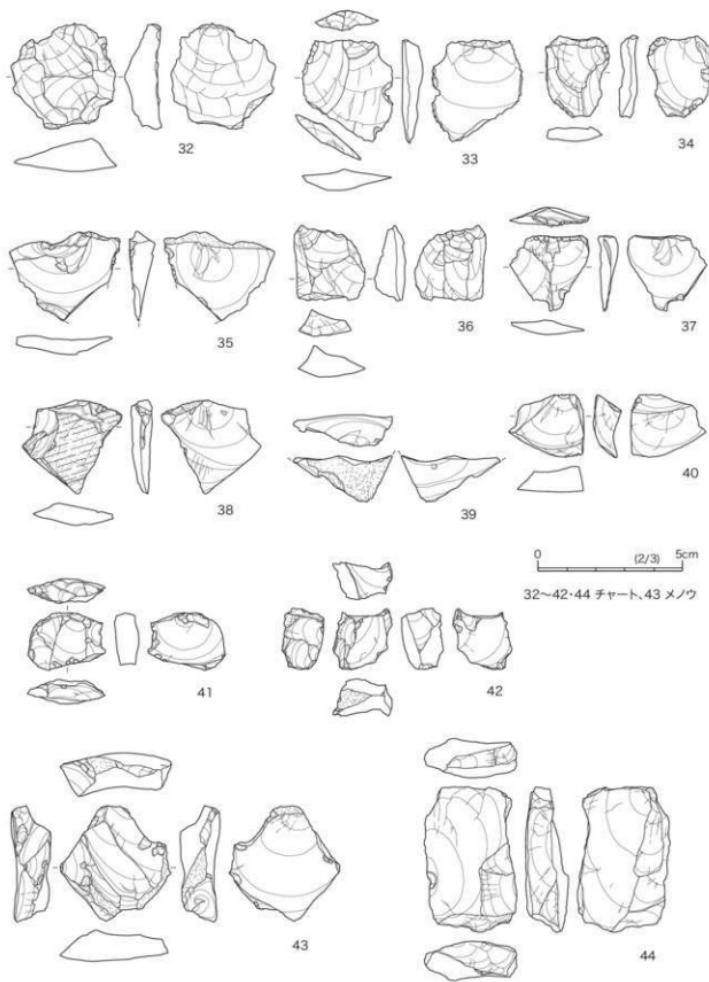
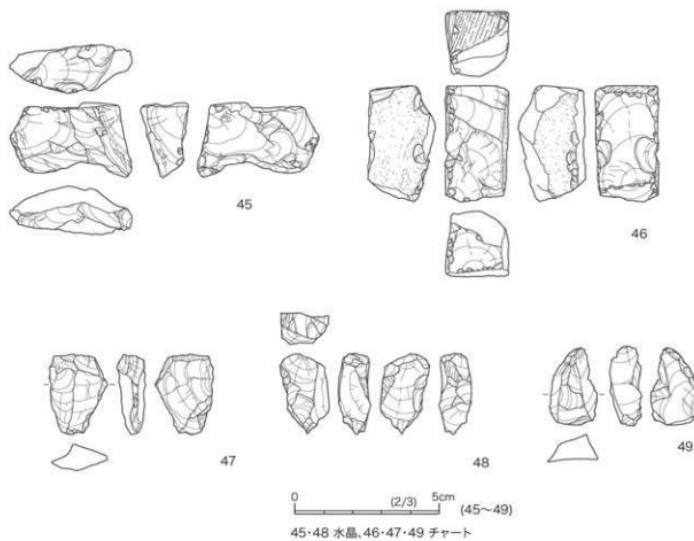


図44 石器3 (5=2/3)



45・48 水晶、46・47・49 クォーツ
チャート

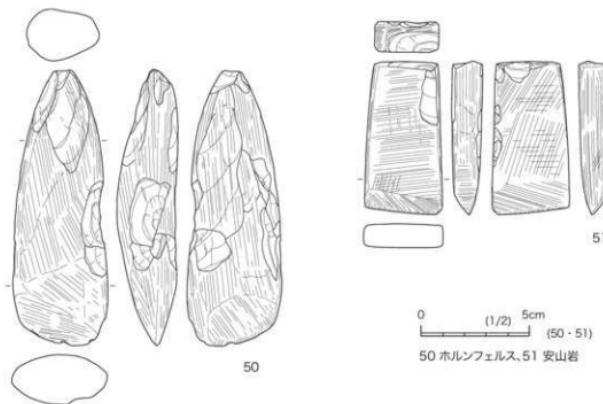


図45 石器4 (S=2/3)

第4章 総括

今回の調査地点の大部分は、かつての蟹川・水野川の流路および氾濫原であった。平面的には厳密に区分することができないものの、縄文時代から中世の遺物を含む数次の流路の痕跡が確認されている。そのような堆積環境にあって安定した遺構面はほとんどみられなかったが、丘陵の末端およびOOA区の中洲状の微高地という限られた範囲において、竪穴建物を含む平安時代の居住域の一端が確認された。上品野蟹川遺跡の古代の集落の実態については、これまで出土遺物より推測されるのみで多くが不明であり、今回の成果は部分的とはいえ、集落の景観復元にむけて貴重な資料を加えることになった。

ここではOOA区微高地上に確認された遺構群について、および墨書き資料と調査区全体を覆っている河川流路の痕跡について先行調査の成果と併せて整理しておきたい。

1 OOA区の遺構群について

<微高地上の遺構分布状況と時期>

平安時代の遺構群が検出された範囲は、幅約16m、長さ46m以上の南北方向に細長い微高地上であり、両側は河川流路（東：NR02、西：NR03）へと急激に傾斜している。検出面の標高は178.9～179.5mを測り、南側へも緩やかな傾斜が確認されるため、調査範囲は微高地上の南端に近い位置と考えられる。この微高地の西寄りに竪穴建物1棟（SK01）が単独で存在し、付近には大型の土坑1基（SK53）と複数の小土坑が疎らに分布する。竪穴建物の南には並行する溝2条（SD01,02）があり、溝の方向は竪穴建物とは一致せず微高地の傾斜に直交する方向をとる。微高地を横断するように画する溝（SD02）を境にして更に南側には小土坑が密に分布しており、複数の掘立柱建物が存在したものと想定される。これらの遺構は比較的狭い微高地上に展開し、しかも不自然に偏った配置のように思われるが、河川流路（NR01）下層に古代の遺物を多く含む流路（NR03）が確認されており、また西側の標高178.7mのレベルで長方形土坑（O1Ca区SK01）のみが確認されている。実際にはこの辺りまで遺構が連続して分布し、微高地の範囲、すなわち居住に適する高燥な土地の範囲はさらに広く、後世の河川流路（NR01～）の変更にともない削平されたものと思われる。

河川流路から出土した灰釉陶器について、型式ごとの出土量を明確な数値で示すことはできないが、掲載資料の傾向でみるとK-14号窯式期に本格的に始まり、ピークはK-90号窯式期、O-53号窯式併行期以降は急激に減少しつつH-72号窯式期まで一定量が認められる。これらの多くは表面に目立った摩耗はみられず、特に微高地付近では良好な遺存状況の個体を多く採取していることから、この微高地上の居住域で使用された遺物である可能性は高く、集落の存続期間および消長を示すものと考えられる。

竪穴建物の廃絶時に残された灰釉陶器は9世紀前半の時期を示しており、建物部材の一部である木製品（W-13）の年代測定（AMS）結果では8世紀後半から9世紀後半の年代を得た。出土灰釉陶器（1点）の型式では、竪穴建物は集落の存続期間の早い段階で廃絶したとも考えられるが、た

だその地点は廃絶後に再利用の痕跡がみられず、炭化材が残存し灰釉陶器椀（完形）が伏せた状態で残されるという廃棄方法はやや特異にも思われる。K-90号窯式期を主体とする周辺遺構群とは断絶せず一定期間重複していたものと思われる。

2 古代の墨書き資料について

今回の調査で墨書きのある資料は文字、記号等を含めて 16 点が確認された（図 46）。特に注目されるのは、その内 3 点に施された「文室門」（上文字欠損の「門」を含めると 4 点）の文字である。その他にも 2 文字では「遠方」「山寺」「豊道」、1 文字では「山」（2 点）などがある。出土地點は OOA 区微高地すぐ西側の 00B 区・01Cb 区、すぐ東側の 01D 区の河川流路にまとまりがみられる。なお、この微高地から離れた下流域にあたる市調査地點では「知」など 5 点の墨書き、箋書き 1 点（以上須恵器、灰釉陶器）が出土している。

今回出土した 9 世紀後第 2 四半期～10 世紀前半の墨書き資料のうち、2～3 文字からなる墨書きは古い時期に多く、時期が降るにしたがって 1 文字または記号を記すもの、硯へ転用されたと思われる墨付着資料が増える傾向がみられる。また、「文室門」は筆致が類似する個体があり、ほぼ同時期の資料と見做すこともできる。ただ「文室門」語句については過去出土資料に類例はなく（註 1）、遺跡の

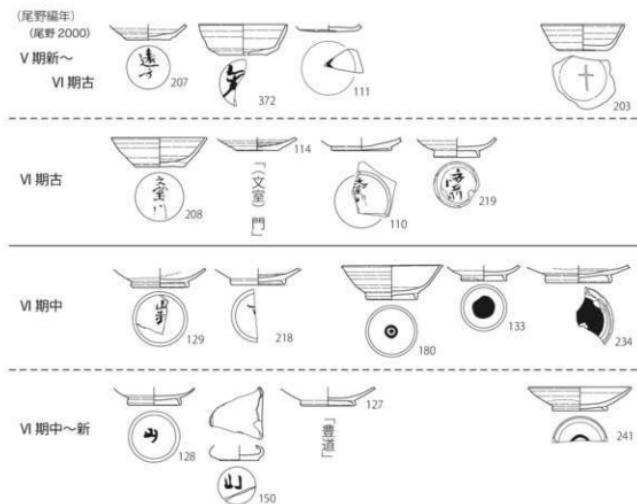


図 46 上品野蟹川遺跡出土の古代墨書き資料（遺物 S=1/6）

性格からの位置づけもまだまだ困難な状況ではあるが、古代の墨書き資料が比較的多く検出される瀬戸市域の事例との比較から、これら資料の特性を提示しておきたい。

墨書き資料の出土は、瀬戸市域でも特に品野盆地の集落遺跡に集中している。盆地西側に位置する品野西遺跡は、古代の集落が早い段階に成立していたことが確認されている。河川流路出土資料として8世紀後半～11世紀前半の時期の資料で墨書き13点、籠書き3点がある。判読された字句は「農」が4点、「口磨」1点、「下」2点、「季年福口」1点（籠書き）、「千守」2点である。複数字句のものが多く、則天文字が含まれている。吉祥句のほか、人名と思われる字句がある。そのほか遺構は未確認ではあるが、7世紀中葉一後葉とされる龐状重弧文軒平瓦を含む古瓦が出土し、寺院など瓦葺き建物が存在していた可能性がある。

上品野蟹川遺跡とは水野川対岸となる丘陵に立地する上品野遺跡では、溝および包含層で検出された資料に墨書き37点、籠書き4点がある。9世紀初頭の堅穴建物（1棟）のほか10世紀後半の時期を中心とした掘立柱建物群、溝が確認されており、墨書きは溝および包含層から出土している。判読された字句は「吉」12点、「用」3点、「春」2点、「山」「缶」「東」「土」「万」「財万」（以上各1点）などがある。ほとんどが單字句であり、吉祥句、記号的な字句が多い中で人名と推測される「財万」はやや特異である。そのほか8世紀代の木製品馬形、斎弔などが出土しており、「官衛的」な祭祀行為が行われていた可能性が指摘されている。

上品野蟹川遺跡集落の成立から盛期は両遺跡の中間にあたり、これら品野盆地を跨ぐ3地点周辺の本格的な開発は、概ね品野西→上品野蟹川→上品野の順に水野川沿いに展開したとみることができる。墨書きの内容についてみると、複数字句から單字句への変化は全体の傾向として認められる。特定字句への集中度という点では、各遺跡全期間で複数出土した字句は、吉祥句的な用法が推定される「農」「吉」「千守」、記号的な「下」「山」「用」「春」、そして「文室門」がある。品野西遺跡では複数点出土した字句は3種類であり全体に占める割合は高い。上品野蟹川遺跡の「文室門」はほぼ同時期の4点であり、使用期間のみならず用途も限定的という意味での集中度はかなり高いといえる。上品野遺跡「吉」は同じ溝（SD01, 級）より9点が出土している。廃棄状況から一括りは比較的高いと思われる。1点以上が検出された字句はほかに「用」「春」があるが、「吉」の点数が突出して多い。そのため、字句のばらつきは單字句が多い上品野遺跡で特に顕著となっている。

こうした字句の選択に関わって見えてくる特徴には、祭祀行為を含む具体的な使用方法の時間的な変化や、それ以外にも集落の性格によるなんらかの差異が含まれていると考えられる。これらの遺跡で転用観らしきものははあるが、現そのものは今のところ検出されていない。墨書き資料は存在するが、実は識字層の存在形態についても問題となるであろう。

【註】

- 1) 文献を涉獵された福岡猛志氏は「大学寮の門」との解釈の一例を示された（福岡 2004）。鎌倉時代初期に編纂された文献に「大学寮」の和訓は「フンヤノツカサ」であり、学生をさす「文屋童（フンヤノワラハ）」の語も存在する。人名では「文屋」と「文室」が同様とされる場合もある。さらに「文室」の語は、「門前の小僧、習わぬ経を読む」の類の成句とされる「文室因縁（フンヤノホトリノスメ）」千字文云、秋収冬藏」（『世說新語』）にみられる。12世紀後半成立の文献には「勧学院の雀は雀求を囁く」（『宝物集』）の謂いがあり、福岡氏は「勧学院」と対句的に用いられる「文室」は「大学寮」をさすと解釈される。出土した墨書きは国学生が中央の大学への「考練得第」を願つてのまじない行為ではないかとの仮説も示されている。出土資料の事例（奈文研 2003）では「文屋」は平城京左京三条二坊七坪(1)、左京三条二坊一・八坪(5)の計6点。「門」は出雲国府跡のほか「田門」（古川市・名生館官衙遺跡）がある。

3 河川流路の変遷

図47は市調査成果により推定された、主要な流路「河川1」「河川2」(岡本1998)に今回の成果を追加作成したものである。上品野蟹川遺跡の範囲のうち発掘調査が行われた西側については、大半が旧蟹川の流路および氾濫原に含まれると考えられる。

河川流路(NR03)は01B区の北部では浅く途中で不明瞭となるが東西方向に、南部で比較的明瞭な南北方向の流路が検出されており、分岐して流れている状況が窺われる。平面的には後者が市第2次調査地点の北端の流路に近く、現況の水路の位置等を参考にすると「河川2」に繋がる可能性が高い。NR03(旧NR01下層,IV層)から出土した木製品(1,2,3)の年代測定(AMS)では8世紀後半から10世紀後半の結果を得ており、NR01堆積層(II層)との境界付近となる上層では山茶碗尾張型3.4型式(336~340)が出土している。この地点(01Cb区)では12世紀初めにはほぼ埋没して、湿地状を呈していたと考えられる。なお、市調査地点で9世紀以降埋積が進んだとされる点は同様であるが、01C区では砂層はほとんど含まれず、流れの少ない状況で埋没した状況が確認されている。

河川流路(NR02)微高地の東側の深い落込みである。9世紀以降埋積が進み、流れの少ない止水性の堆積であり、湿地状を呈していたと思われる。その上部は中世以降の河川性の堆積(NR01)と近代までの遺物を含む水田耕作土・床土で覆われている。

河川流路(NR01)今回の調査区の大部分を覆う河川性の堆積層(II層)の範囲である。中世以降に堆積が進み、01B区では複数の砂層を含む層厚1m強の堆積を確認している。流量の大きい時期があり、01A区微高地もこの時点で削平を受けたと考えられる。上品野蟹川遺跡では急激な堆積環境の変化が、中世初頭に確認でき、この原因には主要な河川流路の大幅な変更があったことが考えられる。なお、安定した水田耕作土層はII層上位およびI層で確認されるのみであり、長い期間水田耕作にも厳しい環境であったと考えられる。

上品野蟹川遺跡と上品野遺跡では、古代の集落に選地される地形が沖積地から丘陵へ変わっている。上品野蟹川遺跡では微高地付近の出土遺物からは、居住域がまだ暫く継続した状況が窺われるものの、河川流路の変更が周辺環境へ影響を及ぼし始めた時期は、距離の近い上品野遺跡の集落が盛期となる10世紀前半に求められるかもしれない。

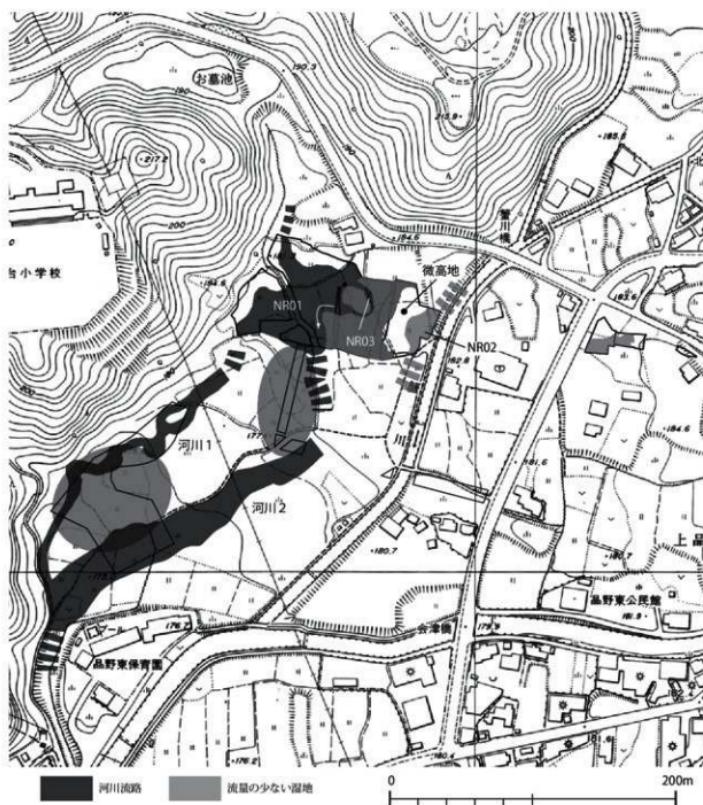


図47 推定される河川流路 ($S=1/3,000$)
(平成17年都市計画図を使用、岡本1998の河道想定図をもとにトレース・加筆)

【参考文献 第2章～】

- 伊藤厚史,2001「灰釉陶器小図鑑—折戸 53号窯期～百代寺窯期—」
見晴台考古学資料館研究紀要3
- 岡本直久,2005「尾張地域の山茶碗」中近世土器の基礎研究 XIX
尾野善裕,2000「猿投(系)須恵器編年と再構築」東海上器研究会
- 尾野善裕,2006「古代土器編年と曆年代観—10・11世紀を中心に—」
第14回京都府埋蔵文化財研究会発表資料
- 尾野善裕,2006「考察」東山114号発掘調査報告書」名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室
斎藤孝正,1994「1 東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心として—」
『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会
- 田口昭二,1982「美濃窯の灰釉陶器と緑釉陶器」考古学ジャーナル 211
永井宏幸,1996「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」
『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム
- 平川南,1991「墨書き土器とその字形—古代村落における文字の実相」
国立歴史民俗博物館研究報告 35
- 藤澤良祐,1994「山茶碗研究の現状の課題」三重県埋蔵文化財センター研究紀要 3
藤澤良祐,1982「古瀬戸中期様式の成立過程」「東洋陶磁」8
- 藤澤良祐,1991「瀬戸古窯址群II—古瀬戸後期様式の編年—」瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 X
藤澤良祐,1995「瀬戸古窯址群III—古瀬戸前期様式の編年—」
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 3
- 藤澤良祐,2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 10
福岡猛志,2004「文宝門小考—上品野蟹川遺跡出土の墨書き陶器によせて—」
半田市文化財専門委員会研究所紀要
- 吉岡康暢,1991「墨書き土器をめぐる問題」『日本海域の土器・陶器』六興出版
- 報告書等
- 山下峰司,1990「上品野遺跡」瀬戸市教育委員会
水野 収,1996「資料紹介 上品野蟹川遺跡出土の特異品」
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 4
- 岡本直久,1997「品野跡」瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 13集
岡本直久,1998「上品野蟹川遺跡I」瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 16集
金子健一,1999「上品野蟹川遺跡II」瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 21集
川添和曉,2005「上品野遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 132集
- 瀬戸市,2006「瀬戸市史 資料編三」
瀬戸市,1993「瀬戸市史 陶磁史篇 四」
瀬戸市,1998「瀬戸市史 陶磁史篇 六」

土器・陶器登録遺物一覧表 1～8

基本平面図 1～12
(S=1/200)

写真図版 1～18

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 径(cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
1	01A	002x	南北トレンチno.5	陶文土器	縁带文	後期初頭～中葉					
2	01A	002x	南北トレンチno.6	陶文土器	縁带文	後期初頭～中葉					
3	01A	002x	南北トレンチ	陶文土器	縁带文	後期初頭～中葉					
4	01A		NA01南西剖	土師器小型壺			11.0	*4.7	-	2	-
5	01A		東北測定	土師器小型壺		松河戸門	-	*5.8	-	-	12
6	99		西面測定no.43	土師器壺			-	*2.3	4.8	-	7
7	01B	003i	NA01	土師器台付壺			-	*2.9	-	-	
8	00A	002y	SK40-24	灰陶器縁壺	K-14	18.2	5.6	7.7	12	12	
9	00A	002y	SK40-26,27,28	土師器縁壺	漏尾系	18.0	*9.5	-	12	-	
10	00A	002y	SK40-26,32	土師器縁壺	漏尾系・年代測定no.5	13.8	*4.9	-	8	-	
11	00A	002y	SK40-19	土師器縁壺	底部に木炭痕	-	*8.7	5.0	-	12	
12	00A	002y	SK33-20	須恵器縁白杯		12.8	*2.4	-	1	-	
13	00A	002y	SK33-13,SK33-14	土師器縁把手付壺		27.2	*21.1	-	1	-	
14	00A	002y	SK01	須恵器縁壺	底部静止止め	-	*0.75	5.4	-	5	
15	00A	002y	SK01	灰陶器縁壺	高台内に入ス	0-53	-	*1.2	6.4	-	6
16	00A	002y	SK01	灰陶器縁壺	K-90か	-	*2.9	-	1	-	
17	00A	002y	SK107,no.21,麻田	灰陶器縁壺	見込・高台摩滅	K-90か	16.0	5.1	7.8	8	12
18	00A	002y	SK55	灰陶器縁壺	K-90か	16.2	*2.7	-	1	-	
19	00A	002y	SK48,no.15	灰陶器縁壺	K-90	14.2	*3.5	-	2	-	
20	00A	002y	SK94	灰陶器縁壺	K-90	16.5	*3.15	-	1	-	
21	00A	002y	SK94	灰陶器縁壺	K-90	16.0	*2.1	-	1	-	
22	00A	002y	SK125,no.17	灰陶器縁壺	見込・須恵	0-53	-	*3.0	7.6	-	5
23	00A	002y	SK138	灰陶器縁壺	0-53	11.4	*2.5	-	1	-	
24	00A	002y	SK93,南西剖	灰陶器縁壺	H-72	-	*1.95	5.8	-	7	
25	00A	002y	SK98	灰陶器縁壺		-	*2.0	-	1	-	
26	00A	002y,7	SK42,東側	灰陶器縁壺		10.8	*2.55	-	5	-	
27	00A	002y	SK48,no.14	土師器縁壺		13.6	*5.4	-	2	-	
28	01Ca	001H	SD01,no.18,19	灰陶器縁壺	高台内に墨痕か	K-90か	17.6	4.0	9.6	7	12
29	01Ca	001H	SD01,no.12	灰陶器縁壺	高台摩滅	K-90	-	*2.8	6.6	-	12
30	01Ca	004L,004L'	NA01,SD01,no.14	灰陶器縁壺	K-90	13.2	4.0	7.0	4	8	
31	01Ca	001H	SD01,no.16,20,21	灰陶器縁壺	高台摩滅	K-90か	14.6	3.8	7.2	6	11
32	01Ca	001H	SD01,no.15	灰陶器縁壺	高台摩滅	K-90	13.1	3.3	5.8	1	5
33	01Ca	001H	SD01,no.17	灰陶器縁壺	高台内に墨書き「寺」見 込・高台摩滅	K-90	13.5	3.2	6.2	5	12
35	01A	002y	SD02-1,山茶碗(尾張型)	山茶碗(尾張型)	高台内に墨書き	第4型式	18.0	5.1	7.4	1	5
36	01A	002y	SD02-1,山茶碗(尾張型)	山茶碗(尾張型)		第4型式か	-	*5.4	8.8	-	12
37	01A	001m	SD02,no.2	山茶碗(尾張型)		第4型式	15.9	5.8	6.6	8	12
38	01A	001m	SD02-1	山茶碗(尾張型)	口縁内側・見込・高台 摩滅	第5型式	15.8	4.7	7.4	6	12
39	01A	002y	SD02-2,1	山茶碗(尾張型)	高台摩滅・内面にスス 附上口縁内側・見 込・高台摩滅	第5型式	16.4	4.7	8.4	2	12
40	01A	k	VSD02y,JD4	SD02-1,MGT(高台 系)	山茶碗(尾張型)	上口縁内側・見 込・高台摩滅	15.0	5.6	7.3	8	12
41	01A	002y	SD04	小皿(東濃型)	脚付土窓	7.2	1.9	4.0	5	8	
42	01A	002y	SD04	反転長領板	脚付接合三段構成	-	-	-	-	-	
43	01A	002y	SD01,1層	須恵器蓋		14.0	*1.4	-	2	-	
44	01A	002y	SD01,1層	灰陶器縁壺	K-90	-	*2.2	7.5	-		
45	01A	VSD02y	NR01,2層	灰陶器縁壺	角台面	-	*3.2	9.0	-	1	
46	01A	002y	NR01,2層	山茶碗(尾張型)	口縁部・高台摩滅	第3型式	15.6	5.2	7.0	3	2
47	01A	001m	NR01,2層	山茶碗(尾張型)	第7型式	14.4	*5.25	5.9	1	2	
48	01A	002y	NR01,2層	山茶碗(尾張型)	高台剣脛	第8型式	13.2	*5.2	6.0	3	4
49	01A	001H	NR01,2層	小皿(尾張型)	内外面にスス	第5型式	8.0	2.0	4.2	5	6
50	01A	002y	NR01,2層	小皿(尾張型)	見込・底部胎摩滅	第6型式	8.1	1.9	4.7	11	12
51	01A	001k	NR01,2層	小皿(尾張型)	底部胎摩滅	第5型式	7.7	1.8	4.6	6	7
53	99		J-2,42	縁	平底、脚部に接合痕		13.8	17.5	6.0	1	4
53	01A	001j	NP02	片口縁	内面厚底		26.4	*6.1	-	2	-
54	99	VSD10n	青瓷地割目上	土器蓋		-	*2.3	6.8	-	4	
55	99		青瓷地灰土上	土器蓋		-	*2.3	-	1	-	

土器
・
陶磁器
登録遺物一覧表

2

E-no.	調査区	グリッド	通番	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	幅高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12	
56 99			東戸田印土 2m15	土師器			16.8	-	1	-		
57 99			東戸田粘土2m25	土師器			19.4	*2.5	-	1	-	
58 99	VHD18p		トレンチ(池の底 上部)等	土器残壁	瀬尾系		16.4	*2.7	-	3	-	
59 99			東戸田粘土 2m36	土師器			15.8	*2.9	-	1	-	
60 99	VHD18n		トレンチ(池の底 土)	土師器	三河型		16.4	*3.5	-	2	-	
61 99	VHD18q		東戸田ベント	土師器	瀬尾系		-	*1.0	9.0	-	3	
62 00A	00E9		桃井	土師器	口縁部	NHD1ヘルト	13.5	*4.25	-	2	-	
63 00A	00E7n		NHD1ヘルト	土師器	瀬尾系	年代判定no.3	-	*3.7	-	1	-	
64 00A	00E5		桃井	土師器	スヌ		26.0	*3.3	-	1	-	
65 00A	00E6n		NHD1ヘルト	土師器			27.0	*3.4	-	2	-	
66 00A	00E4		桃井	土師器	三河型		18.2	*3.05	-	1	-	
67 00B	VHE15k		NHD1ヘルト	土師器	瀬型		24.0	*6.5	-	1	-	
68 00B	VHE15k		NHD1ヘルト	土師器	瀬型	年代判定no.2	19.2	*5.0	-	2	-	
69 00B	VHE20b		NHD1ヘルト	土師器	東源流:底部に木葉痕		-	*3.7	5.4	-	4	
70 01B	00D9		NHD1(上層)	土師器	瀬尾系		13.2	*3.4	-	2	-	
71 01C9	00D9n		NHD1(上層)	土師器	三河型か		14.6	*4.6	-	1	-	
72 01C9	00E5f		NHD1(上層)	土師器	瀬尾系		23.4	*2.6	-	1	-	
73 99	VHD18q		東戸田(池の底 土)東戸田 2m36	須志器有台杯	(O-10)	KG-78	14.4	3.6	11.8	1	B	
74 00A	00E2n		桃井	須志器		KG-78	13.8	*1.85	-	1	-	
75 00A	00E3n		桃井	須志器		KG-78	13.6	*2.1	-	2	-	
76 00A	00E3		西レント	須志器	破面が摩耗	KG-78	17.6	*1.5	-	1	-	
77 00A	00E2n		桃井	須志器		KG-78	15.6	*1.3	-	1	-	
78 00A	00E4		桃井	須志器		KG-78	13.4	*2.4	-	1	-	
79 00A	00E7		NHD1ヘルト	須志器	底部ヘラオコシ	KG-78	-	*1.55	6.2	-	4	
80 00A	00E5n		桃井	須志器	か		8.4	7.3	1.2	-	-	
81 00A			東戸田測	灰陶地	須志器	K-90	15.6	3.9	8.2	2	1	
82 00A	00E5j/Rgk		桃井	灰陶地	須志器	K-90	-	*2.8	7.0	-	12	
83 00A			東戸田測	灰陶地	須志器	K-90	-	*2.6	6.4	-	5	
84 00A			東戸田	灰陶地	須志器	K-90	-	*1.2	6.8	-	2	
85 00A	00E9n		桃井	灰陶地	高台摩滅	K-53	-	*2.85	6.8	-	4	
86 00A	00E5		桃井	灰陶地	須志器	K-53	-	*2.05	6.8	-	2	
87 00A	00E1q		桃井	灰陶地	須志器	見込:高台摩滅	K-53	-	*2.1	8.0	-	3
88 00A			東戸田測	灰陶地	須志器	高台摩滅:高台内側切削 未調整	K-53	-	*1.9	7.8	-	4
89 00A			東戸田測	灰陶地	須志器		0.53	-	*2.6	7.6	-	3
90 00A	00E6		西レント	灰陶地	須志器		0.53	-	*2.0	6.9	-	2
91 00A	00E6j/7k		桃井	灰陶地	須志器	高台摩滅	0.53	-	*3.1	7.2	-	6
92 00A	00E5		桃井	灰陶地	須志器	見込:高台摩滅	0.53	-	*1.95	9.0	-	9
93 00A	00E5j		桃井	灰陶地	須志器		0.53	-	*3.45	6.8	-	-
94 00A	00E2j/5.4h.3		西トレント	桃井	灰陶地	見込:高台摩滅:糞切削 未調整	H-72	13.8	4.2	7.4	1	11
95 00A	00E4j		桃井	灰陶地	須志器	高台糞切削未調整	H-72	-	*1.9	7.0	-	3
96 00A			東戸田測	灰陶地	須志器	高台糞切削:高台内側切削 未調整	H-72	-	*2.4	6.4	-	6
97 00A	00E5j		桃井	灰陶地	須志器	胎土細密:糞切削:高台摩 滅	H-72	-	*1.6	6.8	-	4
98 00A	00E4n		桃井	灰陶地	須志器	K-14	-	*1.4	7.5	-	3	
99 00A	00E7j		桃井	灰陶地	須志器	K-90	13.9	2.1	7.6	1	1	
100 00A	00E5n		桃井	灰陶地	須志器	K-90	-	*2.2	6.9	-	5	
101 00A	-		東戸田	灰陶地	須志器	胎土細密:糞切削:高台摩 滅	K-90	-	*1.6	7.6	-	2
102 00A	00E5		桃井	灰陶地	須志器	高台摩滅	K-90	-	*1.6	7.2	-	5
103 00A	00E5p		桃井	灰陶地	須志器	K-90	-	*1.6	5.8	-	5	
104 00A	00E1q		桃井	灰陶地	須志器	O-53	-	*2.5	7.8	-	1	
105 00A	00E7j		桃井	灰陶地	須志器	高台摩滅	O-53	-	*1.9	7.6	-	3
106 00A	00E5n		桃井	灰陶地	須志器	O-53	-	*1.7	6.3	-	3	
107 00A	00E8k		桃井	灰陶地	須志器	胎土細密:花模	百代寺	18.6	*2.8	-	2	-
108 00A	00E5j		桃井	灰陶地	須志器		-	*5.7	9.9	-	5	
109 00A			東戸田測	灰陶地	須志器		-	*5.3	9.8	-	4	
110 01D	00E5n		NHD1.m.1	灰陶地	須志器	高台摩滅:墨書き「文室 門」	K-14	-	*1.8	7.6	-	4
111 01D	00E4n		NHD1	須志器	底部分持けケズリ:墨書き		-	*1.0	7.4	-	2	
112 01D	00E5n		NHD1	灰陶地	須志器	高台摩滅	K-14	17.2	5.2	8.0	1	2

土器・陶磁器
登録遺物一覧表

3

E-no.	調査区	グリッド	高さ	器種	備考1	備考2	口径・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
113 008	VNE19d	NR01.09.09	須恵器無台杯	底部糸切,口縁内側,底部 基盤底	IG-78 (K- 14)	13.3	3.3	6.4	4	5	
114 008	VNE20g	NR01.09.09	須恵器無台杯	底部糸切,底部基盤底及 書「文定」門」少	IG-78	-	*1.6	5.6	-	6	
115 008	VNE20h	NR01.09.09	須恵器長頸瓶		IG-78	11.0	*3.5	-	2	-	
116 008		NR01	須恵器蓋		IG-78	13.8	*2.05	7.4	1	-	
117 008	VNE18v	NR01	須恵器瓶	把手あり		26.4	30.0	11.0	10	3	
118 008	VNE20g	NR01.no.17	灰釉陶器碗	口縁内側,高台脇,高台厚 減	K-14	16.2	5.7	8.4	2	12	
119 008	VNE20h	NR01.09.09	灰釉陶器碗	口縁内側,高台脇,高台厚 減	K-14	14.8	*3.4	-	2	-	
120 008	VNE18v	NR01.09.09	灰釉陶器皿	K-14	-	*1.6	7.6	-	3	-	
121 008	VNE18u	NR01.09.09	灰釉陶器蓋	K-14	-	*2.3	6.3	-	12	-	
122 008	VNE18v	NR01.09.09	灰釉陶器碗	K-14	13.1	*3.1	-	2	-	-	
123 008	南トレシ		灰釉陶器碗	見込,高台厚減	K-90?	16.2	4.9	7.8	4	7	
124 008	VNE19e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	K-90	15.8	*4.0	-	3	-	-	
125 008	VNE20e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	高台内摩滅,肩に転用か K-90	-	*4.1	8.2	-	6	-	
126 008	南トレシ		灰釉陶器碗	見込,高台厚減	K-90	14.6	*4.2	7.2	1	3	
127 008	南トレシ		灰釉陶器碗	高台に墨書き「露道」 見込,高台厚減	K-90	-	*2.6	7.3	-	12	
128 008			灰釉陶器碗	内面にスミ,高台厚減,高 台内に墨書き「山」	K-90	-	*2.3	7.1	-	12	
129 008	VNE19e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	高台に墨書き「山寺」	K-90	-	*1.45	7.6	-	3	
130 008	VNE19e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	高台厚減	K-90	-	*2.2	6.9	-	7	
131 008	南トレシ		灰釉陶器碗	高台厚減か	K-90	13.6	4.6	7.0	3	2	
132 008	VNE18e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	見記述減	K-90	14.6	4.6	7.4	4	4	
133 008	不明		灰釉陶器碗	高台厚減,高台内に墨書き K-90	-	*2.25	6.2	-	12	-	
134 008			灰釉陶器碗	口縁内側厚減,輪花有 O-53	15.8	*4.2	-	1	-	-	
135 008	VNE20e	NR01.09.09	灰釉陶器碗	未施釉か,見込,高台厚 O-53	13.8	4.3	7.1	5	5	-	
136 008	VNE19d	NR01.09.09	灰釉陶器輪花有	見込,高台厚減	O-53	18.7	*4.8	-	2	-	
137 008	VNE17.18c	NR01.09.09	灰釉陶器碗	高台厚減,高台内側切妻 未調整	H-72	12.8	3.9	6.8	3	12	
138 008	不明		灰釉陶器碗	高台内側切妻未調整	H-72	-	*2.4	8.0	-	1	
139 008	VNE17.18c,VNE19d	NR01.09.09.高台厚 O-53	灰釉陶器碗	高台内側切妻未調整	H-72	16.0	6.6	7.2	3	8	
140 008	VNE19d	NR01.09.09	灰釉陶器碗	見込,高台厚減,高台内 側切妻未調整	H-72	16.0	6.6	7.2	3	8	
141 008	VNE19.20e	NR01.09.09	灰釉陶器皿	高台厚減,スミ付有	K-14	-	*1.2	7.6	-	8	
142 008	VNE20e	NR01.09.09	灰釉陶器皿			14.6	*2.3	-	3	-	
143 008	VNE19e	NR01.09.09	灰釉陶器皿	見込,高台厚減	K-90	-	*2.1	6.4	-	12	
144 008	北		灰釉陶器皿	見込,高台厚減	K-90	-	*1.4	7.5	-	5	
145 008	VNE18c	NR01.09.09	灰釉陶器皿	K-90	17.4	*2.45	-	1	-	-	
146 008	VNE19d	NR01.09.09	灰釉陶器皿	高台厚減,高台内側切妻 未調整	K-90	17.6	3.8	8.6	4	2	
147 008	東土御持		灰釉陶器皿	O-53	11.8	1.7	7.0	1	2	-	
148 008	東土御持		灰釉陶器皿	O-72	11.6	*1.4	-	3	-	-	
149 008	VNE19i	NR01.09.09.東土御 持	灰釉陶器皿	見込,高台厚減,高台内 側切妻未調整	H-72	11.8	*2.35	6.3	3	6	
150 008	VNE19d	NR01.09.09	灰釉陶器耳皿	底部糸切,墨書き「山」	O-53	-	*2.1	5.4	1	7	
151 008	VNE20e	NR01.09.09	灰釉陶器瓶			9.4	*2.15	-	2	-	
152 -	墨書き		灰釉陶器瓶			-	*3.1	8.2	-	4	
153 008	VNE18u	NR01.no.26	灰釉長頸瓶	胎土細密		-	*3.85	8.4	-	9	
154 008	VNE19e	NR01.09.09	灰釉長頸瓶	高台内側厚		-	*4.7	-	-	5	
155 008	VNE20e	NR01.no.20	灰釉長頸瓶	後成形ヒビ割れ		-	*10.5	9.0	-	7	
156 008	VNE19e	NR01.no.19	灰釉手付瓶			-	10.0	15.2	-	1	
157 01A	OD09	NR01	須恵器瓶			-	*7.5	-	-	-	
158 01A	OD09	NR01	灰釉陶器瓶	高台厚減	K-90	-	*2.1	7.1	-	12	
159 01A	OD09,VNE20d	NR01.AR02	灰釉陶器皿	O-53	-	*1.7	6.6	-	6	-	
160 01B	OD09	NR01(上部)	灰釉陶器皿	未施釉	O-53	13.6	4.6	7.0	3	4	
161 01A	OD11	NR02	灰釉陶器皿	O-53か	16.2	*3.9	-	2	-	-	
162 01A	墨書き		灰釉陶器皿	高台内	-	*2.2	6.8	-	5	-	
163 01B	OD09	NR01(上部)	灰釉手付瓶か			7.2	*14.3	-	2	-	
164 01A	OD09	NR01	灰釉手付瓶か			-	*9.5	-	-	-	
165 01A	OD09	NR01	灰釉手付瓶か	底部ナデ		-	*4.1	12.6	-	4	
166 01B	OD09	NR01(下部)	須恵器無台杯	底部凹削ケズリ,内面へ ラッサ	IG-78	-	*1.15	6.1	-	3	
167 01B	OD09	NR01(上部)	須恵器無台杯	内面,底部基盤底	IG-78	-	*2.4	6.2	-	3	

土器・陶磁器登録遺物一覧表

4

E-no.	調査区	グリッド	遺構	種類	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	高さ・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口沿存率 1/12	底盤存率 1/12
168	01B	0xE3e	NR01	須恵器無台杯	底部鉛鉬底,墨書き	IG-78	-	*3.0	6.0	-	12
169	01B	0xD2y	NR01(上部)	須恵器瓶頸か			-	*1.6	7.0	-	4
170	01B	0xD6g	NR01(上部)	灰釉等瓶			-	*5.4	-	-	-
171	01B	0xE3e	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶			9.8	*2.0	-	1	-
172	01B	0xD3e	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶			-	*7.65	-	-	-
173	01B	0xE4e	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	施成片玻璃		-	*9.0	8.9	-	2
174	01B	0xD6i	NR01(上部)	灰釉瓶頸	底部、底面にタル状付着物		-	*3.6	12.8	-	2
175	01B	0xD6s/0xD6g	NR01(下部)	青釉	外腹スヌ高台内側切削 付着物	未調整	11.8	2.8	5.4	4	6
176	01B	0xE5s/0xD5s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台内に墨書き「文堂 門」	K-14	14.8	4.6	7.4	2	6
177	01B	0xE3e	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	高台内に墨書き	K-14	-	*2.75	7.1	-	12
178	01B	0xD3s/4r	NR01	灰釉瓦頭瓶	K-90	17.4	5.4	9.8	4	8	
179	01B	0xD3e	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	K-90	15.6	*4.15	-	2	-	
180	01B	0xD2s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台内に墨書き「○」高 台摩滅	K-90	13.8	4.8	6.8	12	12
181	01B	0xD7i	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	K-90	12.7	*3.95	5.6	2	2	
182	01B	0xD3s	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	K-90	-	*2.5	5.7	-	4	
183	01B	0xD8i	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	見込・高台摩滅	O-53	15.0	*4.25	7.6	1	4
184	01B	0xD6i	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	見込・高台摩滅	O-53	-	*2.0	6.7	-	11
185	01B	0xD4i	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	高台摩滅	O-53か	10.6	3.2	5.2	6	10
186	01B	0xD5s/6r	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台摩滅	H-72	14.4	4.4	5.6	3	10
187	01B	0xD7e	NR01	灰釉瓦頭瓶		H-72	-	*2.8	6.8	-	4
188	01B	0xD4s/5t	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台内側切削未調整、見 込・高台摩滅	百代寺	-	*3.1	6.9	-	11
189	01B	素面		須恵器皿	口縁部・高台摩滅	K-90	13.8	2.5	6.3	1	1
190	01B	VME20s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台摩滅	K-90	-	*1.85	7.0	1	7
191	01B	0xD7i		灰釉瓦頭瓶	高台摩滅	K-90	-	*1.7	6.9	-	4
192	01B	0xE3e	NR01	灰釉瓦頭瓶	見込・高台摩滅・高台内 にへうき	K-90	-	*1.75	6.0	-	5
193	01B	0xD3s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台摩滅・高台内に墨書き	K-90	-	*1.75	8.9	-	3
194	01B	0xD6i	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	高台摩滅	K-90	15.4	3.4	7.4	2	6
195	01B	0xD2s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	K-90	15.2	*2.7	-	1	-	
196	01B	0xD3i	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶	K-90	14.8	*2.7	7.4	1	2	
197	01B	0xD6i	NR01(下部)	灰釉瓦頭瓶		-	*2.8	8.2	-	4	
198	01B	0xE5s	NR01(上部)	灰釉瓦頭瓶	高台内側切削未調整、墨 書き	H-72	11.3	*1.65	7.3	5	6
199	01C	0xE9i	NR01(上部)	須恵器便携			26.4	*4.3	-	1	-
200	01C	0xE9g	NR01(上部)	須恵器蓋			15.8	*3.2	-	2	-
201	01C	0xE9i	NR01(上部)	須恵器蓋	外腹タスキ		-	*8.5	16.2	-	3
202	01C	0xE3s	NR01	須恵器蓋	底部ケリ・底部墨滅		13.6	*3.6	7.8	1	2
203	01C	0xE4i/2e	NR01(複数個)	須恵器蓋	底部墨滅・へうき		11.4	3.7	6.5	3	10
204	01Ca	NR01(上部)	須恵器蓋	須恵器切込・底部墨 滅		IG-78	-	*1.85	5.2	-	12
205	01Ca	0xE3s	NR01(上部)	須恵器蓋	口縁内側・底部墨滅	IG-78 (K- 14)	13.4	*3.4	-	5	-
206	01Cb	0xE1s	NR01,no.20.複数 個	須恵器蓋	底部切込止切込・底部墨 滅	IG-78	11.6	4.3	4.4	6	12
207	01Cb	0xE7b	NR01,no.48	須恵器蓋	底部余切・墨書き「方達」	IG-78 (K- 14)	-	*2.15	6.0	-	12
208	01Ca	0xE3s	NR01(上 部)	須恵器蓋	口縁内側・底部墨滅・ 底部に墨書き「文堂門」	IG-78 (K- 14)	13.3	4.1	6.8	6	12
209	01Ca	0xE6s	NR01(上部)	須恵器蓋		IG-78	-	*2.5	-	-	-
210	01Cb	0xE3s	NR01(複数個)	須恵器蓋		IG-78	-	*2.7	-	-	-
211	01Cb	VME20s/0xE7	NR01(複数個)	須恵器蓋	底部墨書きに転用か	IG-78か	-	1.1	-	10	-
212	01Cb	VME20s/0xE7 b	NR01,no.43.複数 個	須恵器蓋	口縁内側・腰部・高台 摩滅	K-14	17.1	4.6	8.0	4	7
213	01Cb	VME20s/0xE7 b	NR01,no.44.複数 個	須恵器蓋	高台摩滅	K-90	16.6	4.8	7.6	2	12
214	01Cb	VME20d	NR01,no.33.4.37	須恵器蓋	高台内に墨書き・口縁内 側・腰込・高台摩滅	K-90か	14.3	4.9	7.1	5	12
215	01Ca	NR01(上部)	須恵器蓋		K-90	14.8	4.6	7.9	2	5	
216	01Cb	VME20s	NR01(複数個)	須恵器蓋	見込・高台摩滅	K-90か	14.2	4.4	7.0	7	12
217	01Cb	0xE1s	NR01(複数個)	須恵器蓋	胎土糊跡	K-90	15.8	5.5	7.4	2	5
218	01Ca	0xE9f	NR01(L 部)	灰釉瓦頭瓶	高台内に墨書き	K-90	-	*2.35	7.4	-	6

土器
・
陶
磁
器
器
一
覽
表

5

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	発考1	発考2	口径・幅	器高・厚	底径・横	口残存率	底残存率
							(cm)	(cm)	(cm)	/12	/12
219	O1Ca	IHE5g	NR01(上 部no.1)	灰釉陶器皿	高台内に墨書き「文室 門」。	(K-14) K- 90	-	*2.75	6.2	-	6
220	O1Ca	IHE5f	NR01(上部)	灰釉陶器皿	総地盤調査度	K-14	16.3	4.6	7.9	1	4
221	O1Ca	IHE5g	NR01(上部 西側)	灰釉陶器皿	-	O-53	15.0	*4.6	-	3	-
222	O1C	IHE1gF	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	K-90か	-	*2.5	8.9	-	7
223	O1Ca	IHE5f	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	O-53	-	*3.2	8.0	-	3
224	O1Cb	IHE2a	NR01.no.3)	灰釉陶器皿	未施釉口縁内側・残 込・高台摩滅	O-53か	15.4	4.9	6.5	2	8
225	O1Cb	IHE2f	NR01.no.30.32	灰釉陶器皿	高台摩滅・全体にスス	O-53	12.5	3.9	7.0	4	12
226	O1Cb	IHE2f	NR01.no.30.32 西側	灰釉陶器皿	高台摩滅	O-53か	13.9	4.3	7.4	9	12
227	O1Cb	VHE20c	NR01. no.9.18.24.29	灰釉陶器皿	口縁内側・高台摩滅・見 込に円形凹み	O-53か	12.7	4.6	6.3	9	10
228	O1Cb	IHE2f	NR01. no.9.18.24.29	灰釉陶器皿	内面にスス	H-72か	14.4	5.4	7.1	12	12
229	O1Ca	IHE5.7c6a	NR01(上部)	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅・高台内 未切削未調整・スマスた る屋敷	H-72	14.0	5.1	6.8	8	6
230	O1Cb	IHE2f	NR01.no.13.14.15. 16.18	灰釉陶器皿	高台内系切削未調整・全 体にスス	H-72か	15.5	6.0	7.4	10	9
231	O1Cb	IHE2f	NR01.no.19	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅	百代寺	16.0	6.1	8.0	5	5
232	O1Ca	IHE5d	NR01.(下部か) NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	K-14	13.8	2.4	6.4	2	3
233	O1Ca	IHE5dFg	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	K-90	16.4	3.7	8.6	4	5
234	O1Ca	IHE5.6e5e	NR01(上部)	灰釉陶器皿	高台内摩滅・墨書き・軸 用か	K-90	-	*2.5	8.7	-	3
235	O1Ca	NR01(上部北東 側)	灰釉陶器皿	-	K-90	-	*2.7	8.2	-	3	-
236	O1Ca	IHE5	NR01(上部)	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	14.6	2.7	7.6	3	12
237	O1Ca	IHE5	NR01(上部)	灰釉陶器皿	高台内に墨書き・高台摩 滅	K-90	14.6	2.8	7.2	3	4
238	O1Cb	VHE20c,IHE 2b	NR01.no.9.10.10 11	灰釉陶器皿	-	K-90か	13.7	3.0	6.5	10	12
239	O1Ca	NR01(上部北東 側)	灰釉陶器皿?	高台内に墨書き	K-90	-	*2.4	6.6	-	11	-
240	O1Cb	IHE2b	NR01.no.46	灰釉陶器皿	高台内系切削未調整	O-53か	14.0	3.1	7.4	6	8
241	O1Ca	IHE5g	NR01(上部)	灰釉陶器皿	高台内に墨書き「○」見 込・高台摩滅	O-53	14.0	3.3	7.4	1	6
242	O1Ca	IHE5g	NR01(上部)	灰釉陶器皿	胎土密縮	O-53	-	*2.05	6.2	-	5
243	O1Ca	IHE8b	NR01(上 部no.1)	灰釉陶器皿	高台内系切削未調整・墨 書き・見込・高台摩滅	H-72	-	*1.65	7.4	-	8
244	O1Ca	IHE7ca	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	6.0	-	-	-	-	-
245	O1Ca	東レレット	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	*3.6	10.7	-	-	4	-
246	O1Ca	IHE6a.7ca	NR01(上部)	灰釉陶器皿	頭部縫合三段構成	-	*6.55	11.4	-	3	-
247	O1Ca	IHE5a	NR01(上部)	灰釉陶器皿	-	*7.2	12.8	-	-	3	-
248	99	VHD16m	美ホ土	山茶晩(尾張型)	見込・高台摩滅	15.5	4.7	7.4	3	7	-
249	99	VHD18a	美ホ土	山茶晩(尾張型)	高台内に墨書き・高台摩滅	4型式か	-	*2.5	7.6	-	8
250	99	VHD17c	美ホ土	山茶晩(尾張型)	須磨窯?	14.8	*3.5	-	2	-	-
251	99	VHD15p	美ホ土	山茶晩(束腰型)	付着部(破跡後)	-	*1.8	4.4	-	4	-
252	99	VHD17n	美ホ土	小皿(尾張型)	底部外面に墨書き・見込摩 滅	-	*1.7	4.0	-	12	-
253	99	VHD17p	美ホ土	小皿(尾張型)	内面・底部摩滅	7.3	2.0	4.1	12	12	-
254	99	VHD19p	美ホ土	小皿(尾張型)	底部外面に墨書き・底部基 底摩滅	7.8	1.9	4.2	5	6	-
255	99	-	美ホトーレチ	小皿(尾張型)	外側スス	8.3	1.8	5.5	6	12	-
256	99	VHD19n	美ホ土	入子	-	*2.1	2.8	-	12	-	-
257	99	VHD17m	美ホ土	土師陶器皿	非口クロ	8.8	*1.4	-	1	-	-
258	99	VHD16m	美ホ土	土師陶器皿	非口クロ	8.8	1.6	6.4	6	6	-
259	99	VHD16o	美ホ土	土師陶器皿	非口クロ	7.3	1.6	2.4	5	5	-
260	99	VHD15m	美ホ土	古瀬川小杯?	-	7.6	2.4	3.8	2	7	-
261	99	VHD15m	美ホ土	陶製内耳鍋	外側スス	19.4	*3.7	-	2	-	-
262	99	VHD15m	美ホ土	土師陶器皿	伊勢型	-	*1.45	-	1	-	-
263	99	VHD14n	美ホ土	土師陶器皿	伊勢型	23.8	*2.1	-	1	-	-
264	99	VHD15n	美ホ土	土師陶器皿引手付	-	*2.1	-	-	1	-	-
265	99	VHD15n	美ホ土	土師陶器皿引手付	外側スス	18.0	*2.6	-	1	-	-
266	00A	DE71	美ホ土	山茶晩(尾張型)	大8型式	-	*3.2	5.8	-	12	-
267	00A	DE6	美ホ土	小皿(尾張型)	第4型式	8.4	2.2	4.4	5	11	-
268	00A	DE6	美ホ土	小皿(尾張型)	7.8	1.8	5.0	7	12	-	
269	00A	DE6	美ホ土	小皿(東漢型)	底部外切板直底・墨書き 「の」	8.3	1.0	4.9	1	12	-

土器・陶磁器 登録遺物一覧表

6

E-no.	調査区	グリッド	遺構	種類	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	幅高・厚 (cm)	底径・ (cm)	口残存率 1/2	底残存率 1/2	
270	00A	0xE7f	築造段	吉瀬戸折線小皿	既成不良	古瀬戸後期 付	8.7	2.4	4.1	6	12	
271	00A	0xE6f7	築造	吉瀬戸折線小皿		古瀬戸後期 付	9.0	2.2	4.2	3	12	
272	00B	VHE18(9c- 20c)	NR01.no.瓦刷 砂輪磨	山茶碗	見込、高台摩滅	第3型式か 付	17.3	5.6	8.8	8	3	
273	00B	VHE18(9c- 20c)	NR01.no.瓦刷 砂輪磨	山茶碗		第4型式か 付	17.2	5.7	8.8	6	12	
274	00B	VHE18a	NR01.直角唇	灰釉陶面碗	内面に陶灰	第3型式か 付	17.8	5.4	7.6	1	2	
275	00B	VHE18a	NR01	山茶碗	見込、高台摩滅,モミ痕 なし	第4型式 付	-	*3.1	8.0	-	12	
276	00B	VHE18(9c- 19c)	NR01.直角唇	山茶碗 (尾張型)	高台摩滅,モミ痕なし	第3型式か 付	-	*4.7	7.9	-	10	
277	00B	VHE18(9c- 19c)	NR01.直角唇	山茶碗 (尾張型)	高台摩滅,モミ痕なし	第3型式か 付	17.0	*5.15	7.6	2	10	
278	00B	VHE18a	NR01.直角唇	山茶碗	高台モミ痕なし	第3型式か 付	-	*3.1	7.8	-	7	
279	00B	VHE18(9c- 19c)	NR01.直角唇	山茶碗 (尾張型) レット	見込、高台摩滅	第4型式 付	17.3	5.1	7.4	5	12	
280	00B	VHE18a	NR01.直角唇	山茶碗	見込、高台摩滅	第4型式 付	17.8	6.1	7.5	1	12	
281	00B	VHE18a	NR01.直角唇	山茶碗	内面に縁下に沈窪	第4型式 付	18.8	6.5	9.4	1	5	
282	00B	VHE18a	NR01.直角唇	小皿	胎土芯,外周,肩に胎土摩滅	9.3	2.2	5.0	3	1		
283	00B	VHE18a	NR01.直角唇	小皿 (東濃型)	底部胎土摩滅	8.7	2.1	4.8	1	5		
284	00B	VHE18a	NR01.直角唇	小皿 (尾張型)	口縁内側、見込摩滅	8.5	2.1	5.1	4	6		
285	00B	VHE20a	NR01.no.4			第7.8型式 付	8.1	1.9	6.1	12	12	
286	00B	VHE18a	NR01.直角唇			第7.8型式 付	8.3	1.8	5.0	9	11	
287	00B	VHE18a	NR01.直角唇	小皿 (尾張型)	胎土芯,施成不良	8.2	1.6	4.0	7	12		
288	00B	VHE18a	NR01.直角唇	山茶碗		16.5	*6.0	7.6	1	9		
289	00B	VHE18a	NR01.直角唇	山茶碗		16.8	5.8	8.6	3	6		
290	00B	VHE20a	NR01.直角唇	山茶碗	高台間に墨書き「上」	14.2	5.7	6.0	3	12		
291	00B	VHE18a	NR01.直角唇	灰釉陶耳壺	古瀬戸	9.2	*3.5	-	3	-		
292	00B	VHE18a	NR01.直角唇	灰釉陶底近腹	古瀬戸	-	*3.2	4.4	-	4		
293	01A	0xD5j	NR01	山茶碗	見込、高台摩滅	第3型式か 付	-	*4.4	6.9	-	5	
294	01A	0xD5j	NR01	山茶碗 (尾張型)	見込、高台摩滅	第4型式 付	16.2	5.2	7.2	8	12	
295	01A	0xD5k	NR01	山茶碗	胎土芯	13.8	*3.3	-	1	-		
296	01A	VHE20a	無記	山茶碗 (尾張型)	内面にスカスク	第4型式 付	13.6	5.1	5.9	2	9	
297	01A	0xD4i	NR01	山茶碗 (尾張型)	外周にタール拌付毒物	第7.8型式 付	13.2	*4.5	-	4	-	
298	01A	0xD4m	NR01	山茶碗 (東濃型)	高台摩滅	-	*3.8	5.6	-	5	-	
299	01A	0xD4l	NR01	山茶碗 (東濃型)	見込にスス	-	*4.75	5.0	-	6	-	
300	01A	0xD5m	NR01	山茶碗 (東濃型)	高台摩滅	-	*2.75	6.2	-	4	-	
301	01A	0xD4JxD3K	SODA/NR01	山茶碗 (東濃型)		12.7	*4.1	3.2	1	4	-	
302	01A	0xD5j	NR01	山茶碗 (東濃型)	大判束	12.4	3.8	3.4	2	3	-	
303	01A	0xD5d	NR01	灰釉陶底小皿	古瀬戸	11.2	2.1	6.2	2	2	-	
304	01A	0xD5d	NR01	山茶碗 (東濃型)		-	*2.45	4.8	-	5	-	
305	01A	0xD4m	NR01	山茶碗 (東濃型)	外面,破面にスス	大判束	-	*2.5	3.8	-	8	-
306	01A	0xD4t	NR01	山茶碗 (東濃型)	生田	11.0	*2.3	-	3	-	-	
307	01A	0xD5j	NR01	小皿 (尾張型)	見込、底部胎土摩滅	第5型式 付	7.9	2.5	4.0	5	12	
308	01A	0xD5j	NR02	小皿 (尾張型)		7.2	1.7	4.1	2	12	-	
309	01A	NR01	NR01	NR01		7.5	2.2	4.4	6	6	-	
310	01A	0xD5j	NR01	小皿 (尾張型)	第5型式 付	8.0	1.9	4.0	9	12	-	
311	01A	0xD5d	NR02	小皿 (尾張型)	底部胎土摩滅	第6型式 付	7.4	1.7	4.4	11	12	
312	01B	0xD4e	NR01 (上階)	小皿 (尾張型)	第7.8型式 付	8.2	1.9	4.6	11	12	-	
313	01A	VHE20g	NR02	小皿 (東濃型)	底部余板,切往雀	7.7	1.6	4.2	2	12	-	
314	01A	0xD5d	土手削	小皿 (東濃型)		8.1	1.4	4.9	7	12	-	
315	01A	0xD5n	NR01	小皿 (東濃型)		8.0	1.2	4.8	6	6	-	
316	01A	VHE20a	無記	小皿 (東濃型)	底部胎土摩滅,墨書き	-	*0.8	5.2	-	3	-	
317	01A	0xD5n	NR01	仏龕具	底部に墨書き	古瀬戸後期	-	*2.8	5.0	-	12	-
318	01A	0xD5n	NR01	天目茶碗	内反高台,高台付近露胎	古瀬戸後期	-	*1.85	4.0	-	10	-
319	01A	0xD4m	NR01	灰釉平盤	古瀬戸後期	19.0	*5.0	-	2	-	-	
320	01A	0xD4h	NR01	灰釉刻印	古瀬戸中期	17.0	*2.9	-	2	-	-	
321	01A	土手削	土手削	下面が摩滅	大変か	16.1	1.7	-	2	-	-	
322	01A	0xD3m	NR01	灰釉直線大皿	古瀬戸後期	36.4	*2.9	-	1	-	-	
323	01B	0xD5r	NR01 (上階)	山茶碗	第4型式 付	16.3	*5.4	7.7	3	12	-	
324	01B	土手削	山茶碗 (東濃型)		輪之島3	9.6	2.3	3.7	4	4	-	
325	01B	0xD3h	NR01 (土手削)	灰釉陶面碗	高台摩滅,未施釉,ヘラ書き	K-14か	-	*2.4	8.6	-	5	-
326	01B	VHE20g	NR01 (土手削)	灰釉陶面碗	胎土芯,口縁部,底部胎 モミ痕	第5型式 付	8.7	2.5	5.0	1	3	-

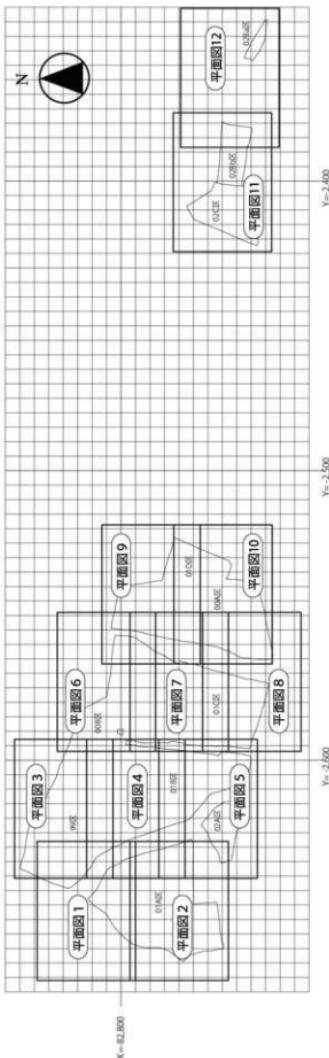
土器
・
陶
磁
器
器
一
覧
表

7

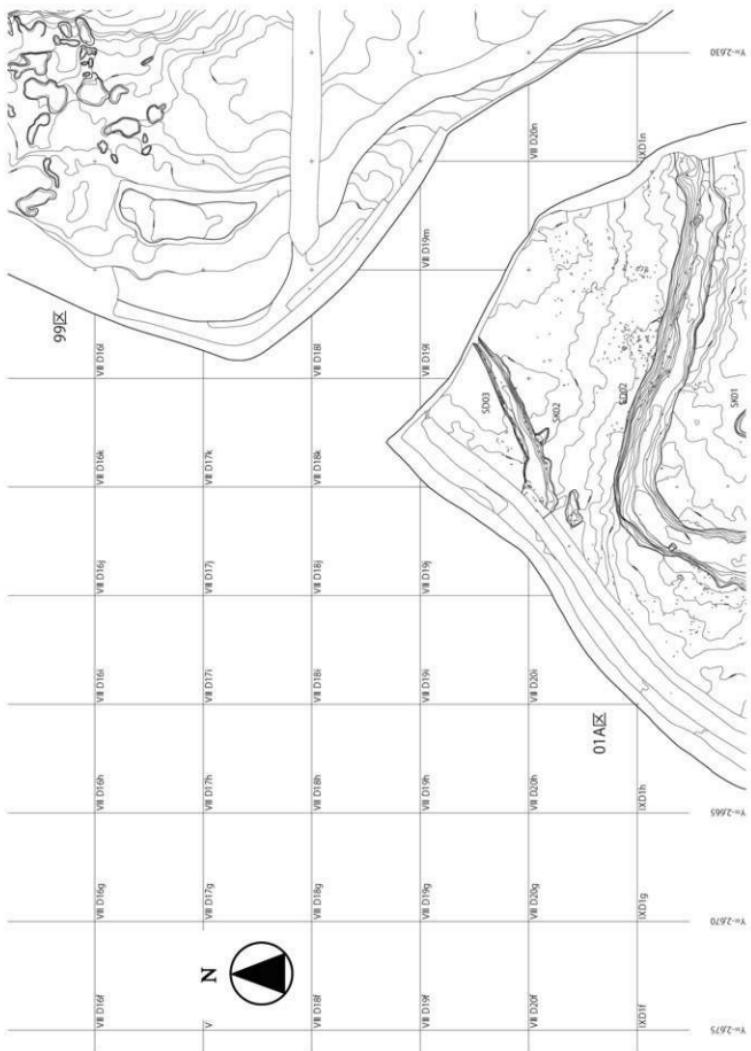
E-no.	調査区	グリッド	高さ	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
327	O1B		高脚付円筒形壺 ムト蓋付レンガ	小皿(尾張型)		第7.8型式	8.2	1.6	5.4	11	12
328	O1B		高脚付円筒形壺 ムト蓋付レンガ	小皿(東濃型)			7.6	1.0	3.6	12	12
329	O1B	IG05r	NR01(上部)	小皿(東濃型)			8.1	1.1	7.0	8	12
330	O1B	IG03r	NR01(上部)	埴輪虎鉢	古瀬戸後期 IV期	28.1	*3.15	-	1	-	
331	O1B	IG07a	NR01	埴輪虎鉢		30.6	*2.9	-	1	-	
332	O1B		素面脚付	灰釉洗	古瀬戸前期	-	*5.9	22.0	-	2	-
333	O1B		素面付	小皿(尾張型)	底部に墨書き「十」	-	*0.65	5.9	-	3	-
334	O1B		素面脚付	腰鉢	大窓	10.8	4.0	6.0	2	4	-
335	O1B		素面	土師鉢	伊勢松 平代測定no.4	21.6	*1.8	-	2	-	-
336	O1Cb	IG02g,3g	NR01,no.1,2	山茶碗	内面に薄灰	第3型式	16.6	4.9	6.4	5	9
337	O1Ca	IG08,7e?	NR01(上部)	山茶碗	口縁内側・施込・高台 摩滅	第4型式	16.6	5.8	7.8	4	4
338	O1Cb	IG02r,g	NR01,no.17,25,26	山茶碗	見込・高台摩滅	第4型式					
339	O1Cb	IG02y	NR01,no.8	山茶碗	見込・高台摩滅	第4型式か	16.9	5.4	8.0	9	12
340	O1Cb	IG02z	NR01,no.4	山茶碗	被成形破損	第5型式か	17.2	5.9	8.6	8	12
341	O1Ca	IG04e	NR01(上部)	山茶碗(尾張型)	口縁内側・施込・高台 摩滅		15.8	5.6	7.6	3	12
342	O1Ca		NR01(上層北側)	山茶碗(尾張型)		第7型式	12.6	5.0	5.4	1	12
343	O1Ca	IG05e	NR01(上部)	山茶碗	胎土窓	-	*3.7	6.4	-	3	-
344	O1Ca	IG08c	NR01(上部)	山茶碗(尾張型)	内面にスス	-	*1.9	5.2	-	7	-
345	O1Cb	IG03g	NR01	小皿	胎土窓・見込・底部胎厚 滅	8.5	1.9	5.0	8	12	-
346	O1Ca	IG05a,b,d	NR01(上部)	小皿(尾張型)		第6型式	8.2	1.6	5.8	10	12
347	O1Ca	IG05w	NR01(上部)	小皿(東濃型)			8.4	1.6	5.0	5	7
348	O1Ca	IG07b	NR01(上部)	小皿(東濃型)			8.0	1.0	5.8	6	6
349	O1Ca	IG07d	NR01(上部)	天目茶碗	腰鉢	古瀬戸後期 IV期	11.2	*5.9	-	1	-
350	O1Ca	IG06d	NR01(上部)	灰釉小天目		古瀬戸後期 IV	-	*2.3	2.8	-	5
351	O1Ca	IG05e	NR01(上 層no.2)	灰釉小碗	外面下半にスス	古瀬戸後期 IV	16.0	6.2	4.5	6	12
352	O1Ca		西壁	灰釉鉢		古瀬戸中期	15.4	*3.05	-	2	-
353	O1Ca	IG05e	NR01(上部)	鉢	スス付着	古瀬戸中期	-	*1.1	5.8	-	6
354	O1Ca		素面	灰釉鉢	小皿	古瀬戸	11.8	*2.15	-	1	-
355	O1Ca		NR01(上層北側)	灰釉八三皿	内面にスス	大窓第1段 窓	10.3	2.7	5.4	5	12
356	O1Ca	IG07d	無	施様小皿		大窓第1段 窓	10.0	2.5	5.9	2	3
357	O1Ca	IG07e	NR01(上部)	灰釉花緑小皿	見込に印刻花文	大窓第2段 窓	7.8	2.0	4.3	1	4
358	O1Ca	IG07d	NR01(上部)	灰釉足り皿		身り窓第3小 窓	11.4	*2	-	3	-
359	O1Ca	IG06d	NR01(上部)	長石釉丸皿		身り窓第3小 窓	11.6	*2.5	6.4	2	1
360	O1Ca	IG07d	NR01(上部)	鉄釉鉢		古瀬戸後期	-	*1.85	5.8	-	5
361	O1Ca	IG07d	NR01(上部)	鉄釉花瓶		古瀬戸後期 IV	10.3	*4.4	-	1	-
362	O1Ca	IG05d	NR01(上部)	片口鉢	口縁内側摩滅		36.6	*5.4	-	1	-
363	O1Ca	IG05e	NR01(上部)	灰釉折縁中皿		古瀬戸中期	17.0	*4.3	-	2	-
364	O1Ca		西壁	灰釉折縁深皿		古瀬戸中期	19.4	*5.7	-	2	-
365	O1Ca	IG07e	NR01(上部)	盃形大皿		古瀬戸	-	*3.0	15.0	-	2
366	O1Ca	IG07,d,f	NR01(上 層)7,8,9生	埴輪土瓶・蓋	スス付着	大窓第1段 窓	16.0	*14.8	-	7	-
367	O1Ca	IG07d	NR01(上部)	埴輪虎鉢		大窓第1段 窓	29.8	*3.45	-	1	-
368	O1Ca	IG05f	NR01(上部)	灰釉洗		古瀬戸前期	30.6	*5.75	-	1	-
369	O1Ca	IG05e	NR01(上部)	灰釉鉢付口		古瀬戸	15.5	3.8	-	1	-
370	O2Bb	IG07a	無	無	道志窯	IG-78	12.6	2.8	-	9	-
371	O2Bb	IG07a,8s	無	無	無	道志窯無年台	12.5	4.0	8.4	7	10
372	O2Bb	IG08a,9s	無	無	無	底部凹軋ケズ,墨書き	12.2	4.2	6.6	3	6

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦・深さ	器高・厚	底径・横	口残存率	底残存率
							(cm)	(cm)	(cm)	/12	/12
373 02Bb	IXGibb/9b	中井町トランク 子母口(裏側)灰土	須恵器縫隙	施成不良	-	*7.75	7.2	-	-	12	
374 02Bb	IXGta/8a	須恵器縫隙	土師質	須恵器縫隙A1(裏側) 土質	須尾系 年代割定no.1	21.6	*4.6	-	3	-	
375 02Bb	IXGib	須恵器(裏側灰土層)	山茶碗(束腰型)	口縁内削・見込・足跡減	第6型式	15.0	4.2	7.6	1	12	
376 02C	IXF10g	須田	山茶碗	見込削減・高台内に面垂	「力」	-	*2.1	7.0	-	-	12
377 02C	IXF10g	須田	山茶碗	見込削減・高台内に面垂	-	2.6	6.9	-	-	6	
378 02Bb	IXGibd/8	須田(裏側灰土層) 高台(裏側灰土層)	山茶碗(束腰型)	高台厚減・高台内に墨垂 大洞東	-	13.4	3.6	4.9	6	4	
379 02C	IXF9r/10	須田	山茶碗(束腰型)	高台内に墨垂	大洞東	12.8	3.6	3.4	10	12	
380 02Ba	-	高畠トランク西	東造型山茶碗	口縁部・見込・高白摩 減	大洞東	11.6	3.4	3.1	3	11	
381 02Bb	IXGib	須田(裏側灰土層)	山茶碗(束腰型)	高台内に墨垂「大」	-	*1.5	3.6	-	-	4	
382 02C	IXF10p	須田	鉢底蓋	古窯戸後期	-	4.3	*1.3	-	12	12	
383 02C	美里トランク	天目茶碗	焼成時破損	古窯戸後期	11.2	*5.4	-	1	-	-	
384 02C	IXF10g	高尾	天目茶碗	古窯戸後期	11.8	*3.6	-	1	-	-	
385 02C	IXF10g	須田	天目茶碗	古窯戸後期	12.9	*4.9	-	1	-	-	
386 02C	IXF10p	須田(赤帯)トランク	灰釉鉢皿	使用痕なし	古窯戸後期	10.4	2.0	5.4	5	7	
387 02C	IXF9r	須田	鉢底綠釉小皿	-	古窯戸	10.2	2.1	6.4	5	5	
388 02C	IXF10s	須田	ハサワ皿	-	古窯戸	10.6	2.5	5.6	4	3	
389 02Bb	IXG7b	北壁	灰釉花瓶	古窯戸後期	-	*5.35	6.3	-	-	7	
390 02C	IXF10g	須田	緑釉公供	古窯戸	-	*4.6	4.9	-	-	12	
391 02C	IXF9r	須田	緑釉耳鼻鏡	使用痕なし	古窯戸後期	25.7	*9.6	-	1	-	
392 02Bb	IXG9d	須田	常滑器雙妻	-	古窯戸	20.4	*5.4	-	2	-	
393 02Ba	IXG10	中井トランク	折縁深皿	-	古窯戸後期	34.2	*3.55	-	2	-	
394 02Bb	高尾新所	須田	焼成跡鉢	施成歎	大窯業2段	30.2	*4.95	-	2	-	
395 02Bb	IXF9k	須田(裏側灰土層)	壺鉢	高台期か	10.8	4.2	6.2	3	3	3	
396 02Bb	IXF9k	高尾	-	電器染付、施塵あり	近世末か	-	*5.45	-	-	-	
397 99	VH014m	須田(ノ1)	青磁蓮瓣文碗、鹿足	見込・近部脚摩滅、スズ	-	16.3	*4.4	-	1	-	
398 99	VH016o	須田(ノ2)	青磁蓮瓣文碗、鹿足	-	-	13.9	*3.05	-	1	-	
399 01Ca	北レジ	須田	画花文	-	-	*4.0	-	-	-	-	
400 99	VH016m	高尾土	青磁鏡	鹿足系	-	*2.2	-	-	-	-	
401 01B	IXD5g	NH01(上塙か)	青磁鏡	-	-	*1.8	9.2	-	1	-	
402 01A	IXD5g	NH01	青磁鏡	画花文	-	16.2	*2.3	-	2	-	
403 01Ca	IXE6g	NH01(上塙)	青磁鏡	画花文	-	*4.9	-	-	-	-	
404 01B	東屋内蔵	NH01(焼出しべ	青磁鏡	蓮瓣文	-	*1.8	-	-	-	-	
405 01Ca	IXE6g	NH01(上塙)	青磁鏡	-	-	*3.3	-	1	-	-	
406 00A	IXE6	高尾	青磁鏡	-	2.7	3.3	-	-	-	-	
407 01Ca	NH01(上塙北西	青磁皿	同安系	-	*2.65	-	-	-	-	-	
408 00A	IXE5h	須田	加工内板	灰釉・綠胎	近世	3.4	1.0	3.2	-	-	
409 00A	-	西壁	加工内板	周面伊御	近世	3.0	0.8	2.9	-	-	
410 00A	IXE5h	須田	加工内板	灰胎	-	3.9	1.2	3.3	-	-	
411 99	VH017h	高尾土	陶丸	-	2.1	2.0	2.0	-	-	-	
412 01Ca	NH01(上塙北東)	陶丸	-	-	2.3	2.3	2.4	-	-	-	
413 00A	IXE5h	須田(ノ7)	陶丸	-	2.1	2.2	2.0	-	-	-	
414 00A	IXE5h	須田(ノ11)	陶丸	-	2.1	2.1	1.9	-	-	-	
415 00A	IXE4h	須田(裏側灰土)	陶丸	製品が埋着	-	2.6	2.3	2.2	-	-	
416 00A	IXE5h	須田(ノ6)	陶丸	-	2.5	2.5	2.3	-	-	-	
417 00B	VHE20d	NH01(土壁堆	土塊	黒斑あり	-	3.8	1.7	1.6	-	-	
418 00A	IXE5h	須田(ノ5)	土塊	-	3.6	1.7	1.7	-	-	-	

基本平面図 割付図

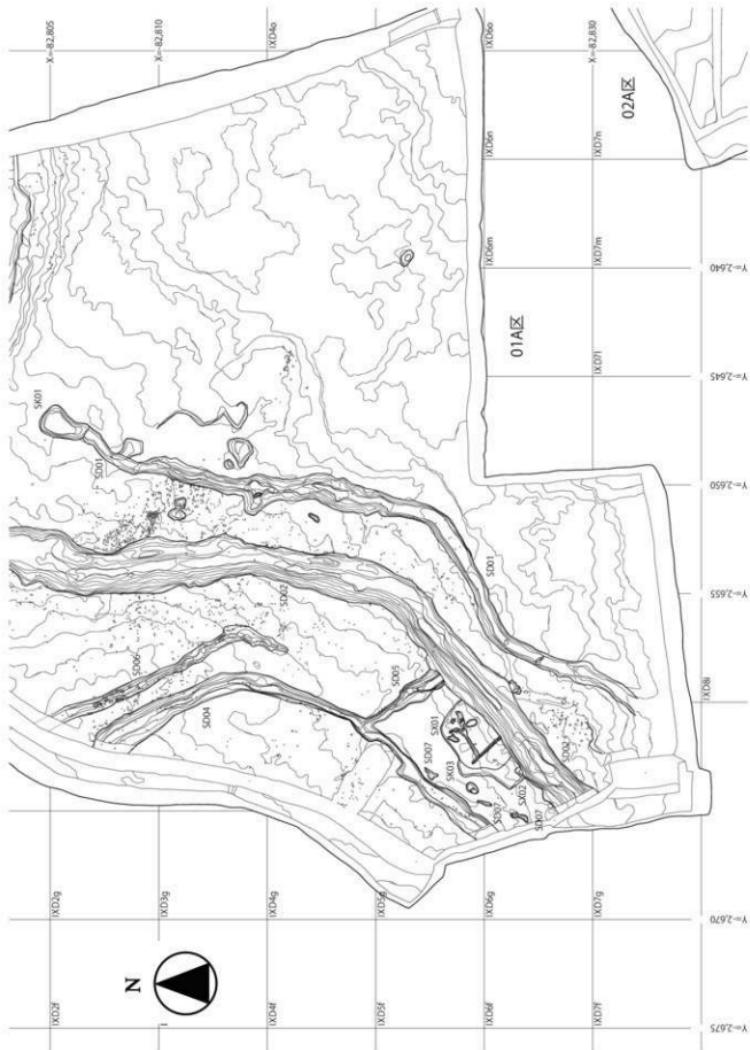


基本平面図 1



基本平面図

2

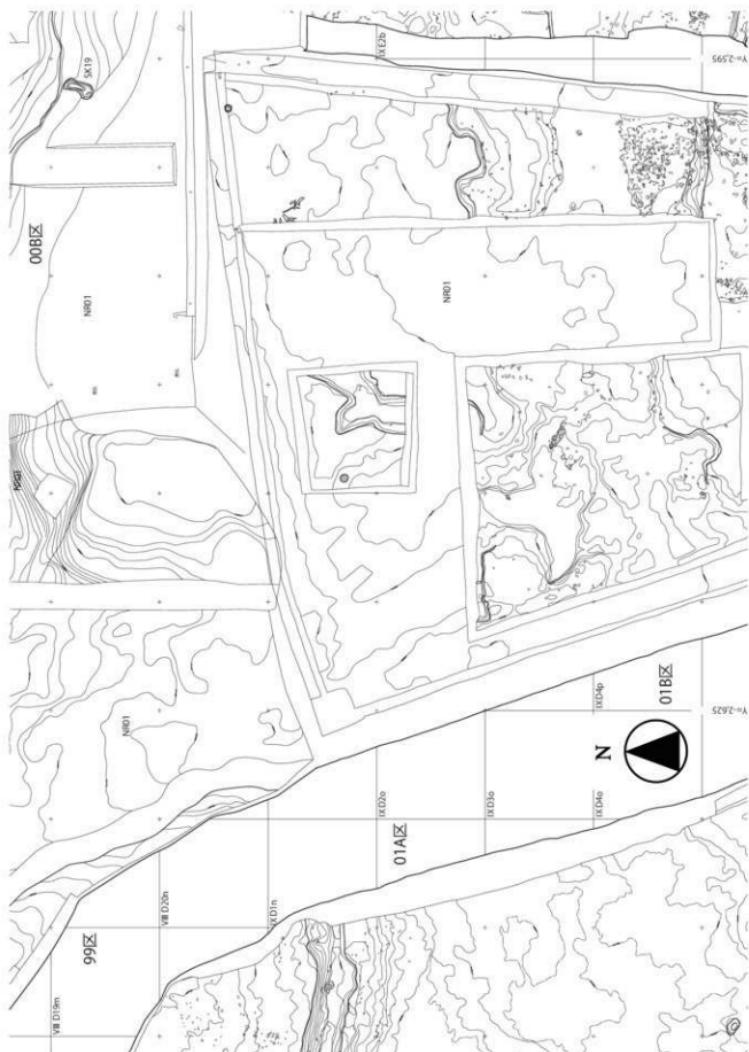


基本平面図 3



図面基本

4

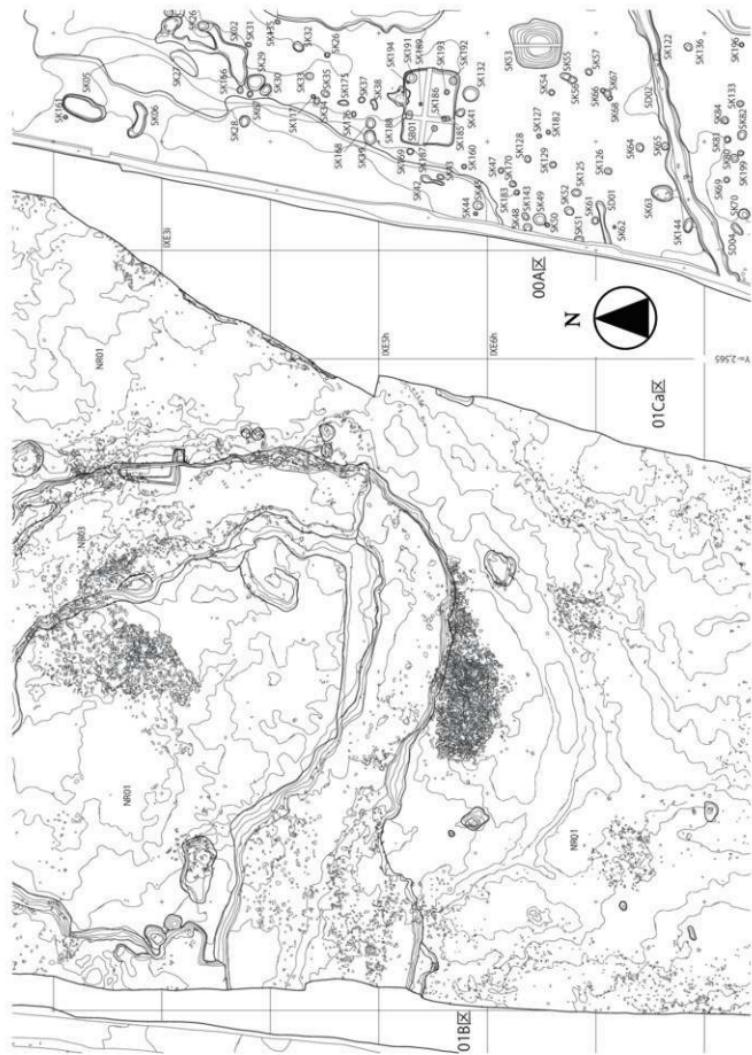


基本平面図 5

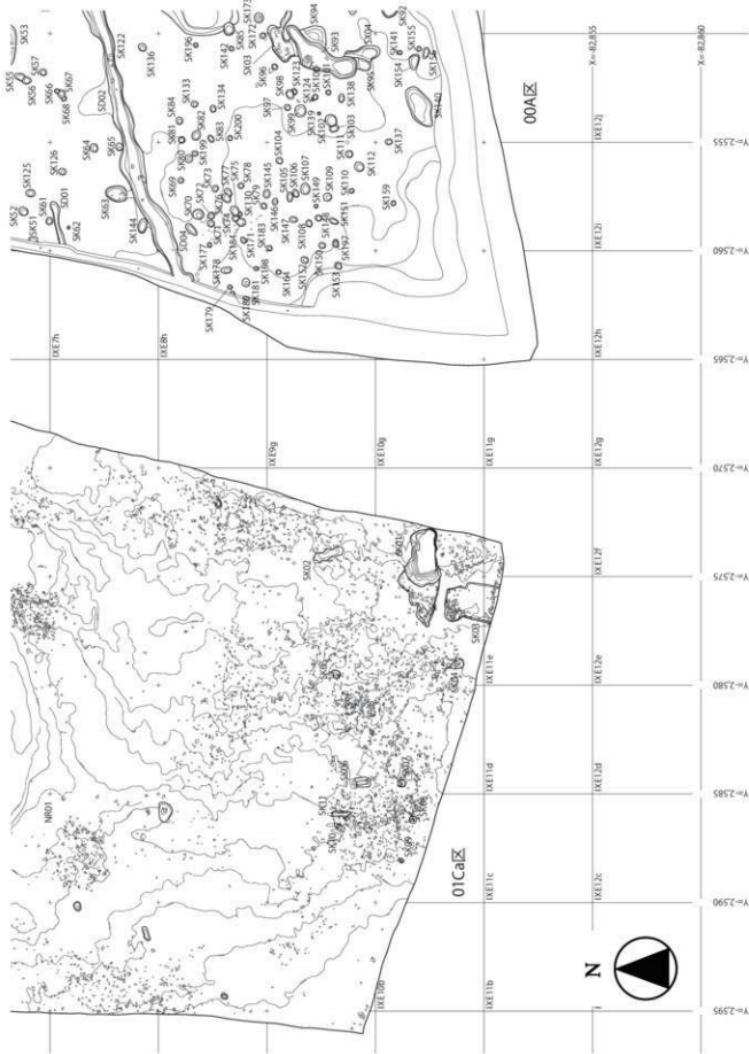


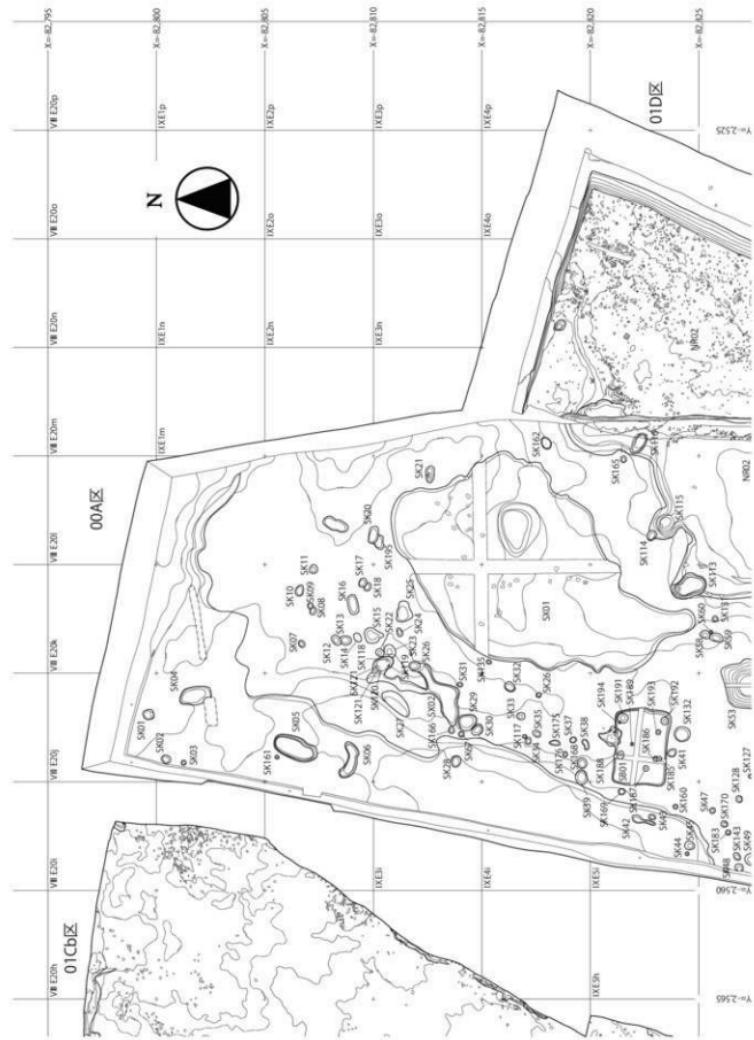


基本平面圖 7



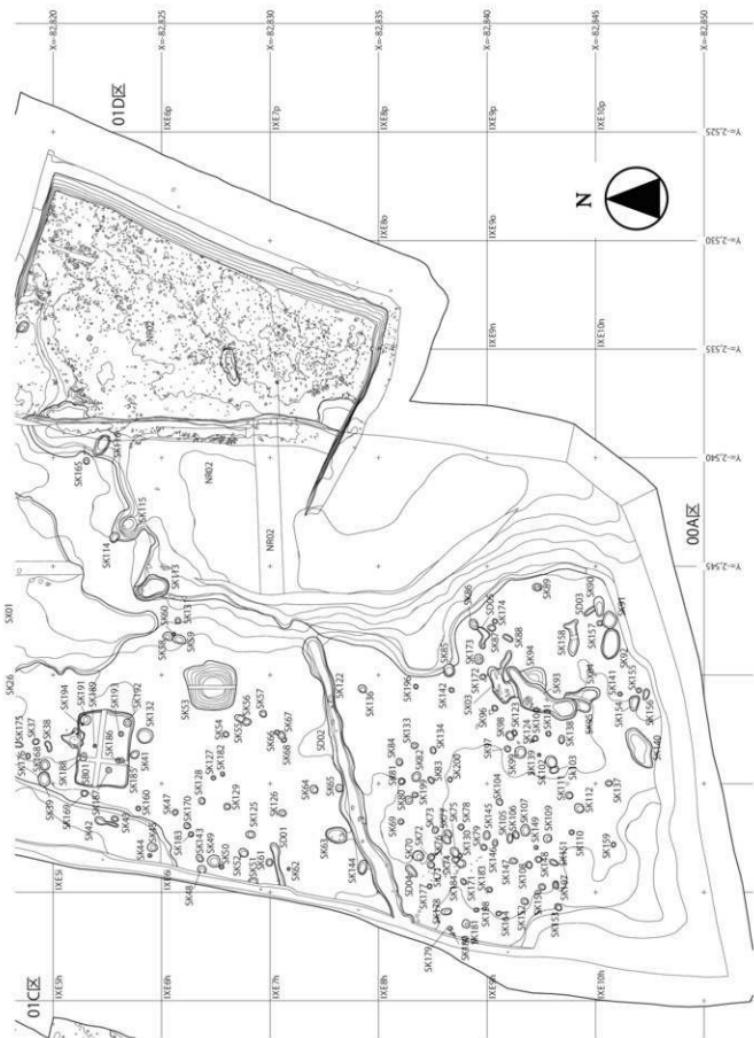
図面半井

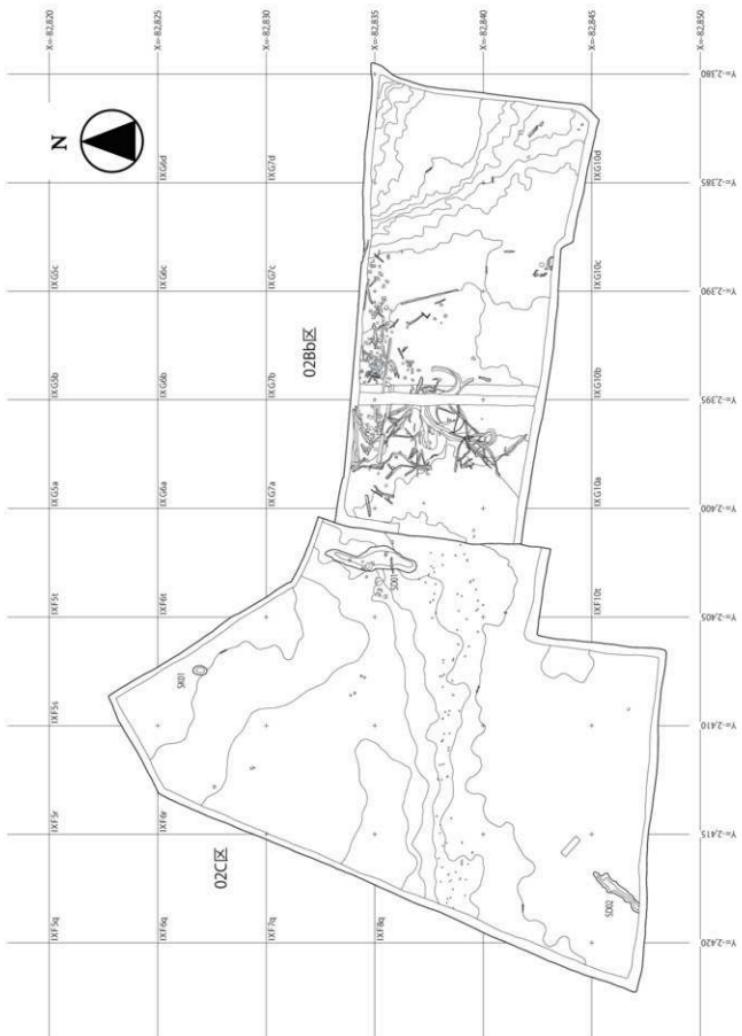




基本平面図

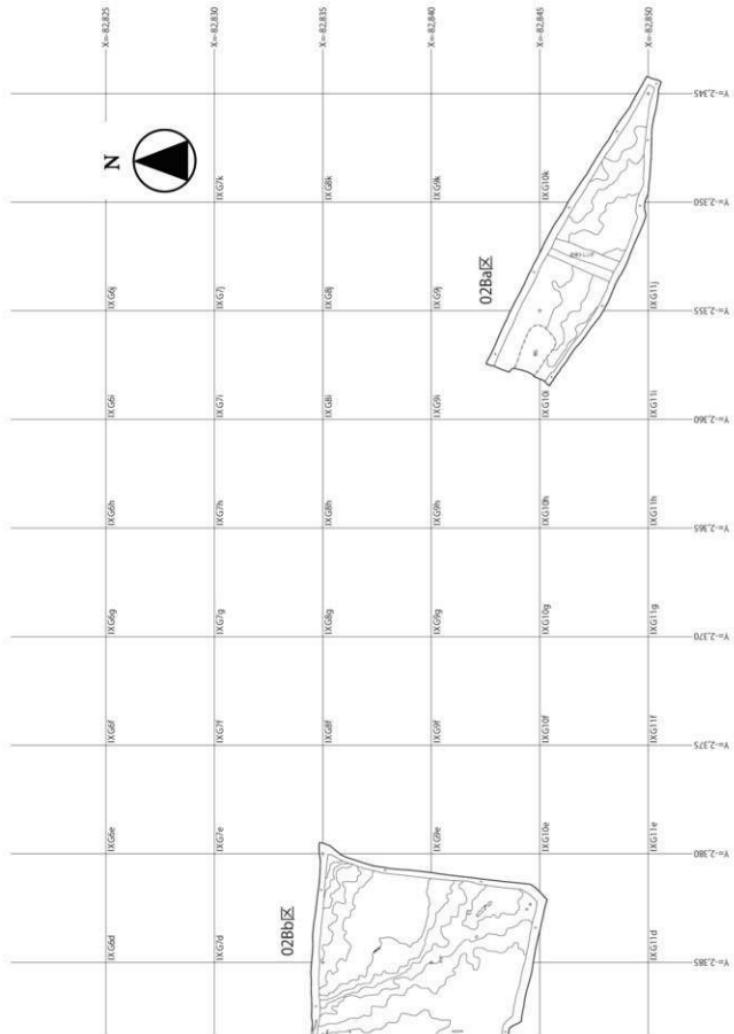
10





基本平面図

12





1,2 調査前風景
99.00.01 調査範囲周辺



3



4

99.00.01 調査範囲をのぞむ 東から
(3調査前, 4草刈り、フェンス設置時)



7

東方に桑下城跡をのぞむ 5

北東方向、現蟹川の上流 6

南西方向、丘陵端に上品野遺跡をのぞむ 7



01A 区全景 (NR01) 東から



00B 区全景 (NR01) 東から



01B 区全景 東から



01CB 区全景 (NR01,03) 南から



01Ca 区全景 (NR03) 東から



01Cb 区近景 (NR01,03) 南から



01Ca 区 磨層露出部分



01D 区全景 (NR02) 北から



16 02B 区東半全景 西から

17 自然木集中地点



18 02B 区西半全景 南から

19 杭列検出状況 東から



20 01A 区溝状落込み (SD01) 完掘状況



21 01B 区北壁土層断面

4



99 区全景北から



00A 区遠景 南西から

22

23



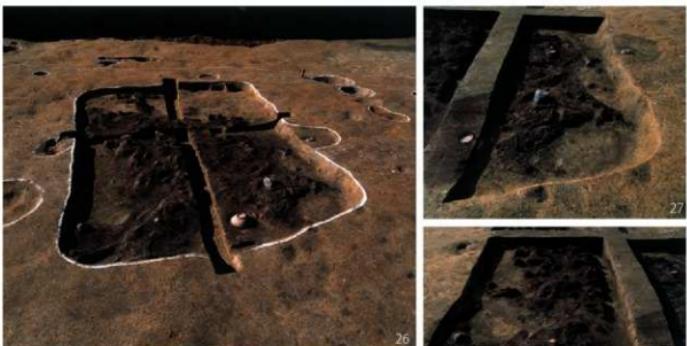
00A 区全景 北から
(中央右奥が竪穴建物、手前破線
より右側は低くなっており、その
まま湿地、河川へとつなぐ)

24



00A 区部分 東から
(中央奥が竪穴建物、その左手前
の土坑が SK53、左側に掘立柱建
物の柱穴と思われる多数の小土坑
が広がる)

25



26



27



28

竪穴建物（00A区 SB01）

26,27,28

屋根材と思われる炭化部材の
検出状況

29

完掘状況（カマド部分を除く）



29



30

31

00A区廐棄土坑（SK53） 30 遺物出土状況、31 土層断面



32



34



33

竪穴建物カマド部分（00A 区 SB01）

32 床面に分布する炭化物

33 カマド部分のトレンチ掘削

34 支脚の石材と土器器縁片 検出状況



35



37

01Ca 区土坑（SK01）

35 上層集石棲出状況、

36 下層須恵器壺、灰釉陶器出土状況

37 完掘状況



36



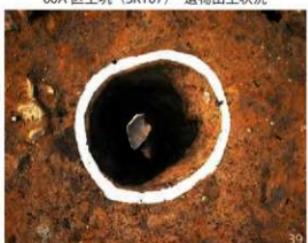
38

00A 区土坑 (SK107) 遺物出土状況



42

99 区 土器甕出土状況



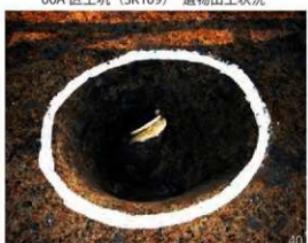
39

00A 区土坑 (SK109) 遺物出土状況



43

01Cb 区河川流路 (NR01,03) 完掘状況



40

00A 区土坑 (SK125) 遺物出土状況



44

01Cb 区河川流路 (NR03) 木質遺物集中地点



41

00A 区土坑 (SK48) 遺物出土状況



45

01Cb 区河川流路 (NR03) 出土木製品



46

01B 区河川流路 (NR01) 出土 鉄鎧



47

01B 区河川流路 (NR01) 出土 鉄鎧



48

00B 区河川流路出土 灰釉陶器平瓶



49

01Cb 区河川流路 (NR01) 出土 木製品



50

01Cb 区河川流路出土 「文室門」墨書須恵器



01Ca 区河川流路出土 墨書灰釉陶器碗



51

01Ca 区河川流路出土 古瀬戸平瓶



52

02B 区河川流路出土 自然木加工痕



54 表土掘削

55 ~ 58 作業風景

59 ,60 遺跡見学会

61 「文室門」墨書き灰釉陶器



61

60







180



177



127



33



146



238



198



240



150



33



8



227



212



228



118



137



17



123



163











愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第142集

上品野蟹川遺跡

2008年3月31日

編集・発行 財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團

愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 新日本法規出版株式会社